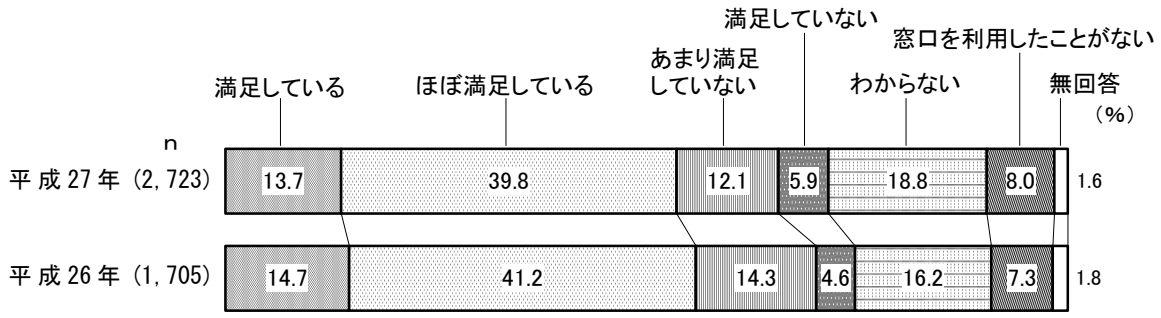
４．「八王子ビジョン2022」の施策指標の目標値に対する達成度

（１）窓口サービスの満足度

◇≪満足≫が５割強

問20　あなたは、市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足していますか。（○は１つだけ）

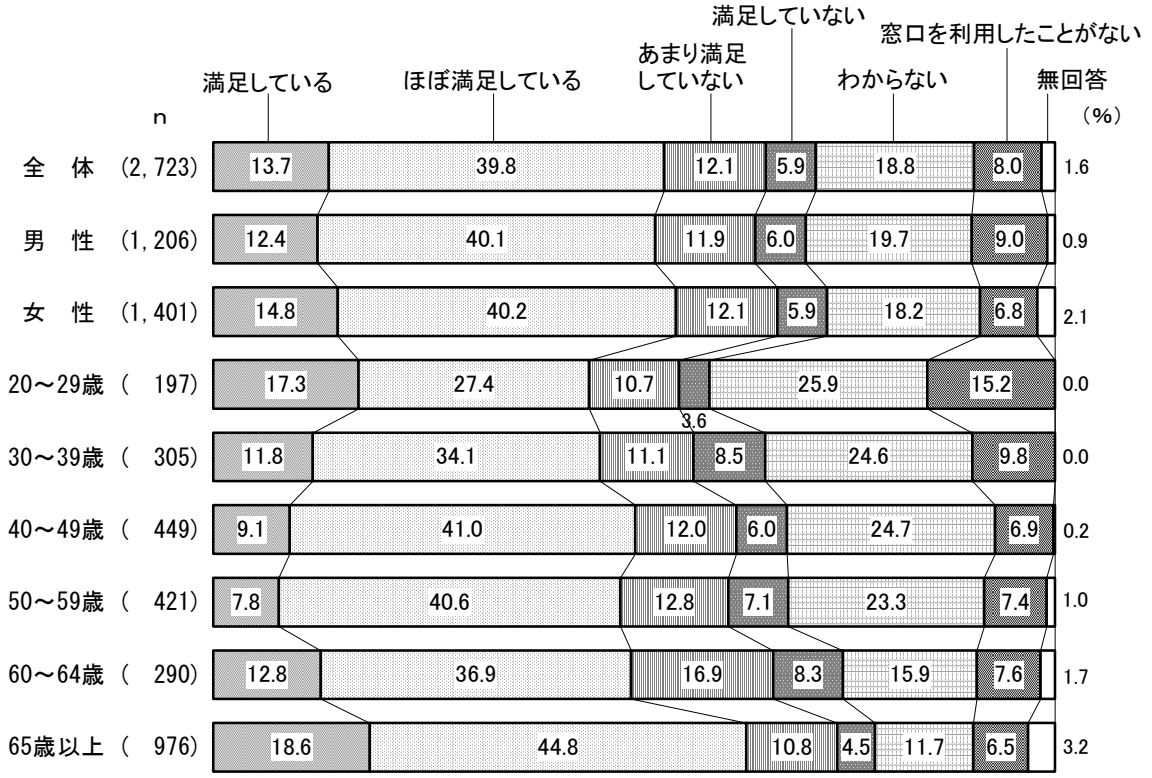
図４－１－１　窓口サービスの満足度－全体、経年比較



市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足しているか聞いたところ、「満足している」（13.7%）と「ほぼ満足している」（39.8%）を合わせた≪満足≫（53.5%）は５割強となっている。一方、「あまり満足していない」（12.1%）と「満足していない」（5.9%）を合わせた≪不満足≫（18.0%）は２割近くとなっている。

前回調査と比較すると、≪満足≫（53.5%）は2.4ポイント減少している。（図４－１－１）

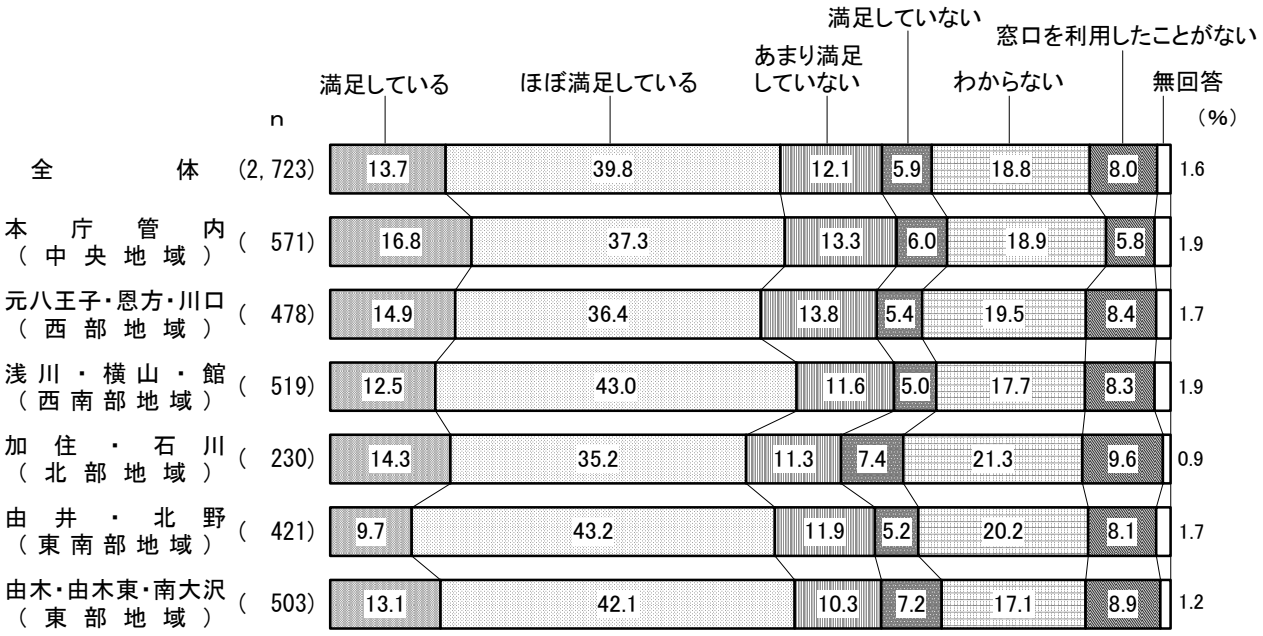
図４－１－２　窓口サービスの満足度－性別・年齢別



性別にみると、≪満足≫は女性（55.0%）が男性（52.5%）より2.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、≪満足≫は65歳以上（63.4%）で６割強と多くなっている。一方、≪不満≫は60～64歳（25.2%）で２割台半ばと多くなっている。（図４－１－２）

図４－１－３　窓口サービスの満足度－居住地域別



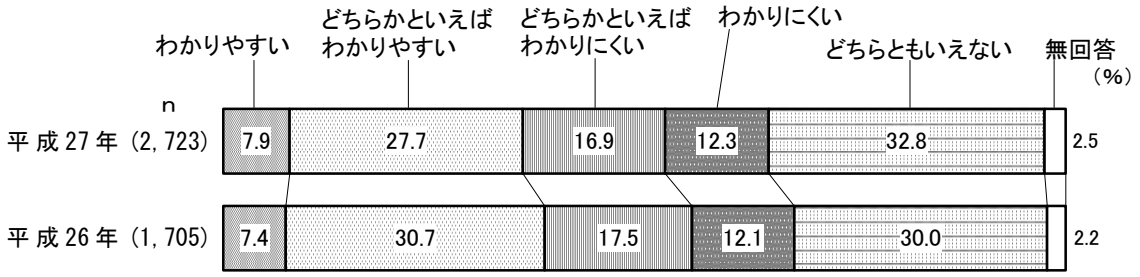
居住地域別にみると、≪満足≫は浅川・横山・館（西南部地域）（55.5%）で最も多く５割台半ばとなっている。（図４－１－３）

（２）市政情報のわかりやすさ

◇≪わかりやすい≫が３割台半ば

問21　市政情報が適切にわかりやすく提供されていると思いますか。（○は１つだけ）

図４－２－１　市政情報のわかりやすさ－全体、経年比較

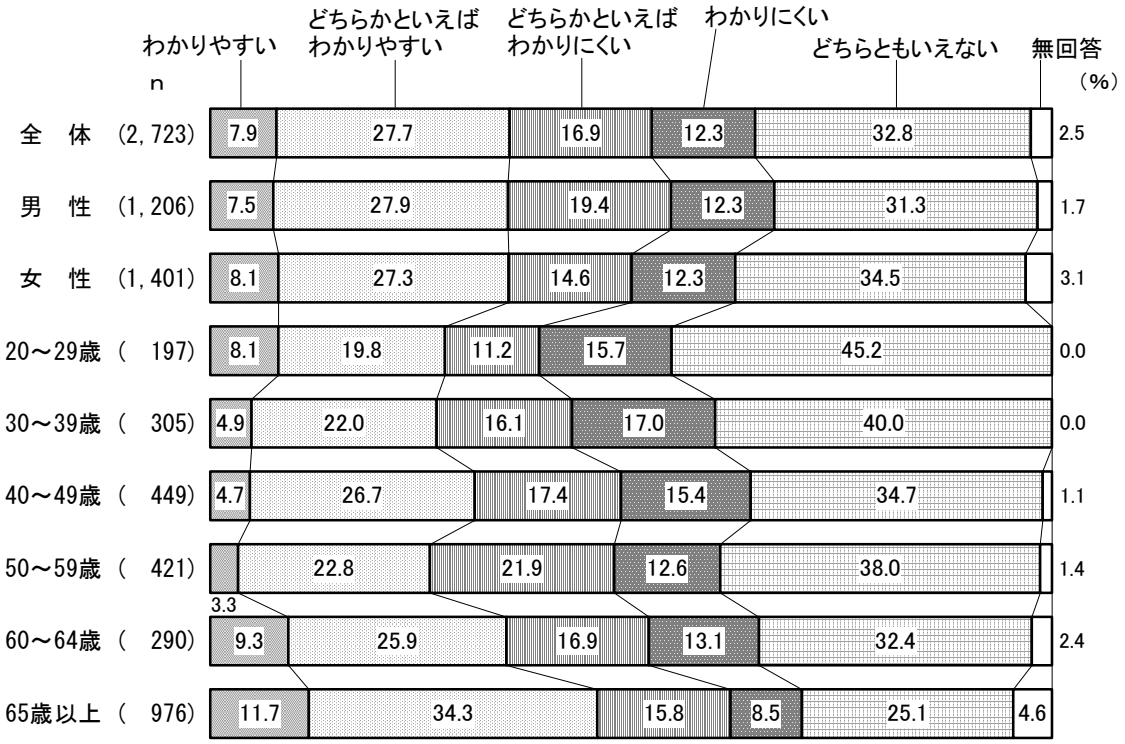


市政情報が適切にわかりやすく提供されていると思うか聞いたところ、「わかりやすい」（7.9%）と「どちらかといえばわかりやすい」（27.7%）を合わせた≪わかりやすい≫（35.6%）は３割台半ばとなっている。「どちらともいえない」（32.8%）は３割強で、「どちらかといえばわかりにくい」（16.9%）と「わかりにくい」（12.3%）を合わせた≪わかりにくい≫（29.2%）は３割弱となっている。

前回調査と比較すると、≪わかりやすい≫（35.6%）は2.5ポイント減少している。

（図４－２－１）

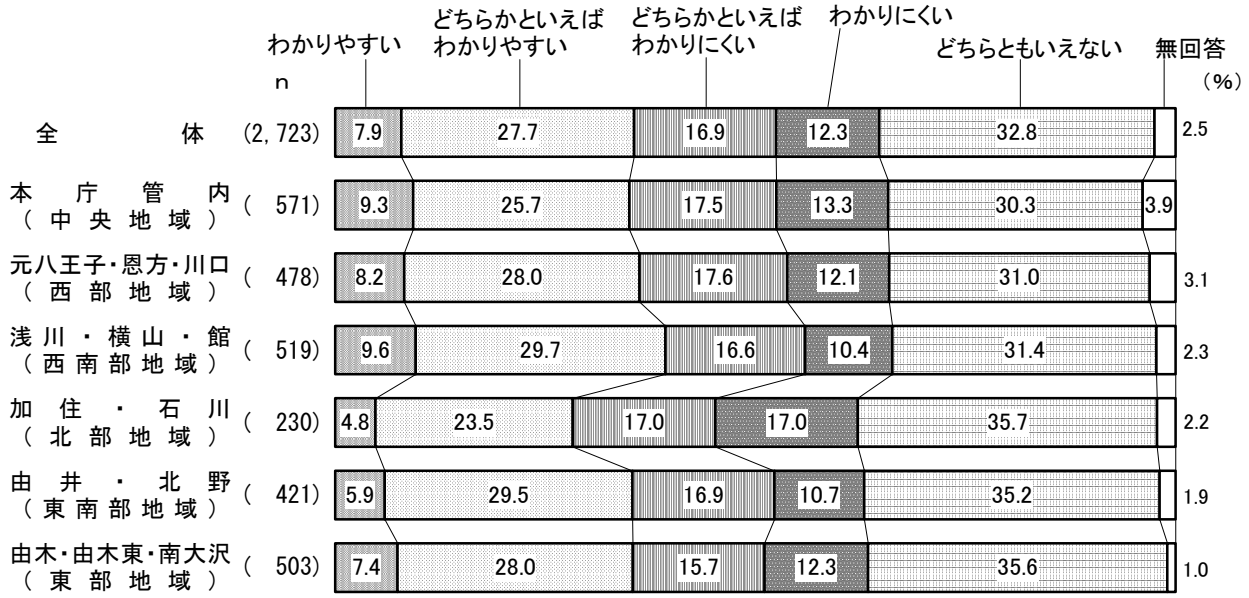
図４－２－２　市政情報のわかりやすさ－性別・年齢別



性別にみると、≪わかりにくい≫は男性（31.7%）が女性（26.9%）より4.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、≪わかりやすい≫は65歳以上（46.0%）で５割近くと多くなっている。一方、≪わかりにくい≫は50～59歳（34.5%）で３割台半ばと多くなっている。（図４－２－２）

図４－２－３　市政情報のわかりやすさ－居住地域別



居住地域別にみると、≪わかりやすい≫は浅川・横山・館（西南部地域）（39.3%）で４割弱と多くなっている。一方、≪わかりにくい≫は加住・石川（北部地域）（34.0%）で３割台半ばと多くなっている。（図４－２－３）

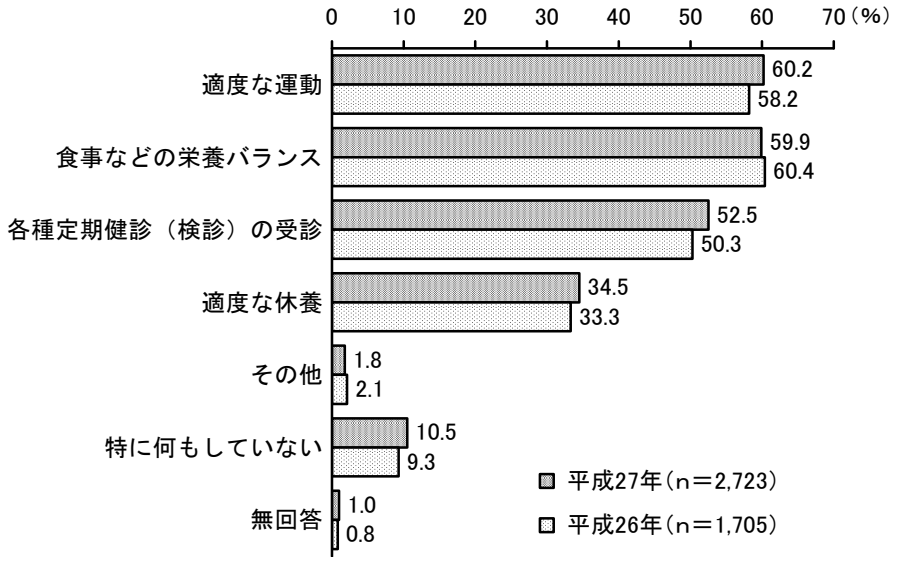
（３）健康のために心がけていること

◇「適度な運動」が約６割

問22　あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけていることはどれですか。

（○はいくつでも）

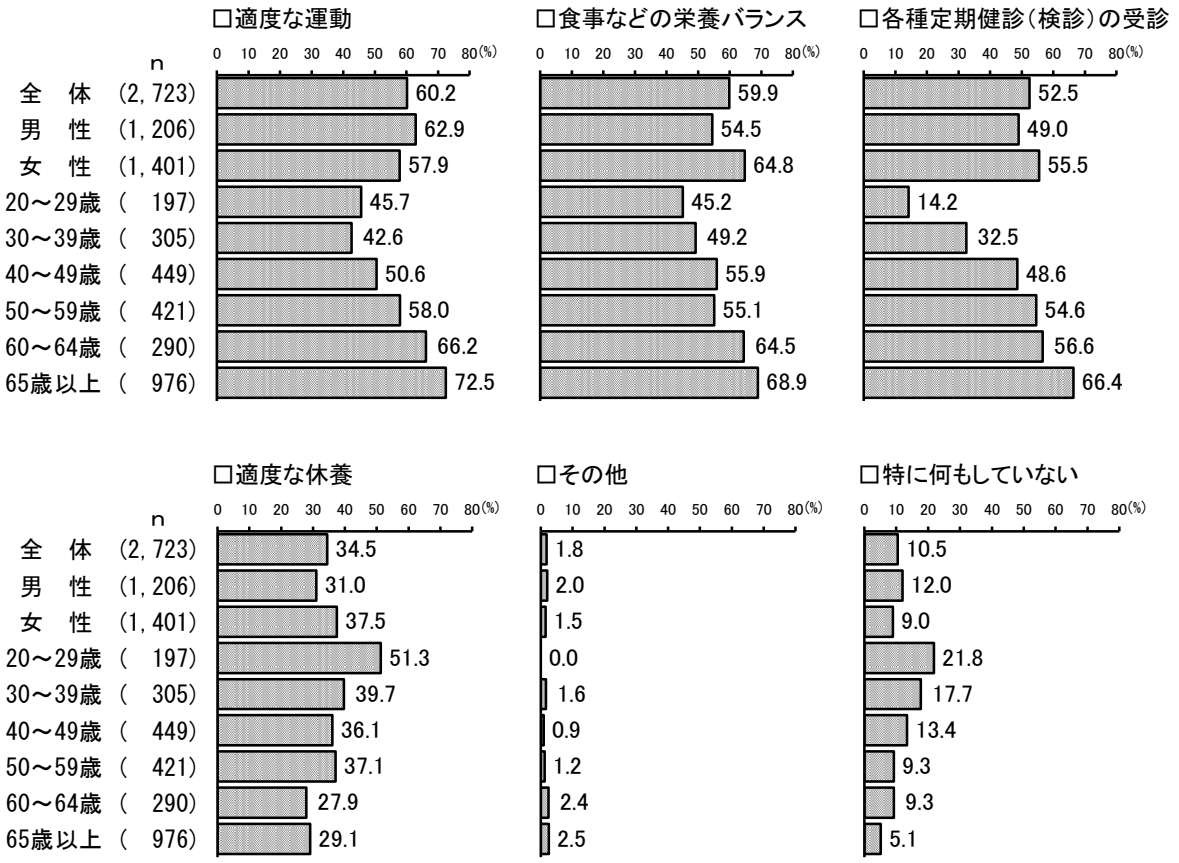
図４－３－１　健康のために心がけていること－全体、経年比較



健康の維持・増進のために、自ら心がけていることを聞いたところ、「適度な運動」（60.2%）が最も多く約６割となっている。次いで「食事などの栄養バランス」（59.9%）、「各種定期健診（検診）の受診」（52.5%）、「適度な休養」（34.5%）などの順となっている。

前回調査と比較すると、「各種定期健診（検診）の受診」（52.5%）は2.2ポイント増加している。「適度な運動」（60.2%）は2.0ポイント増加している。（図４－３－１）

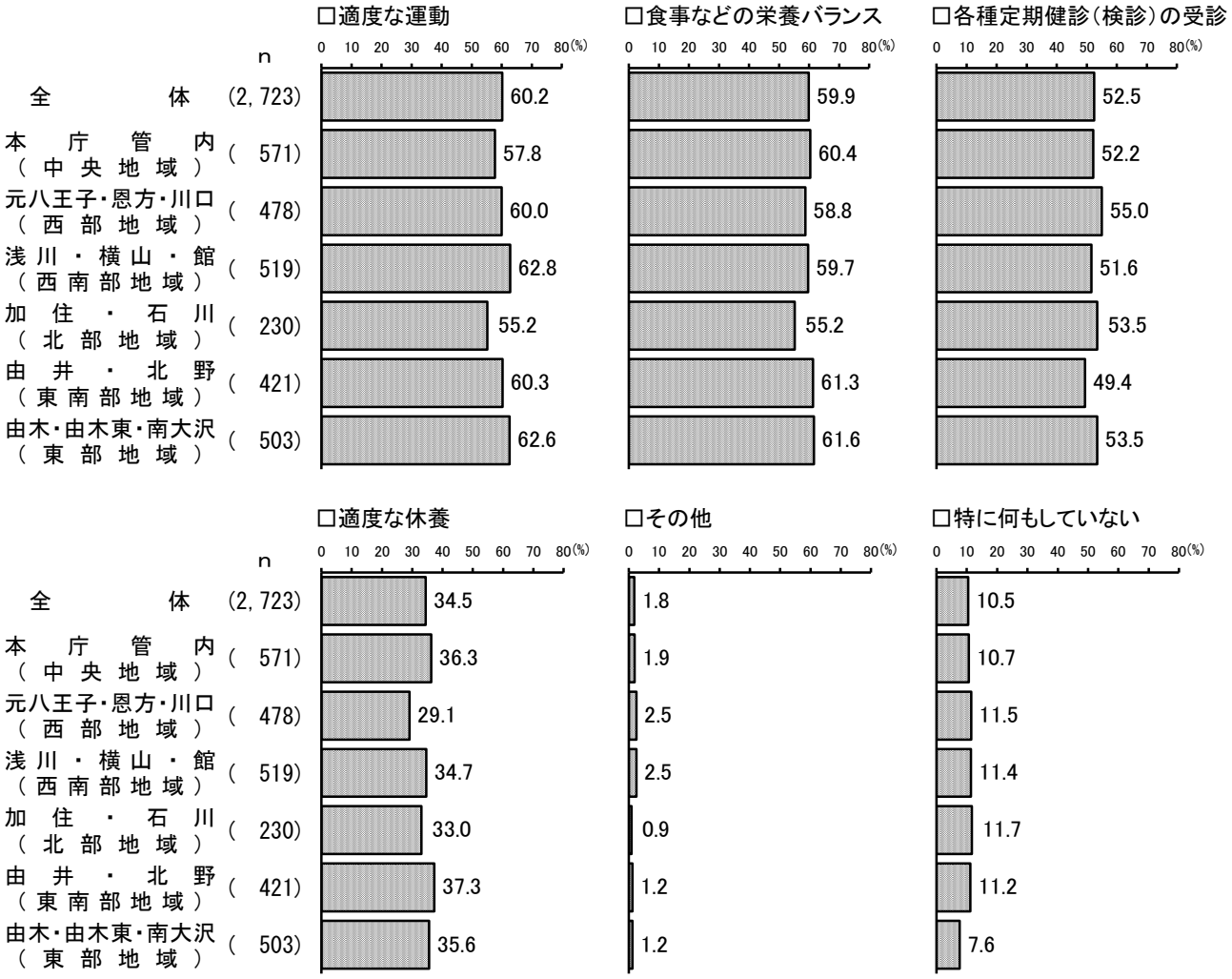
図４－３－２　健康のために心がけていること－性別・年齢別



性別にみると、「食事などの栄養バランス」は女性（64.8%）が男性（54.5%）より10.3ポイント高くなっている。「各種定期健診（検診）の受診」は女性（55.5%）が男性（49.0%）より6.5ポイント高くなっている。「適度な休養」は女性（37.5%）が男性（31.0%）より6.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「適度な運動」は65歳以上（72.5%）で７割強と多くなっている。「各種定期健診（検診）の受診」は20～29歳（14.2%）で１割台半ばと少なくなっている。「適度な休養」は20～29歳（51.3%）で５割強と多くなっている。（図４－３－２）

図４－３－３　健康のために心がけていること－居住地域別



居住地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図４－３－３）

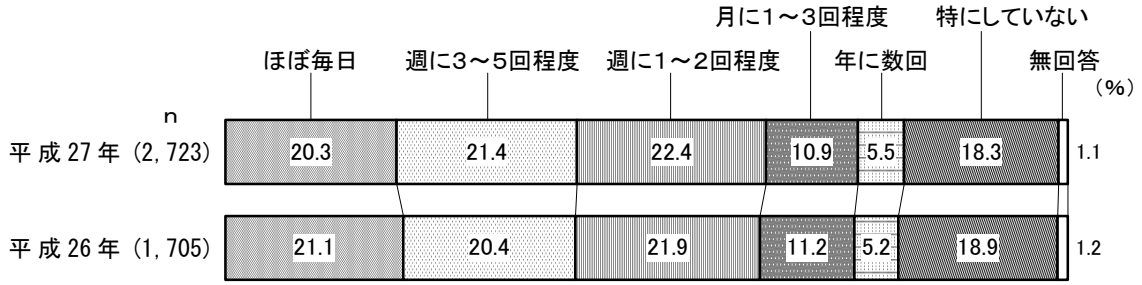
（４） １年間の運動頻度

◇≪週１回以上≫が６割台半ば

問23　あなたは、この１年間にどれくらいの頻度で運動をしましたか。
複数の運動を行っている場合は、その合計数をお答えください。（○は１つだけ）

※運動には、野外活動（登山やハイキングなど）や健康の維持・増進のために通勤時の自転車・徒歩、散歩（散策、ペットの散歩を含む）などで１日合計30分以上行うものも含めます。

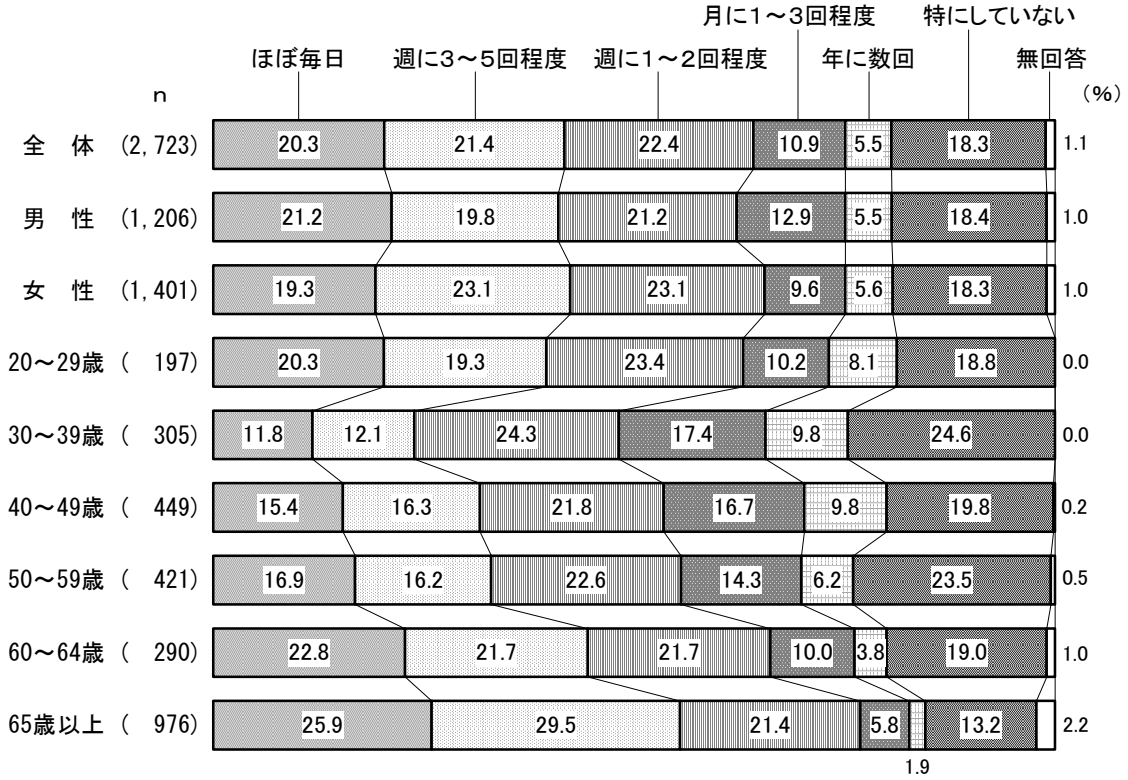
図４－４－１　１年間の運動頻度－全体、経年比較



この１年間にどれくらいの頻度で運動をしたか聞いたところ、「ほぼ毎日」（20.3%）、「週に３～５回程度」（21.4%）、「週に１～２回程度」（22.4%）の３つを合わせた≪週１回以上≫（64.1%）は６割台半ばとなっている。「月に１～３回程度」（10.9%）が約１割で、「特にしていない」（18.3%）は２割近くとなっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。（図４－４－１）

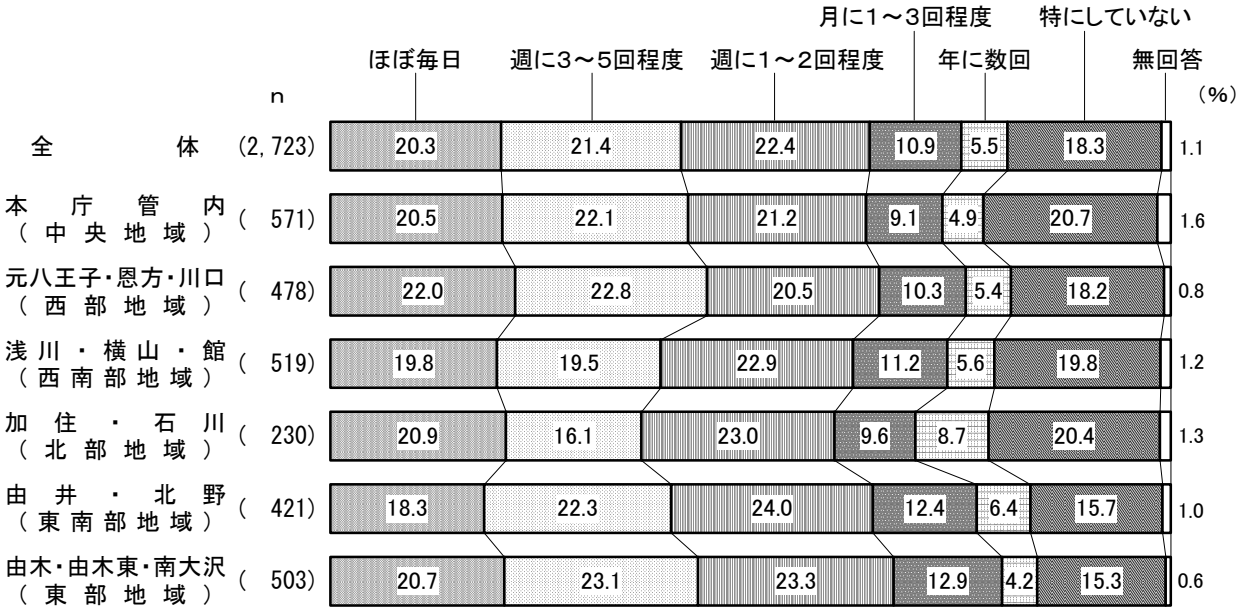
図４－４－２　１年間の運動頻度－性別・年齢別



性別にみると、≪週１回以上≫は女性（65.5%）が男性（62.2%）より3.3ポイント高くなっている。

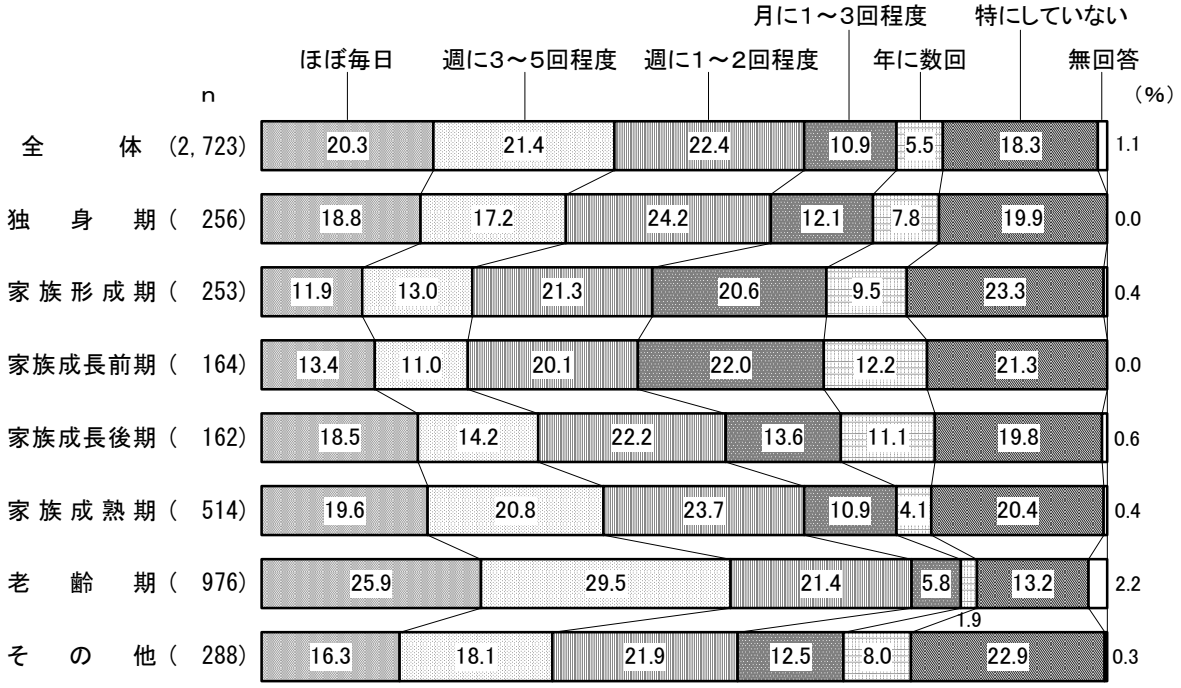
年齢別にみると、≪週１回以上≫は65歳以上（76.8%）で８割近くと多くなっている。一方、「特にしていない」は30～39歳（24.6%）で２割台半ばと多くなっている。（図４－４－２）

図４－４－３　１年間の運動頻度－居住地域別



居住地域別にみると、≪週１回以上≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（67.1%）で７割近くと多くなっている。（図４－４－３）

図４－４－４　１年間の運動頻度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、≪週１回以上≫は老齢期（76.8%）で８割近くと多くなっている。一方、家族成長前期（44.5%）では４割台半ばにとどまっている。（図４－４－４）

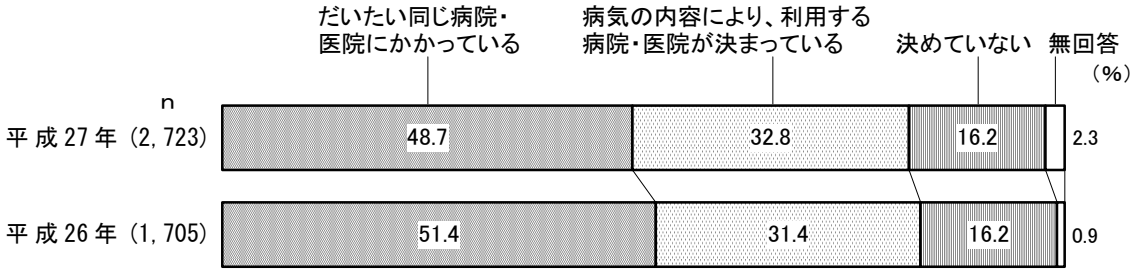
（５）かかりつけの医療機関の有無

◇「だいたい同じ病院・医院にかかっている」が５割近く

問24　あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。（○は１つだけ）

※「かかりつけの医療機関」とは・・・
　日常的な診療や健康管理等を行ってくれる身近な医療機関のことで、ふだんの健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査や治療が必要かどうかの判断、紹介などをしてくれます。

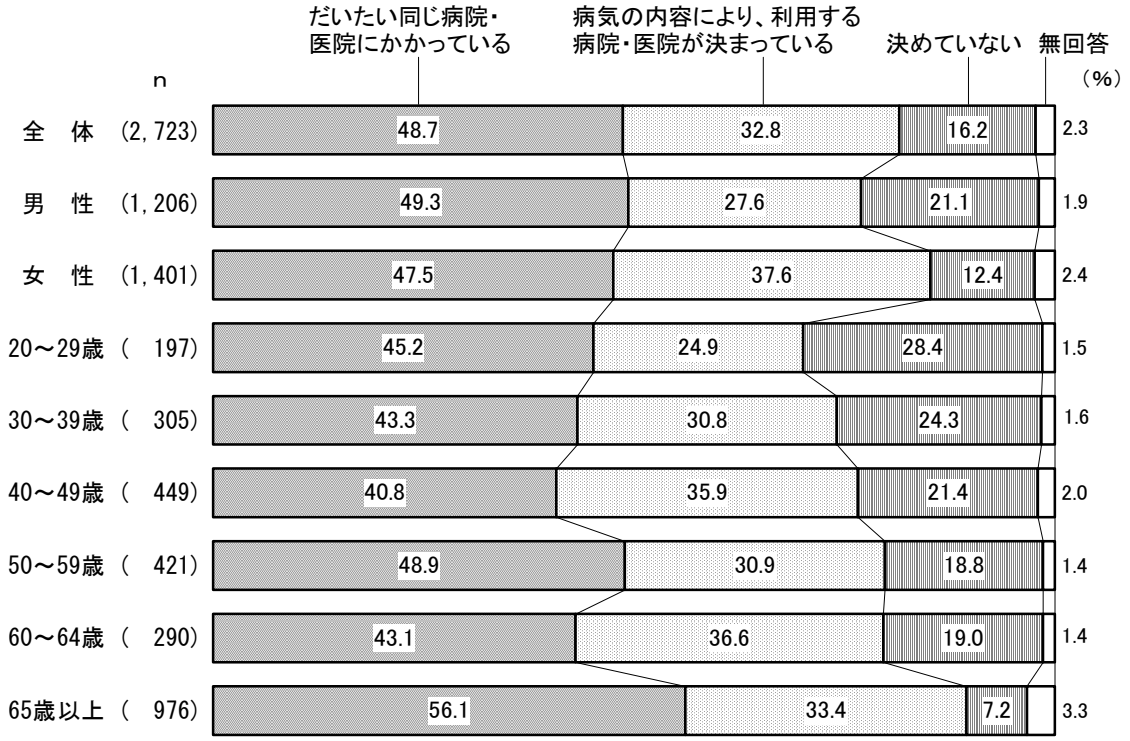
図４－５－１　かかりつけの医療機関の有無－全体、経年比較



かかりつけの医療機関を決めているか聞いたところ、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」（48.7%）が最も多く５割近くとなっている。「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」（32.8%）を合わせた≪かかりつけの医療機関を決めている≫（81.5%）は８割強となっている。一方、「決めていない」（16.2%）は２割近くとなっている。

前回調査と比較すると、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」（48.7%）は2.7ポイント減少している。（図４－５－１）

図４－５－２　かかりつけの医療機関の有無－性別・年齢別

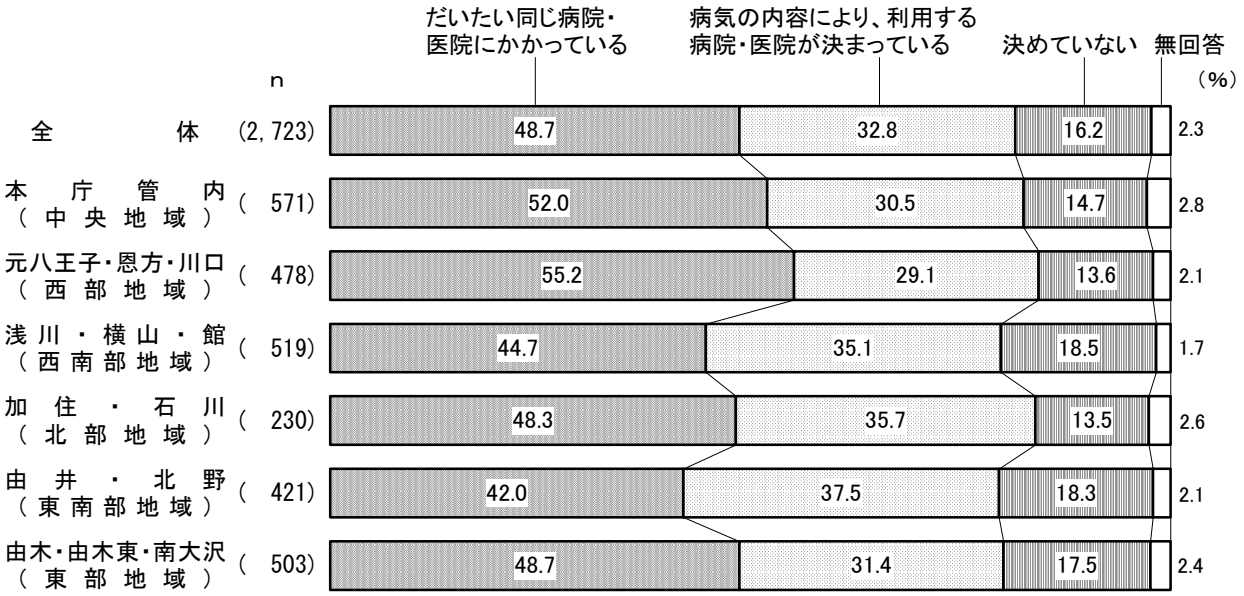


性別にみると、「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」は女性（37.6%）が男性（27.6%）より10.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」は65歳以上（56.1%）で６割近くと多くなっている。「決めていない」は20～29歳（28.4%）で３割近くと多くなっている。

（図４－５－２）

図４－５－３　かかりつけの医療機関の有無－居住地域別



居住地域別にみると、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（55.2%）で５割台半ばと多くなっている。「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」は由井・北野（東南部地域）（37.5%）で４割近くと多くなっている。（図４－５－３）

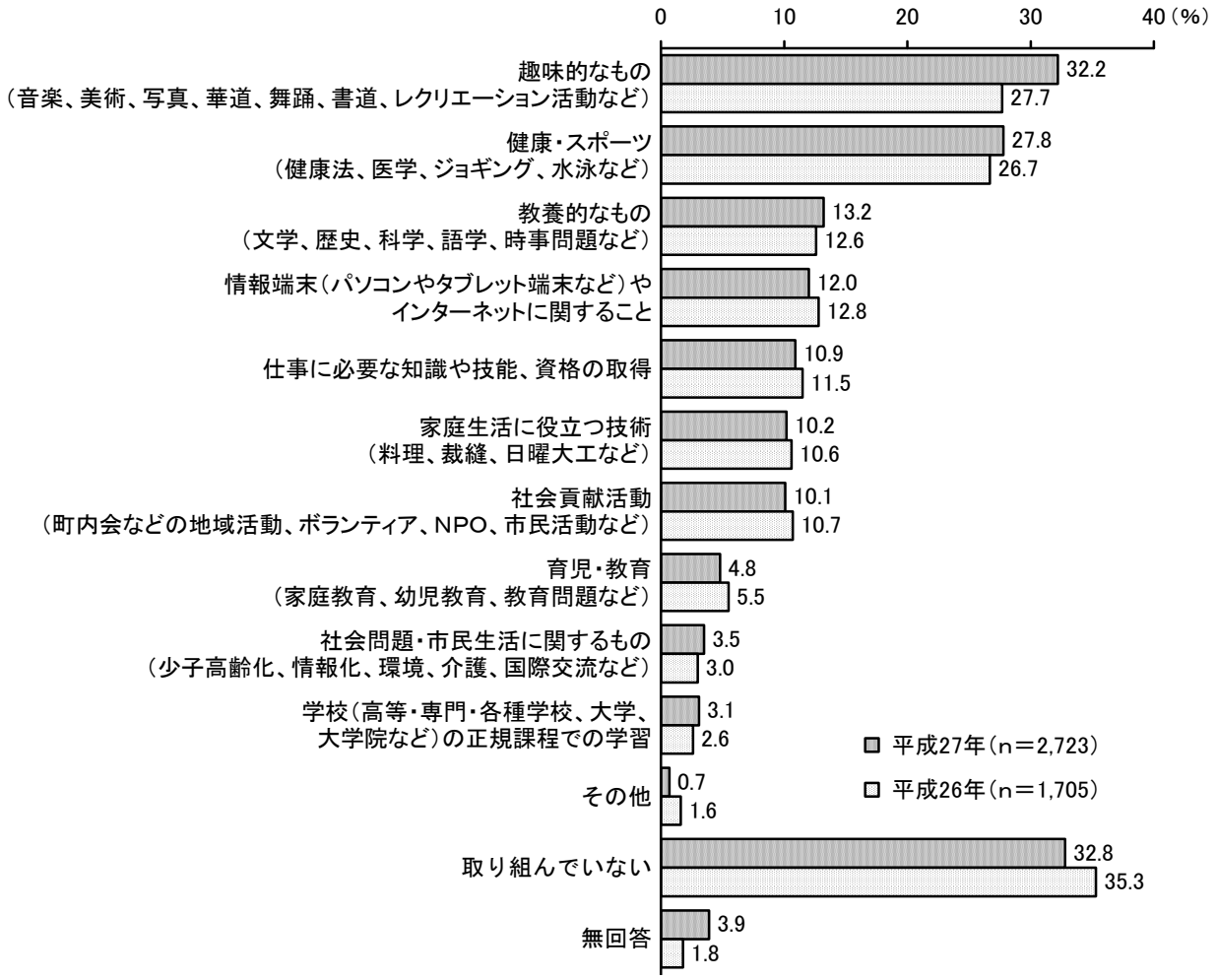
（６） １年間に取り組んだ生涯学習活動

◇「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」が3割強

問25　あなたはこの１年間に、次のうちどのような生涯学習活動に取り組みましたか。

（○はいくつでも）

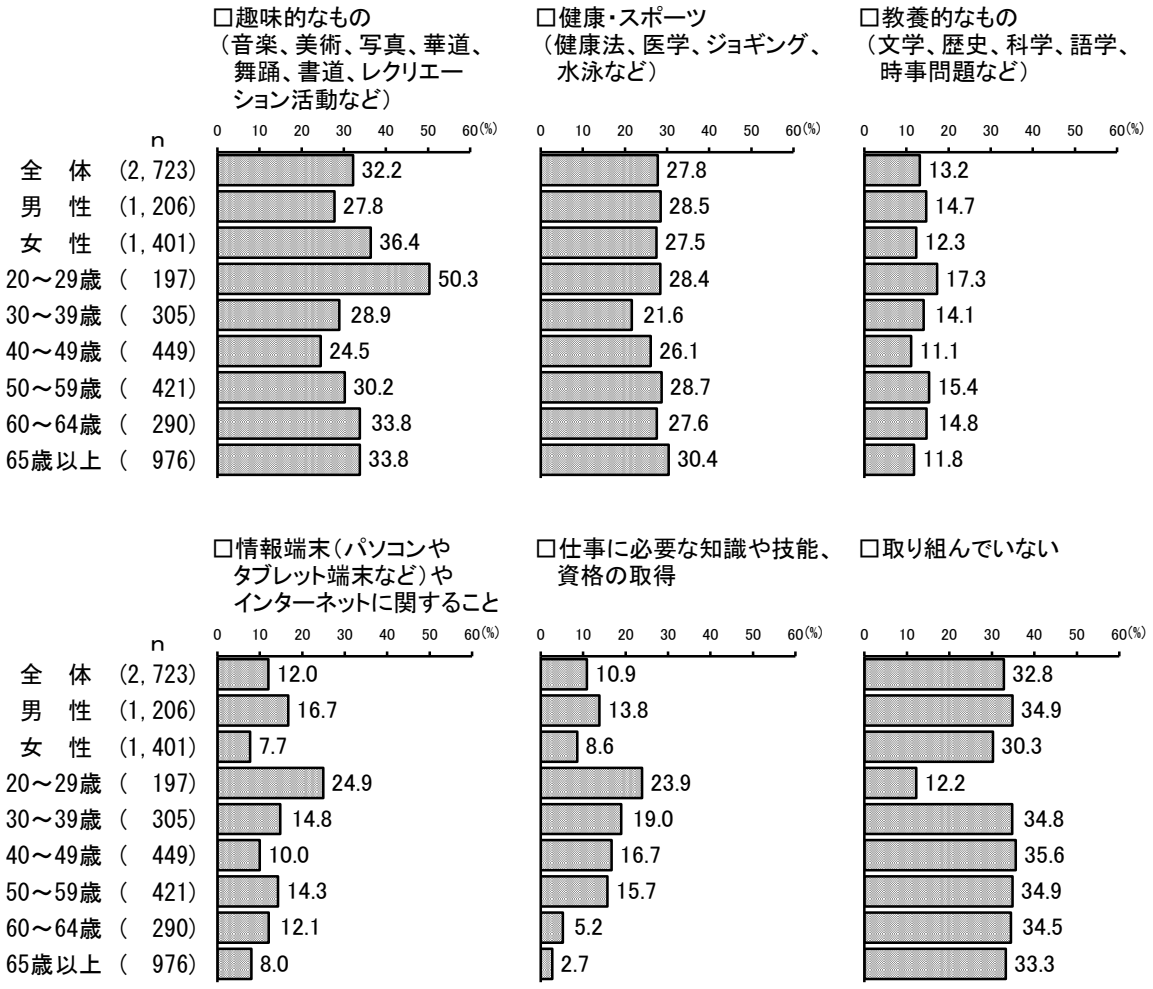
図４－６－１　１年間に取り組んだ生涯学習活動－全体、経年比較



この１年間に取り組んだ生涯学習活動を聞いたところ、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」（32.2%）が３割強となっている。次いで「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」（27.8%）、「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、時事問題など）」（13.2%）、「情報端末（パソコンやタブレット端末など）やインターネットに関すること」（12.0%）などの順となっている。

前回調査と比較すると、「趣味的なもの」（32.2%）は4.5ポイント増加している。「取り組んでいない」（32.8%）は2.5ポイント減少している。（図４－６－１）

図４－６－２　１年間に取り組んだ生涯学習活動－性別・年齢別（上位５位＋「取り組んでいない」）

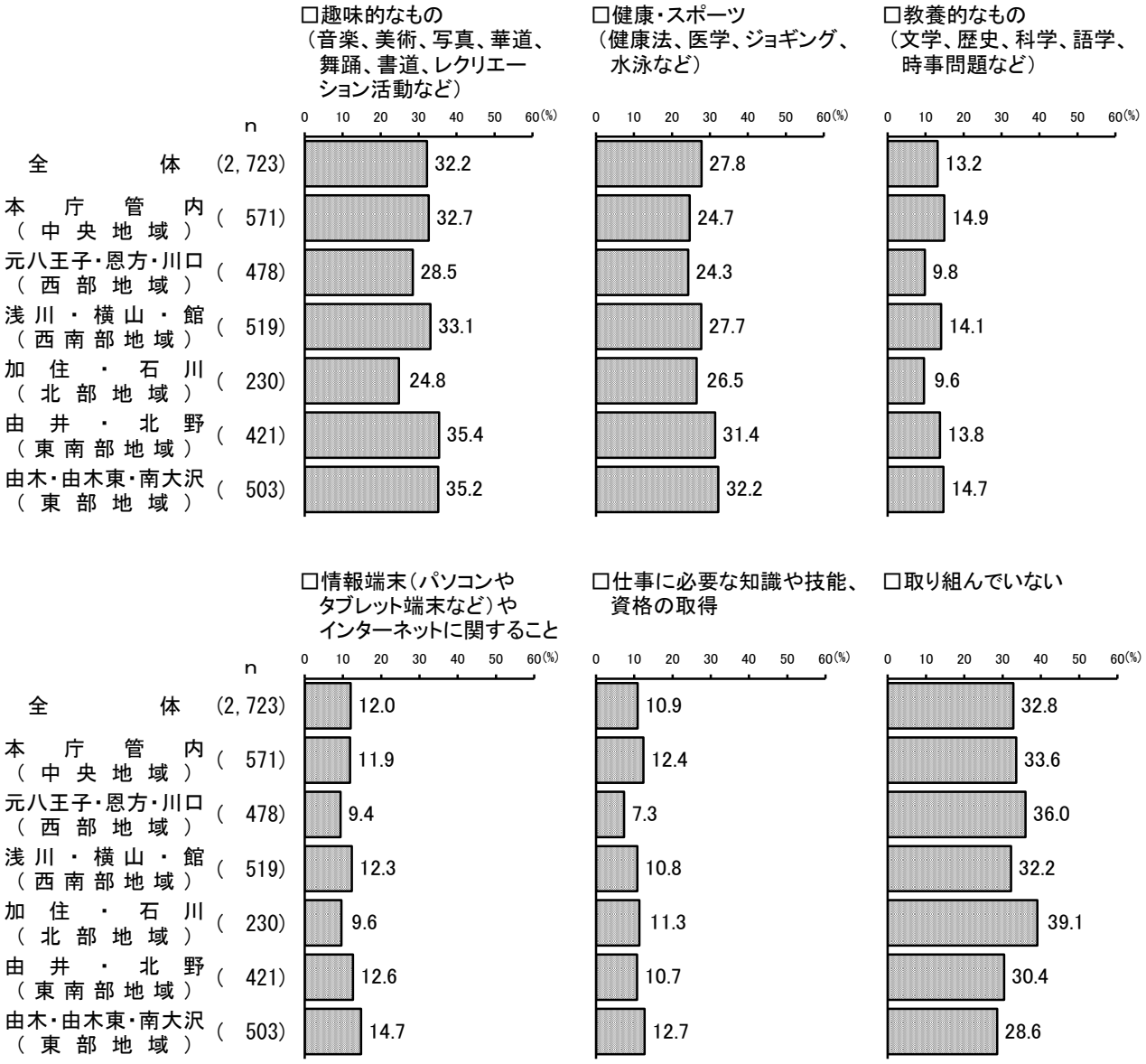


性別にみると、「趣味的なもの」は女性（36.4%）が男性（27.8%）より8.6ポイント高くなっている。「情報端末やインターネットに関すること」は男性（16.7%）が女性（7.7%）より9.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「趣味的なもの」は20～29歳（50.3%）で約５割と多くなっている。「情報端末やインターネットに関すること」は20～29歳（24.9%）で２割台半ばと多くなっている。「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」は20～29歳（23.9%）で２割強と多くなっている。

（図４－６－２）

図４－６－３　１年間に取り組んだ生涯学習活動－居住地域別（上位５位＋「取り組んでいない」）



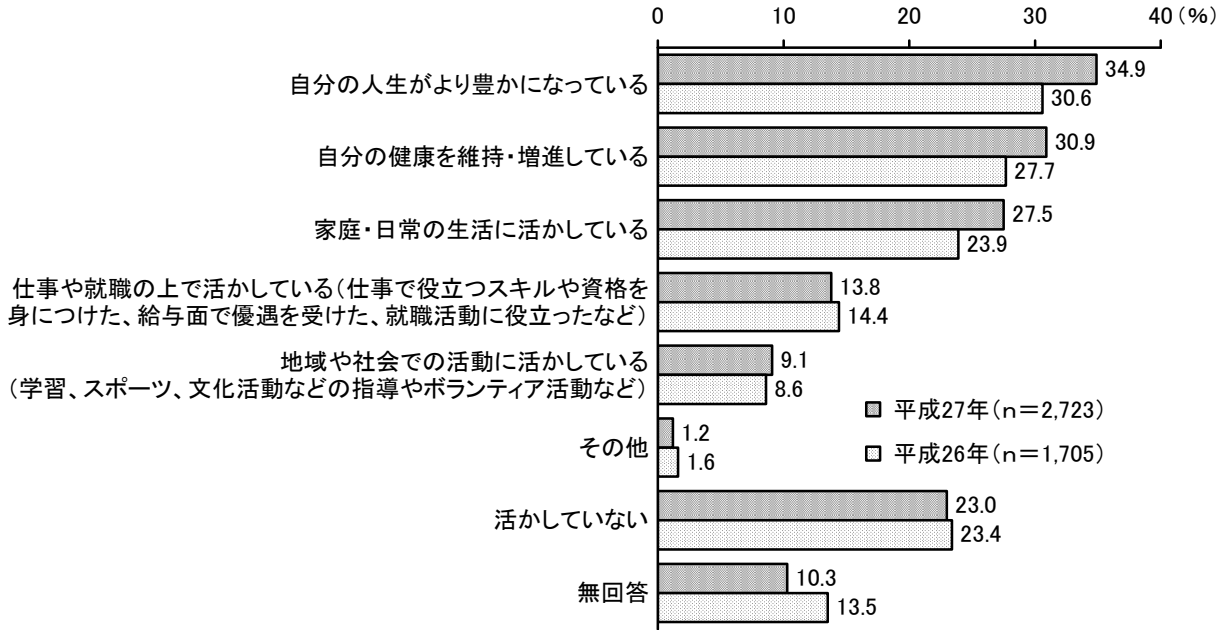
居住地域別にみると、「健康・スポーツ」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（32.2%）で最も多く３割強となっている。「取り組んでいない」は加住・石川（北部地域）（39.1%）で４割弱と多くなっている。（図４－６－３）

（７）知識や技能、経験の活かし方

◇「自分の人生がより豊かになっている」が３割台半ば

問26　あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしていますか。（○はいくつでも）

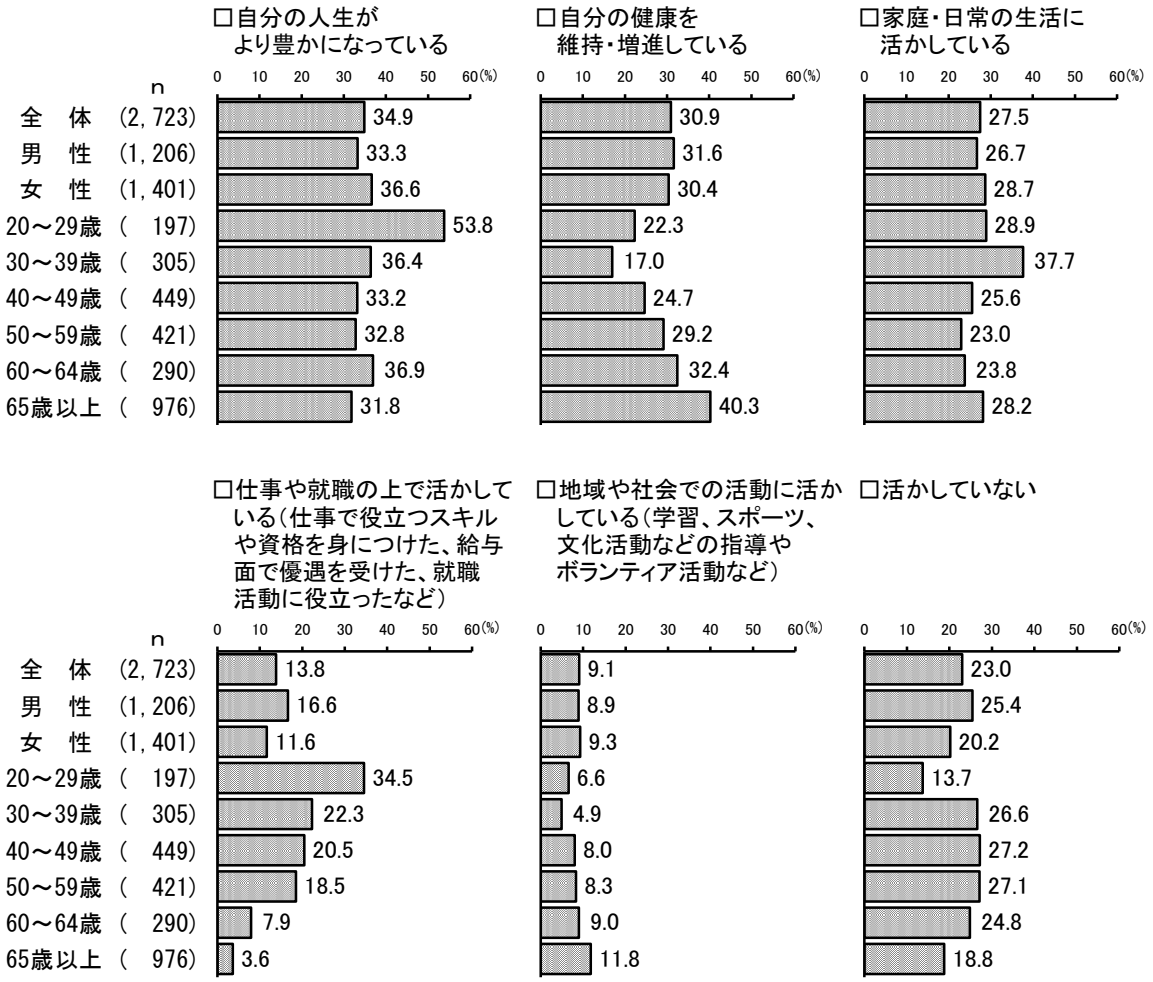
図４－７－１　知識や技能、経験の活かし方－全体、経年比較



生涯学習を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしているか聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」（34.9%）が最も多く３割台半ばとなっている。次いで「自分の健康を維持・増進している」（30.9%）、「家庭・日常の生活に活かしている」（27.5%）、「仕事や就職の上で活かしている（仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど）」（13.8%）などの順となっている。

前回調査と比較すると、「自分の人生がより豊かになっている」（34.9%）は4.3ポイント増加している。「家庭・日常の生活に活かしている」（27.5%）は3.6ポイント増加している。「自分の健康を維持・増進している」（30.9%）は3.2ポイント増加している。（図４－７－１）

図４－７－２　知識や技能、経験の活かし方－性別・年齢別（上位５位＋「活かしていない」）

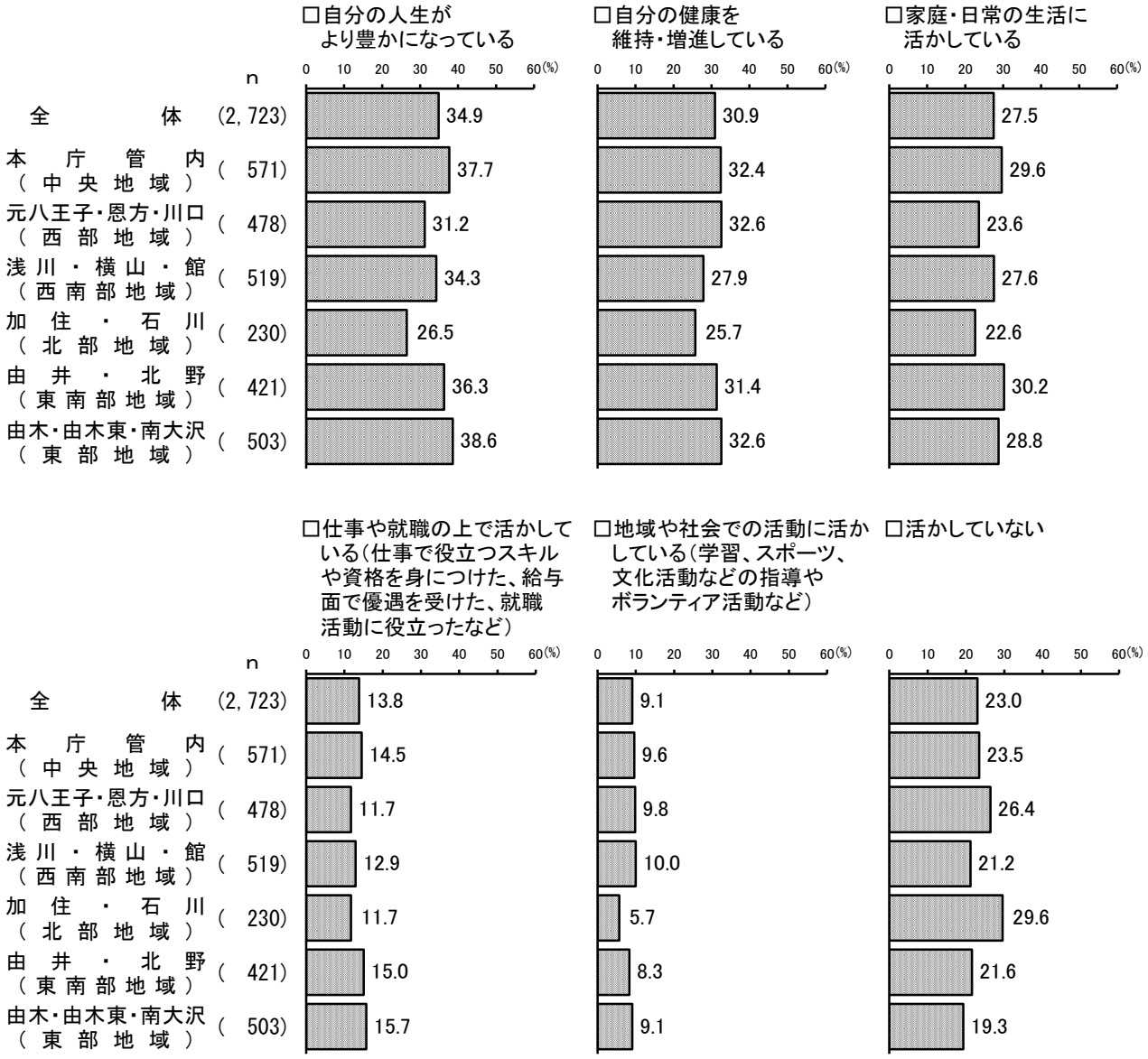


性別にみると、「仕事や就職の上で活かしている」は男性（16.6%）が女性（11.6%）より5.0ポイント高くなっている。「活かしていない」は男性（25.4%）が女性（20.2%）より5.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は20～29歳（53.8%）で５割強と多くなっている。「自分の健康を維持・増進している」は65歳以上（40.3%）で約４割と多くなっている。「家庭・日常の生活に活かしている」は30～39歳（37.7%）で４割近くと多くなっている。「仕事や就職の上で活かしている」は20～29歳（34.5%）で３割台半ばと多くなっている。

（図４－７－２）

図４－７－３　知識や技能、経験の活かし方－居住地域別（上位５位＋「活かしていない」）



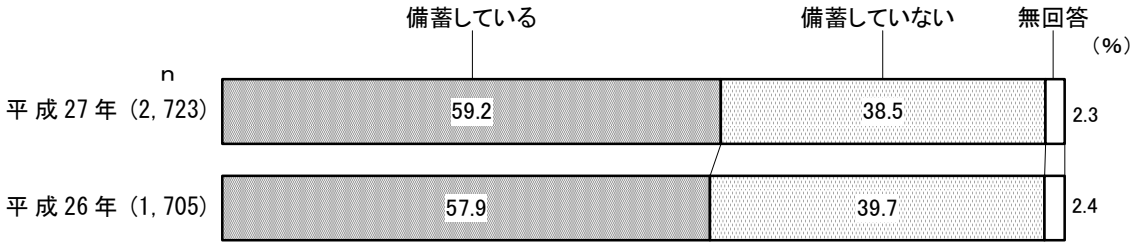
居住地域別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は由木・由木東・南大沢（東部地域）(38.6%)で最も多く４割近くとなっている。「活かしていない」は加住・石川（北部地域）(29.6%)で３割弱と多くなっている。（図４－７－３）

（８）食料の備蓄の有無

◇「備蓄している」が６割弱

問27　あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料を備蓄していますか。

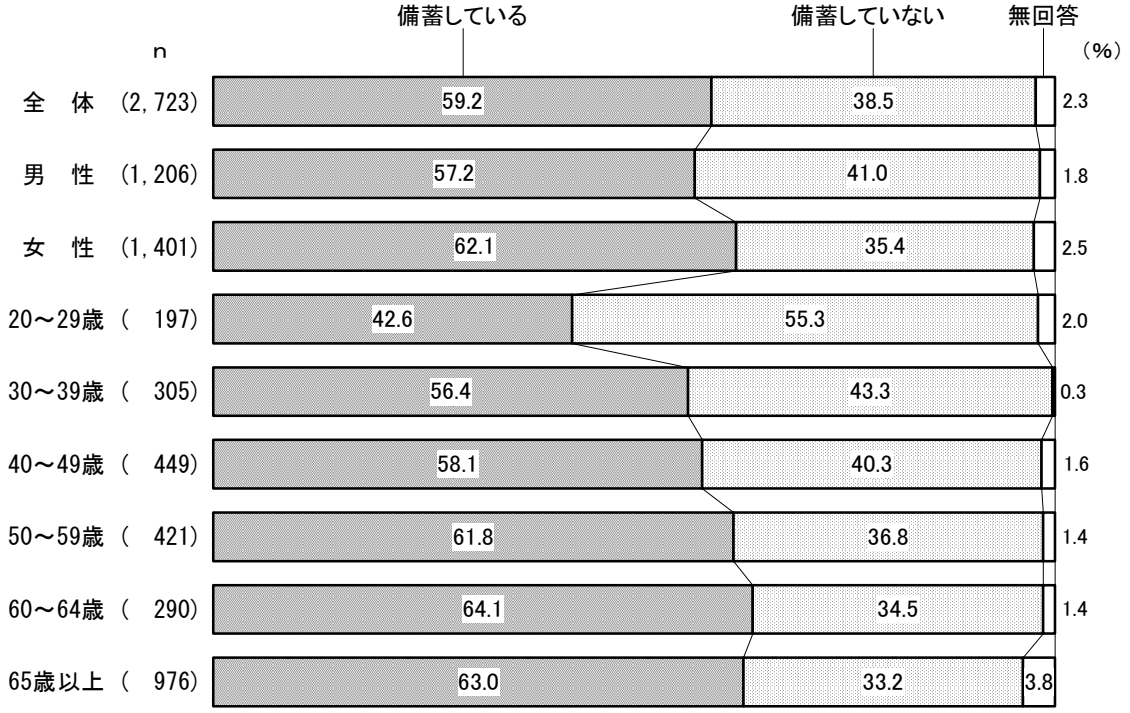
図４－８－１　食料の備蓄の有無－全体、経年比較



災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(59.2%) が６割弱となっている。「備蓄していない」(38.5%) は４割近くとなっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。（図４－８－１）

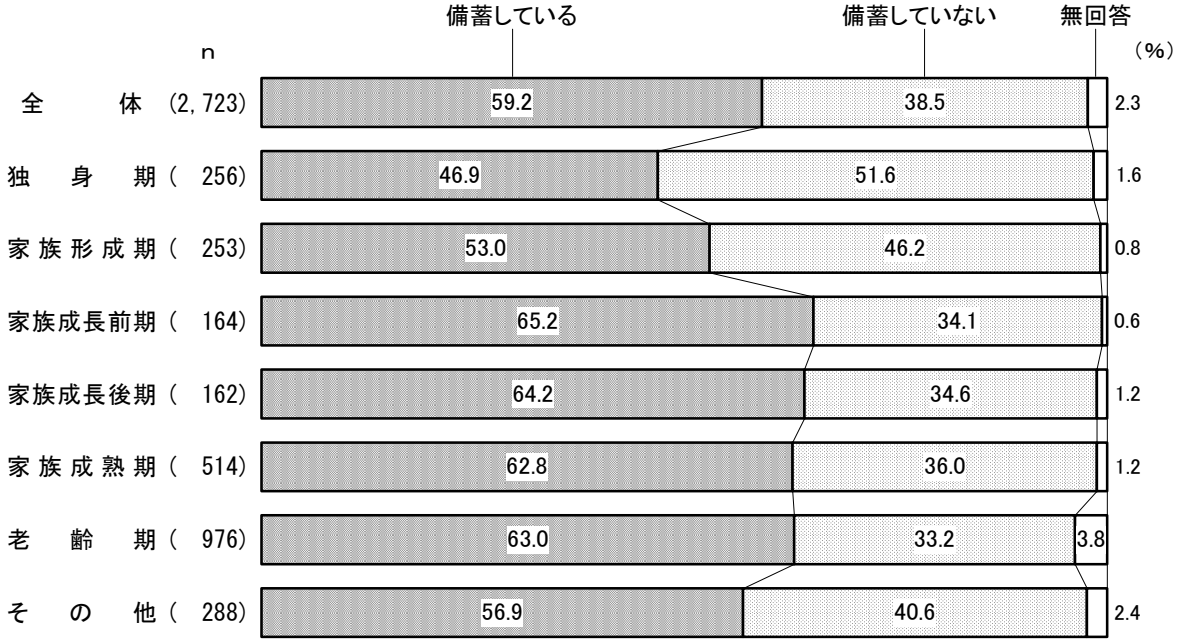
図４－８－２　食料の備蓄の有無－性別・年齢別



性別にみると、「備蓄している」は女性（62.1%）が男性（57.2%）より4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は60～64歳（64.1%）で６割台半ばと多くなっている。「備蓄していない」は20～29歳（55.3%）で５割台半ばと多くなっている。（図４－８－２）

図４－８－３　食料の備蓄の有無－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族成長前期（65.2%）で最も多く６割台半ばとなっている。「備蓄していない」は独身期（51.6%）で５割強と多くなっている。（図４－８－３）

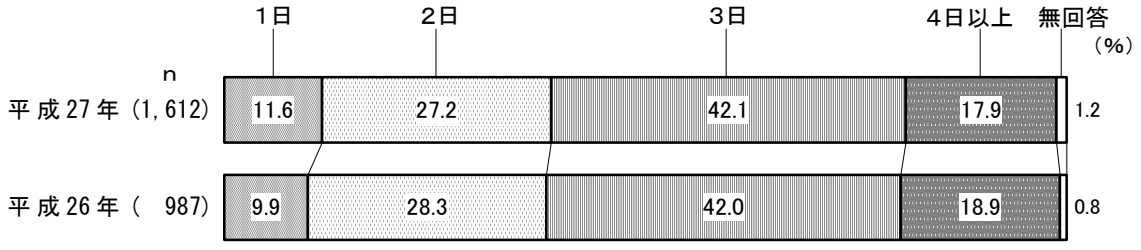
（９）食料の備蓄量

◇「３日」が４割強

（食料を「備蓄している」とお答えの方に）

問27－１　家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。（○は１つだけ）

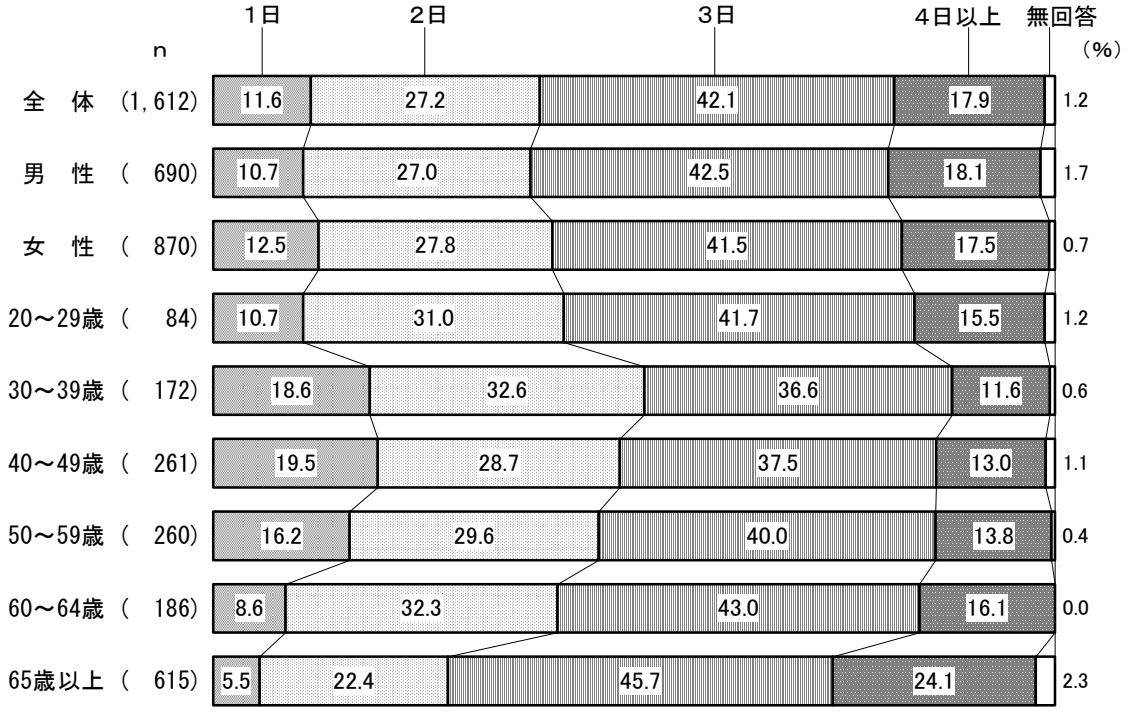
図４－９－１　食料の備蓄量－全体、経年比較



食料を「備蓄している」と回答した1,612人に、家族が何日間過ごせる分の備蓄をしているか聞いたところ、「３日」（42.1%）が最も多く４割強となっている。「４日以上」（17.9%）は２割近くで、「１日」（11.6%）が１割強、「２日」（27.2%）が３割近くとなっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。（図４－９－１）

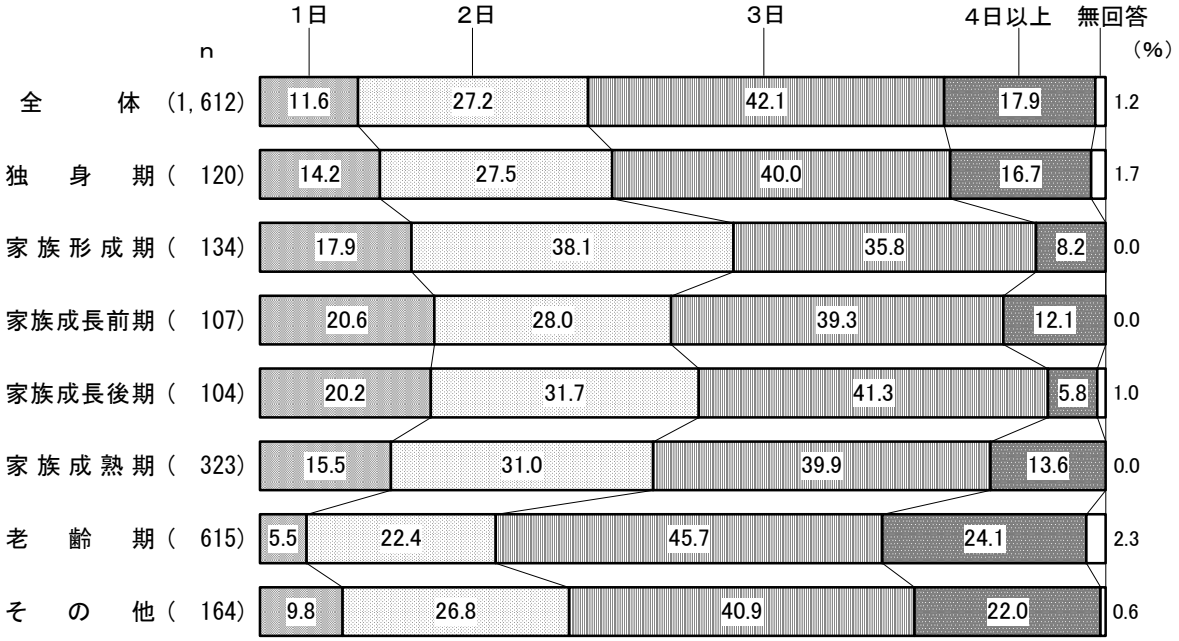
図４－９－２　食料の備蓄量－性別・年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「４日以上」は65歳以上（24.1%）で２割台半ばと多くなっている。「１日」は40～49歳（19.5%）で２割弱と多くなっている。（図４－９－２）

図４－９－３　食料の備蓄量－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「４日以上」は老齢期（24.1%）で２割台半ばと多くなっている。「１日」は家族成長前期（20.6%）で最も多く約２割となっている。（図４－９－３）

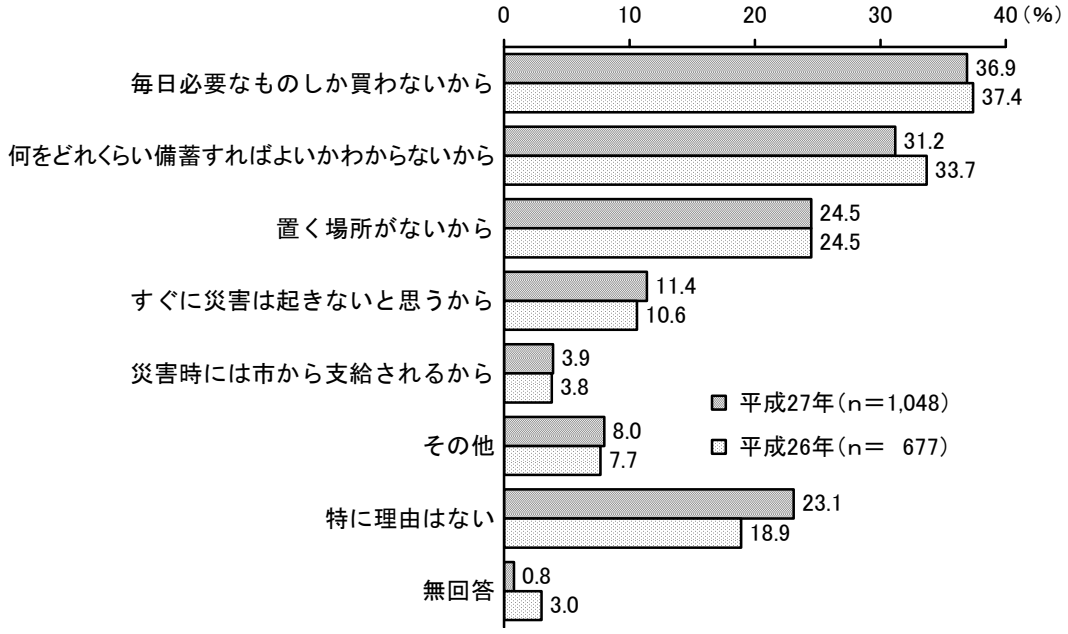
（10）食料を備蓄していない理由

◇「毎日必要なものしか買わないから」が４割近く

（食料を「備蓄していない」とお答えの方に）

問27－２　備蓄していない理由は何ですか。（○はいくつでも）

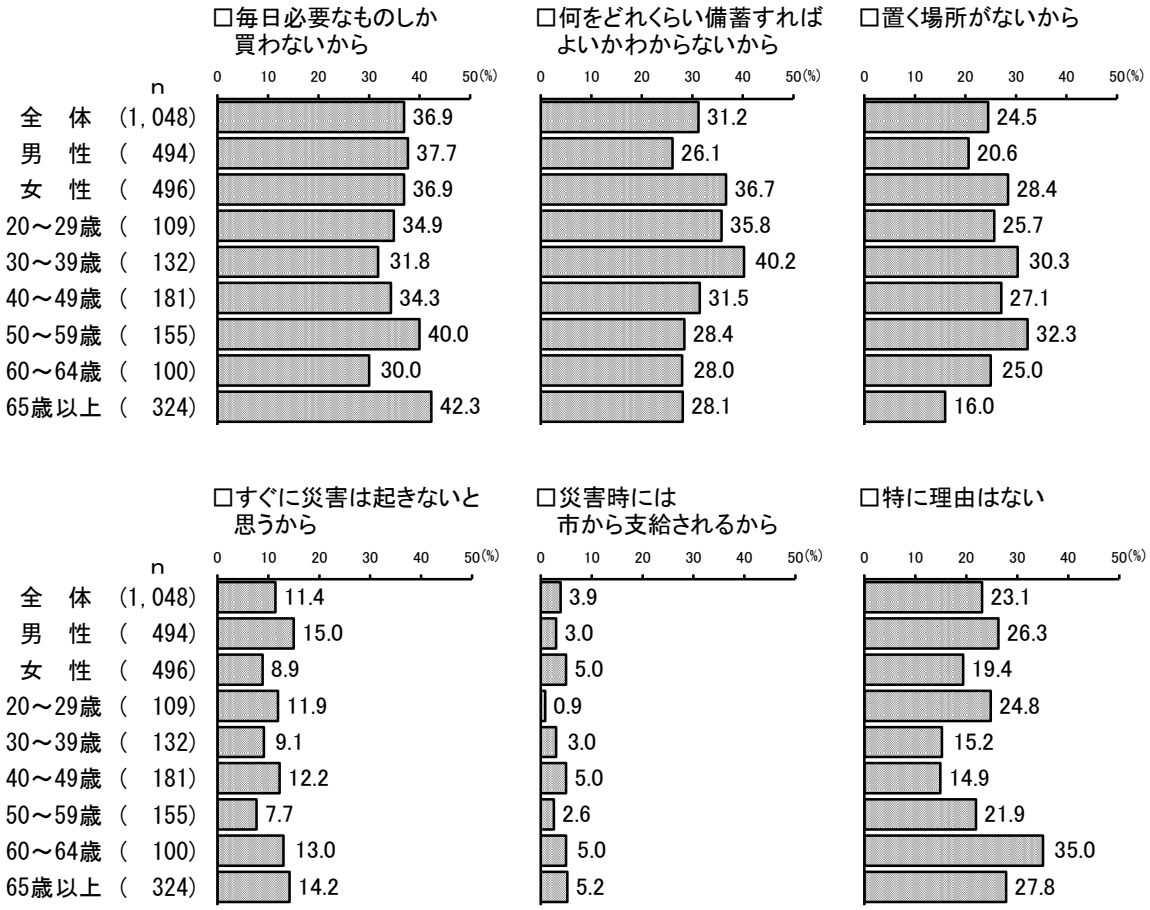
図４－10－１　食料を備蓄していない理由－全体、経年比較



食料を「備蓄していない」と回答した1,048人に、その理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」（36.9%）が最も多く４割近くとなっている。次いで「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」（31.2%）、「置く場所がないから」（24.5%）、「すぐに災害は起きないと思うから」（11.4%）などの順となっている。

前回調査と比較すると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」（31.2%）は2.5ポイント減少している。（図４－10－１）

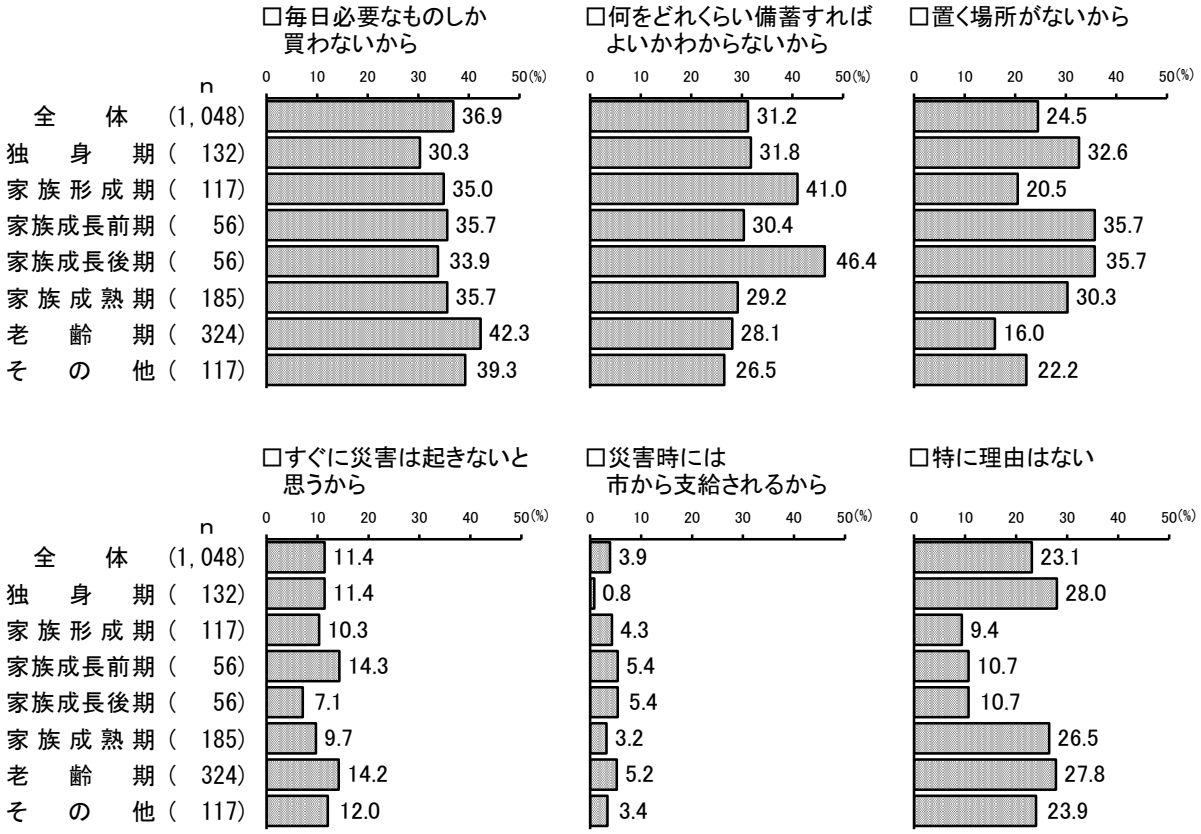
図４－10－２　食料を備蓄していない理由－性別・年齢別（上位５位＋「特に理由はない」）



性別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は女性（36.7％）が男性（26.1％）より10.6ポイント高くなっている。「置く場所がないから」は女性（28.4％）が男性（20.6％）より7.8ポイント高くなっている。「すぐに災害は起きないと思うから」は男性（15.0％）が女性（8.9％）より6.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は30～39歳（40.2％）で約４割と多くなっている。「置く場所がないから」は50～59歳（32.3％）で３割強と多くなっている。（図４－10－２）

図４－10－３　食料を備蓄していない理由－ライフステージ別（上位５位＋「特に理由はない」）



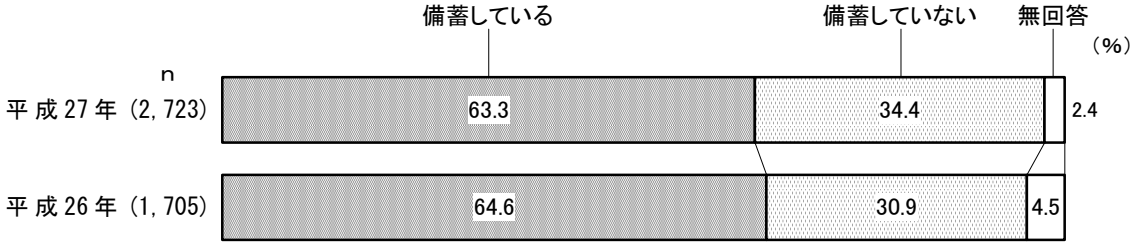
ライフステージ別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は老齢期（42.3%）で４割強と多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は家族成長後期（46.4%）で５割近くと多くなっている。「置く場所がないから」は家族成長前期（35.7%）と家族成長後期（35.7%）で３割台半ばと多くなっている。（図４－10－３）

（11）飲料水の備蓄の有無

◇「備蓄している」が６割強

問27　あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して飲料水を備蓄していますか。

図４－11－１　飲料水の備蓄の有無－全体、経年比較

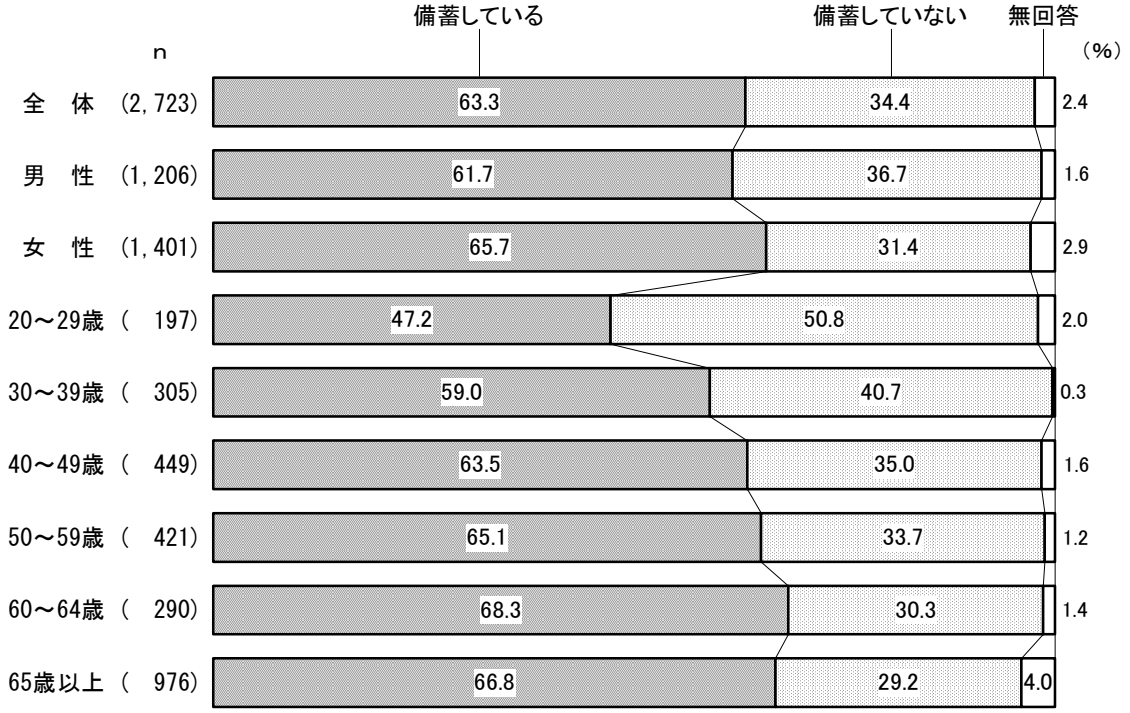


災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して飲料水を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」（63.3%）が６割強となっている。「備蓄していない」（34.4%）は３割台半ばとなっている。

前回調査と比較すると、「備蓄していない」（34.4%）は3.5ポイント増加している。

（図４－11－１）

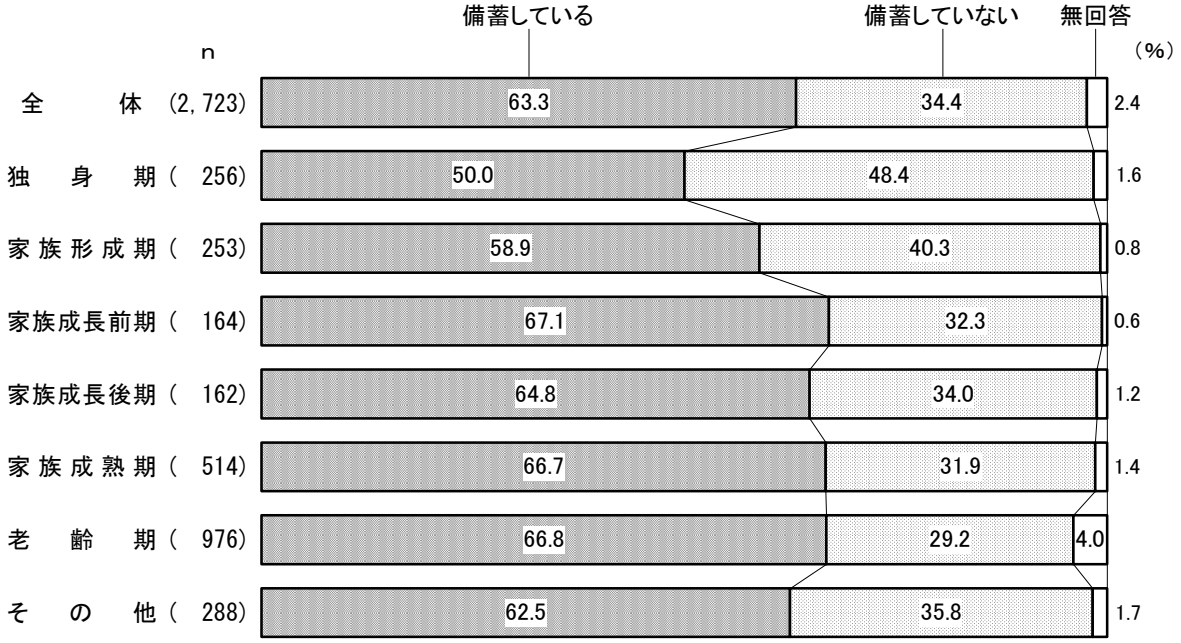
図４－11－２　飲料水の備蓄の有無－性別・年齢別



性別にみると、「備蓄している」は女性（65.7%）が男性（61.7%）より4.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は60～64歳（68.3%）で最も多く７割近くとなっている。「備蓄していない」は20～29歳（50.8%）で約５割と多くなっている。（図４－11－２）

図４－11－３　飲料水の備蓄の有無－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は家族成長前期（67.1%）で最も多く７割近くとなっている。「備蓄していない」は独身期（48.4%）で５割近くと多くなっている。（図４－11－３）

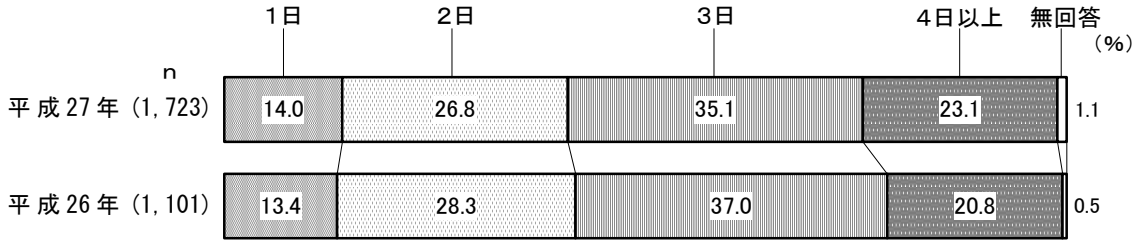
（12）飲料水の備蓄量

◇「３日」が３割台半ば

（飲料水を「備蓄している」とお答えの方に）

問27－３　家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。（○は１つだけ）

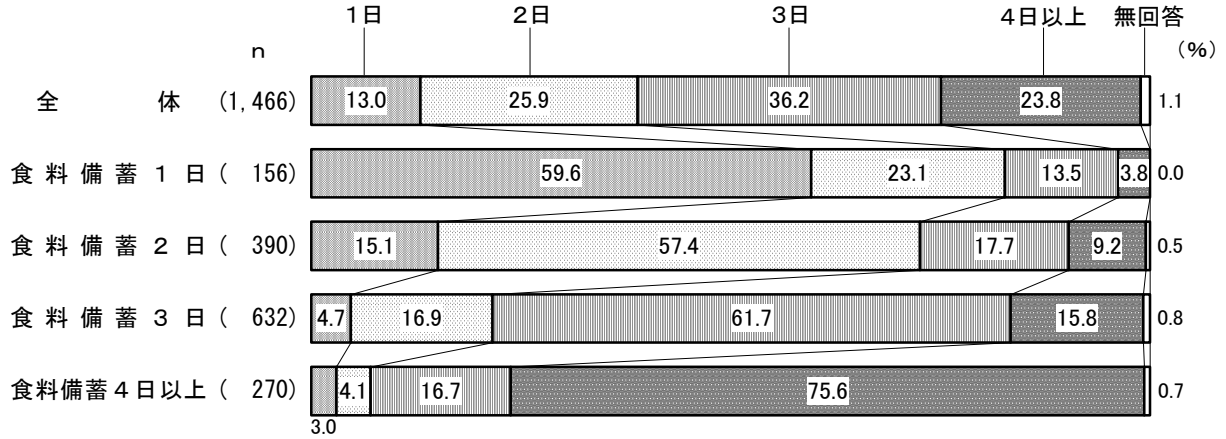
図４－12－１　飲料水の備蓄量－全体、経年比較



飲料水を「備蓄している」と回答した1,723人に、家族が何日間過ごせる分の備蓄をしているか聞いたところ、「３日」（35.1%）が最も多く３割台半ばとなっている。「４日以上」（23.1%）は２割強で、「１日」（14.0%）が１割台半ば、「２日」（26.8%）が３割近くとなっている。

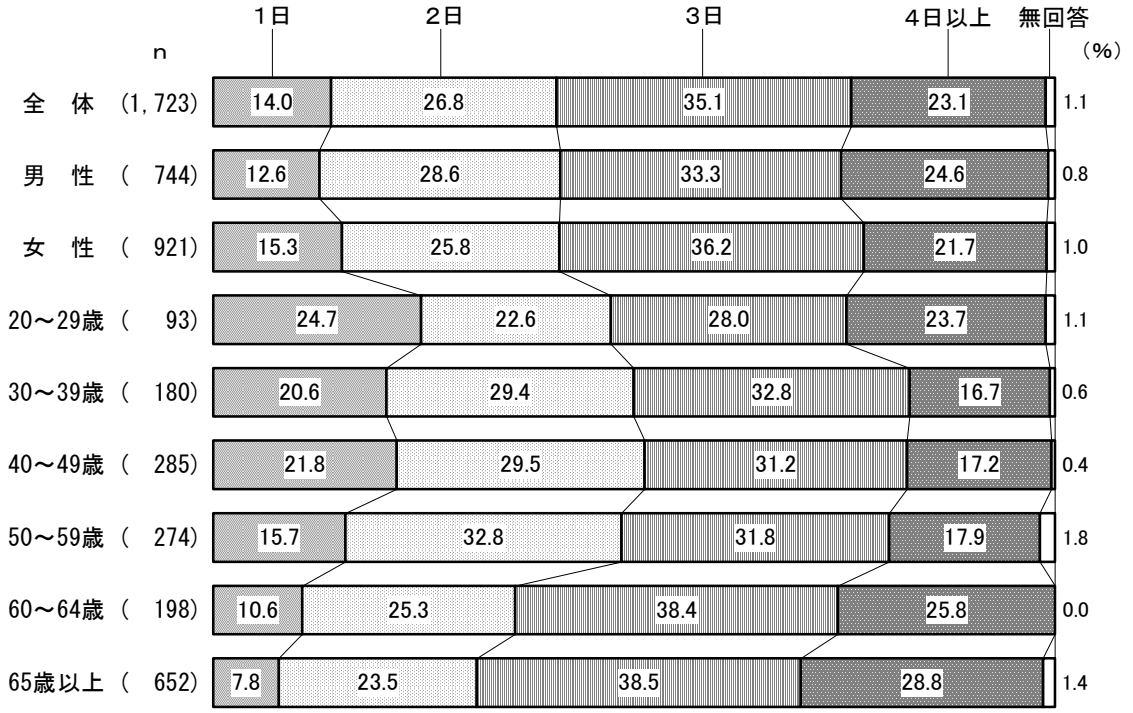
前回調査と比較すると、「４日以上」（23.1%）は2.3ポイント増加している。（図４－12－１）

図４－12－２　飲料水の備蓄量－食料備蓄日数別



食料と飲料水をともに「備蓄している」と回答した1,466人について、食料備蓄日数別にみると、食料備蓄１日では、「１日」（59.6%）が６割弱で最も多くなっている。食料備蓄２日では、「２日」（57.4%）が６割近く、食料備蓄３日では、「３日」（61.7%）が６割強、食料備蓄４日以上では、「４日以上」（75.6%）が７割台半ばで最も多くなっており、食料と飲料水は同じ日数分備蓄する人が多い傾向がうかがえる。（図４－12－２）

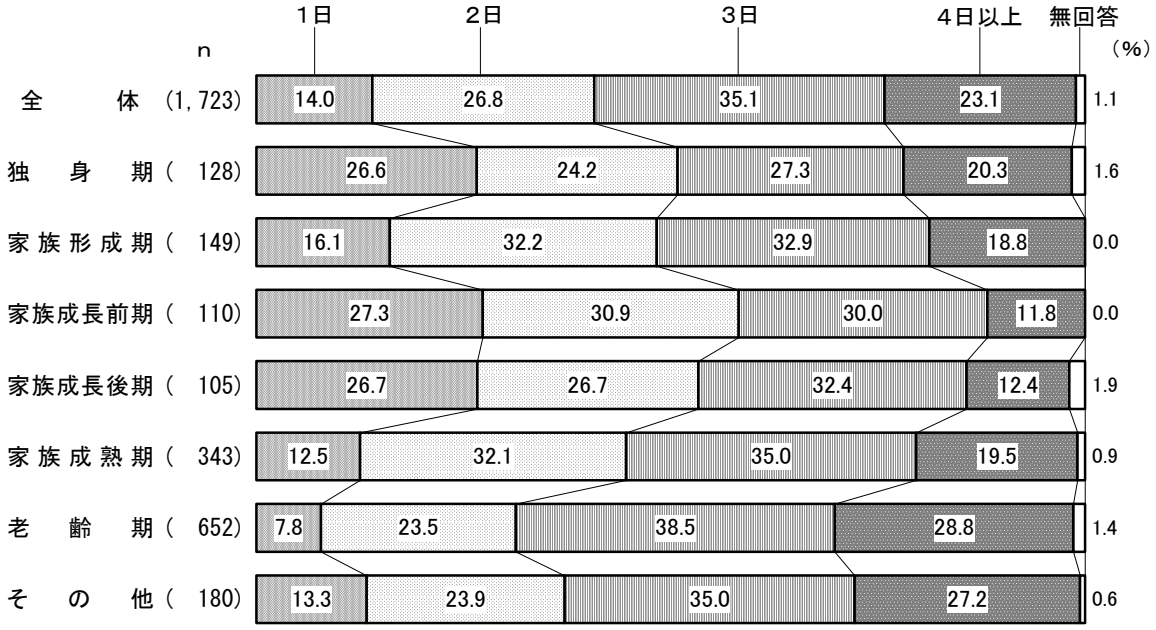
図４－12－３　飲料水の備蓄量－性別・年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「４日以上」は65歳以上（28.8%）で３割近くと多くなっている。「１日」は20～29歳（24.7%）で２割台半ばと多くなっている。（図４－12－３）

図４－12－４　飲料水の備蓄量－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「４日以上」は老齢期（28.8%）で３割近くと多くなっている。「１日」は家族成長前期（27.3%）で最も多く３割近くとなっている。（図４－12－４）

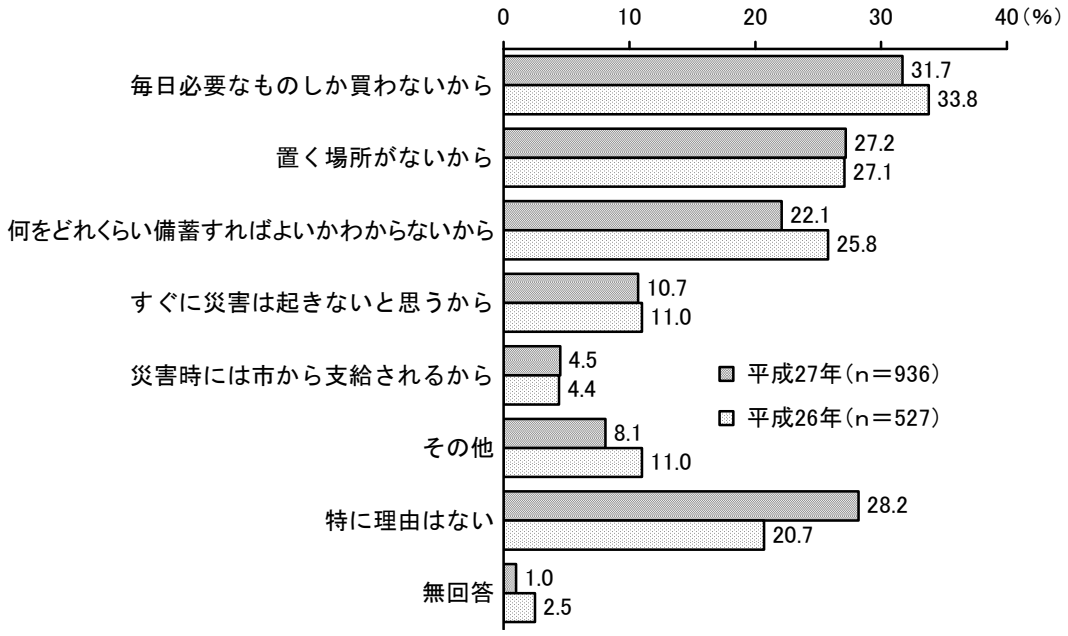
（13）飲料水を備蓄していない理由

◇「毎日必要なものしか買わないから」が３割強

（飲料水を「備蓄していない」とお答えの方に）

問27－４　備蓄していない理由は何ですか。（○はいくつでも）

図４－13－１　飲料水を備蓄していない理由－全体、経年比較

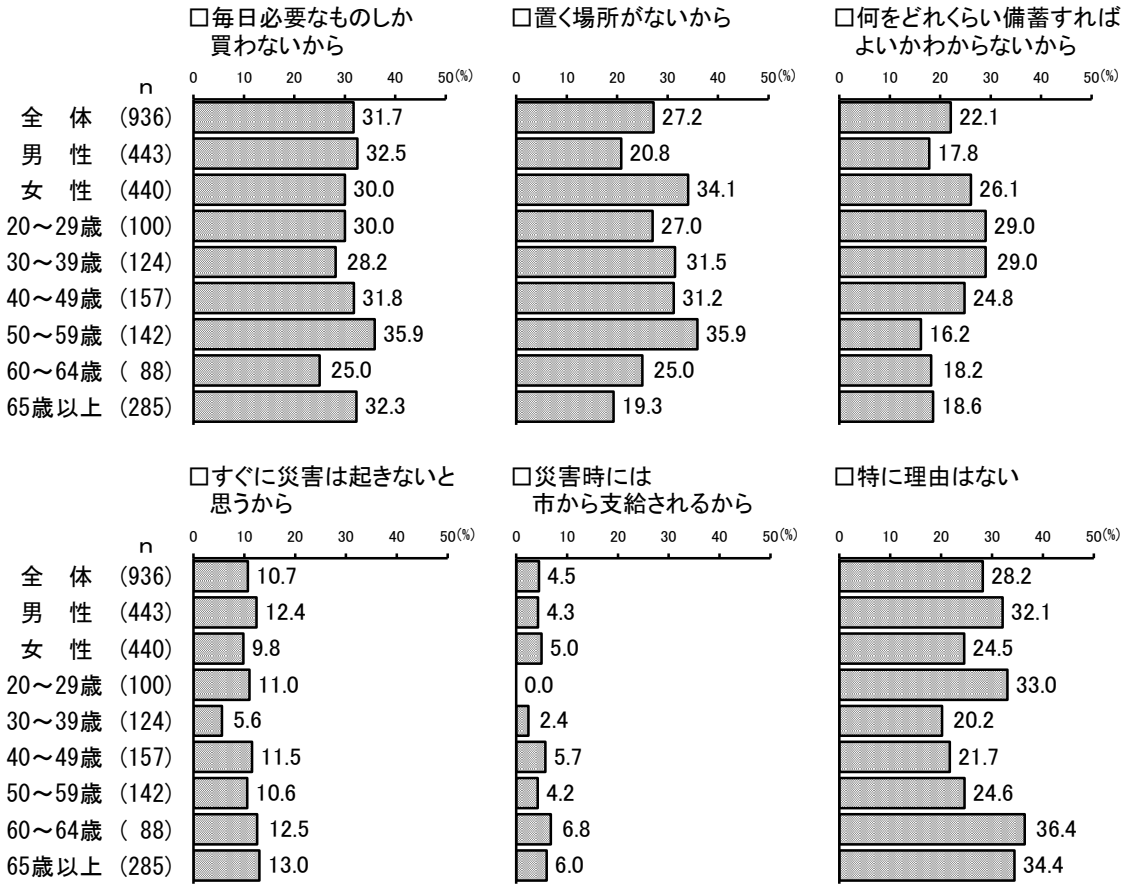


飲料水を「備蓄していない」と回答した936人に、その理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」(31.7%)が最も多く３割強となっている。次いで「置く場所がないから」(27.2%)、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」(22.1%)、「すぐに災害は起きないと思うから」(10.7%) などの順となっている。

前回調査と比較すると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」(22.1%) は3.7ポイント減少している。「毎日必要なものしか買わないから」(31.7%) は2.1ポイント減少している。

（図４－13－１）

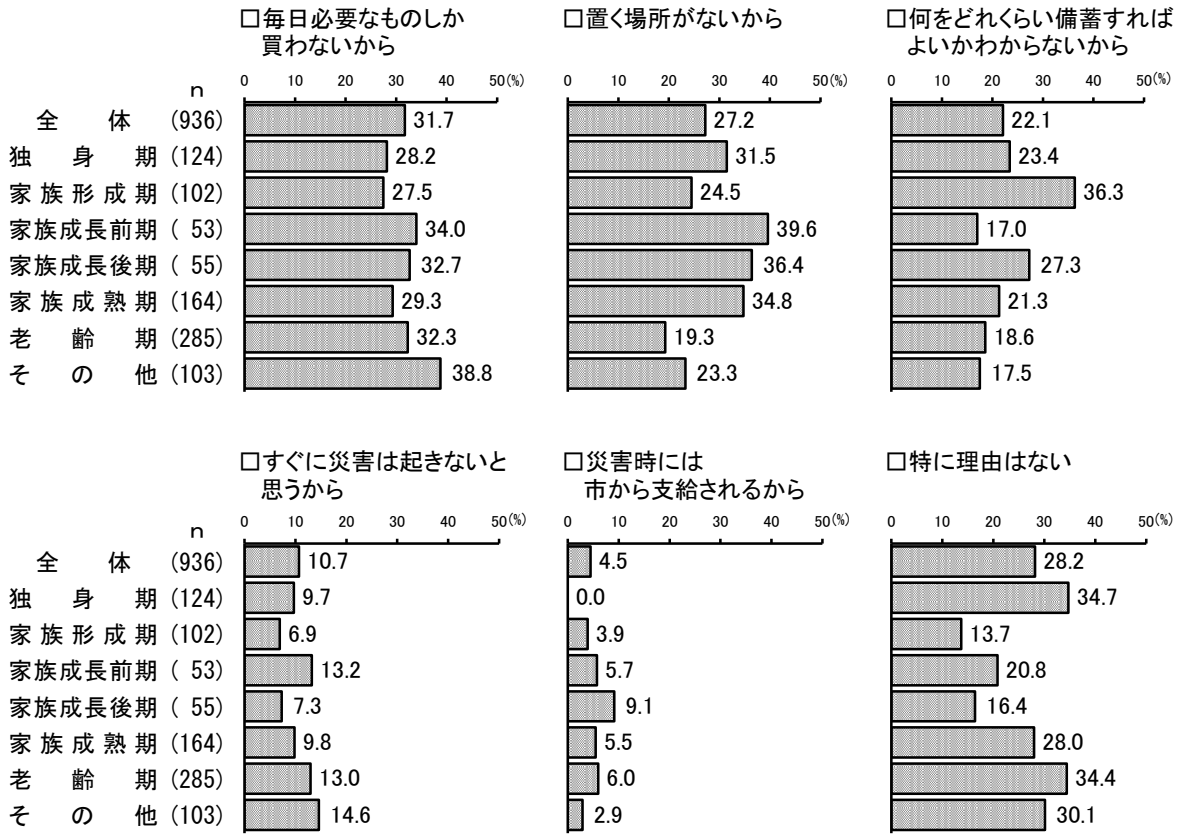
図４－13－２　飲料水を備蓄していない理由－性別・年齢別（上位５位＋「特に理由はない」）



性別にみると、「置く場所がないから」は女性（34.1％）が男性（20.8％）より13.3ポイント高くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は女性（26.1％）が男性（17.8％）より8.3ポイント高くなっている。「すぐに災害は起きないと思うから」は男性（12.4％）が女性（9.8％）より2.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は50～59歳（35.9％）で３割台半ばと多くなっている。「置く場所がないから」は50～59歳（35.9％）で３割台半ばと多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は20～29歳（29.0％）と30～39歳（29.0％）で３割弱と多くなっている。（図４－13－２）

図４－13－３　飲料水を備蓄していない理由－ライフステージ別（上位５位＋「特に理由はない」）



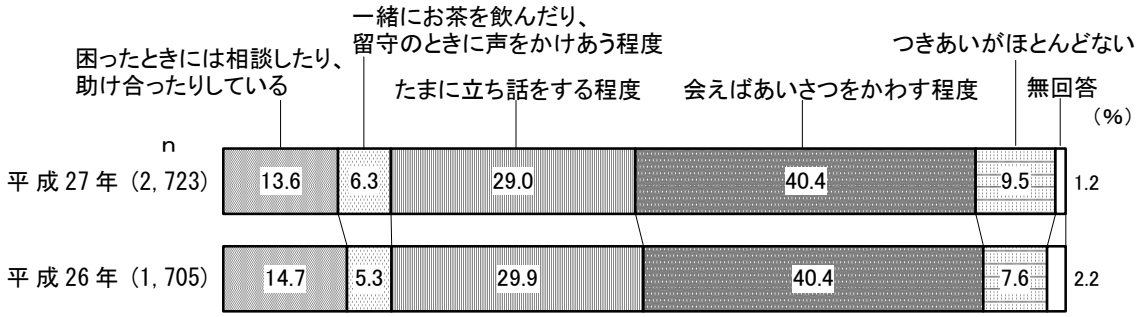
ライフステージ別にみると、「置く場所がないから」は家族成長前期（39.6％）で４割弱と多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は家族形成期（36.3％）で４割近くと多くなっている。（図４－13－３）

（14）隣近所とのつきあい方

◇「会えばあいさつをかわす程度」が約４割

問28　あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。（○は１つだけ）

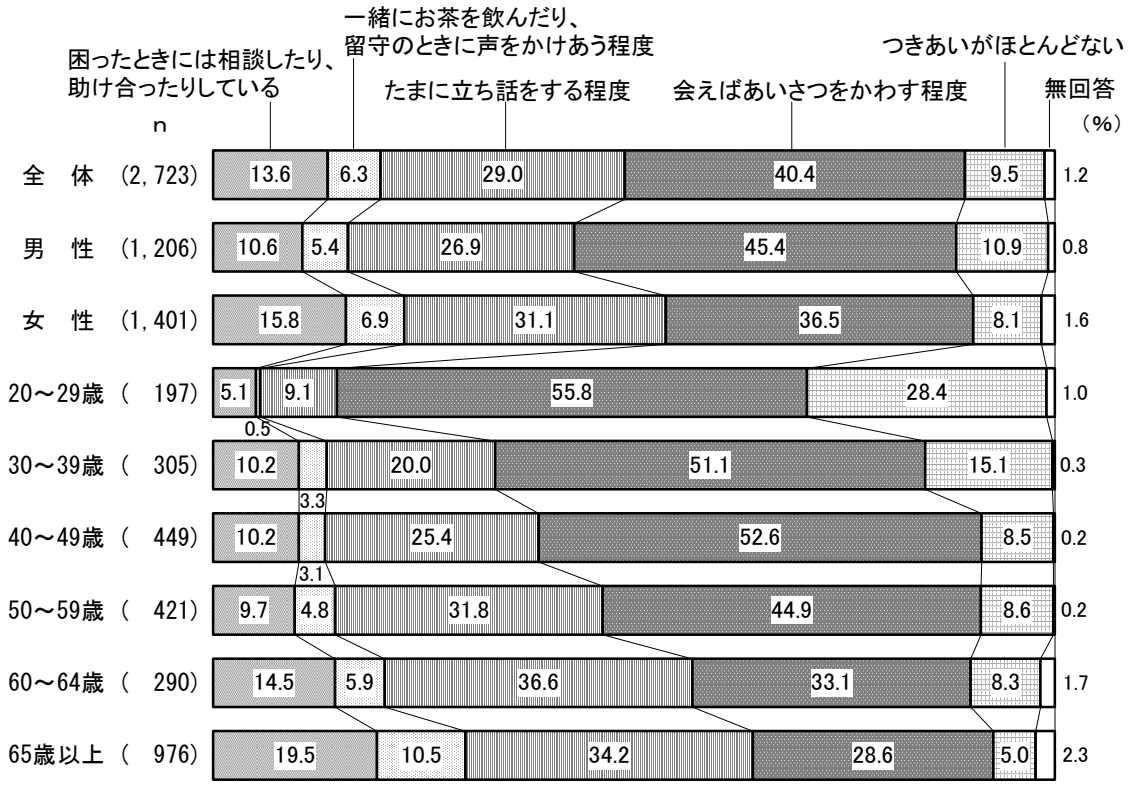
図４－14－１　隣近所とのつきあい方－全体、経年比較



日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしているか聞いたところ、「会えばあいさつをかわす程度」（40.4%）が最も多く約４割となっている。「たまに立ち話をする程度」（29.0%）は３割弱で、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」（13.6%）が１割強となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。（図４－14－１）

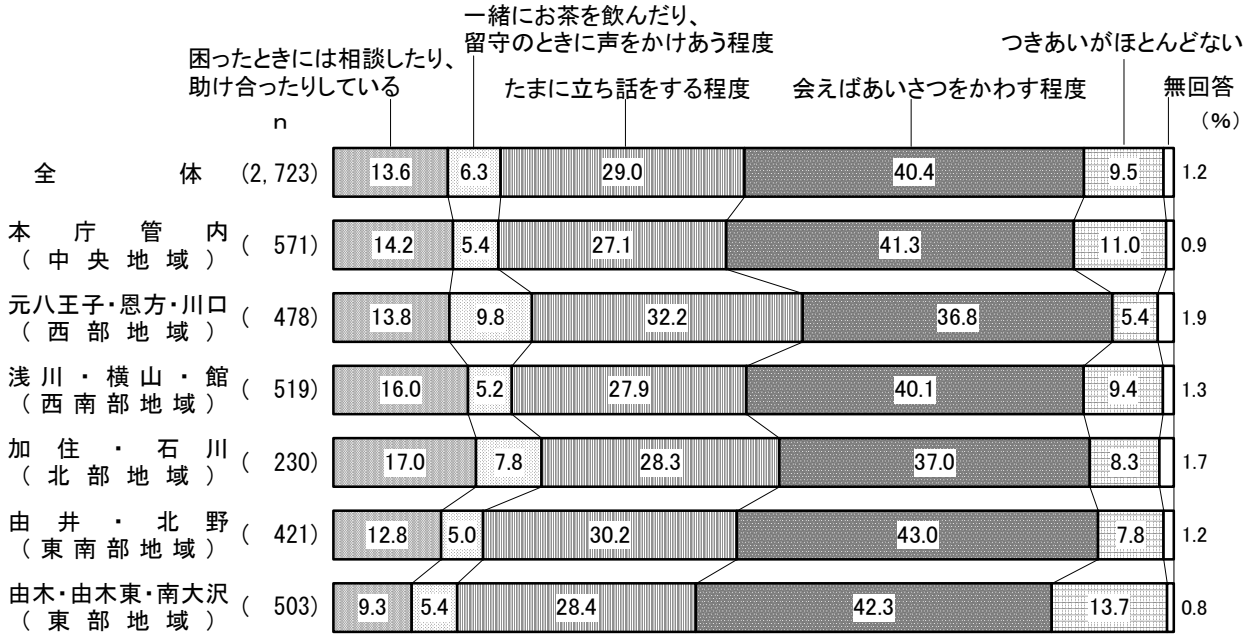
図４－14－２　隣近所とのつきあい方－性別・年齢別



性別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は男性（45.4%）が女性（36.5%）より8.9ポイント高くなっている。「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は女性（15.8%）が男性（10.6%）より5.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は20～29歳（55.8%）で５割台半ばと多くなっている。「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は65歳以上（19.5%）で２割弱と多くなっている。「つきあいがほとんどない」は20～29歳（28.4%）で３割近くと多くなっている。（図４－14－２）

図４－14－３　隣近所とのつきあい方－居住地域別



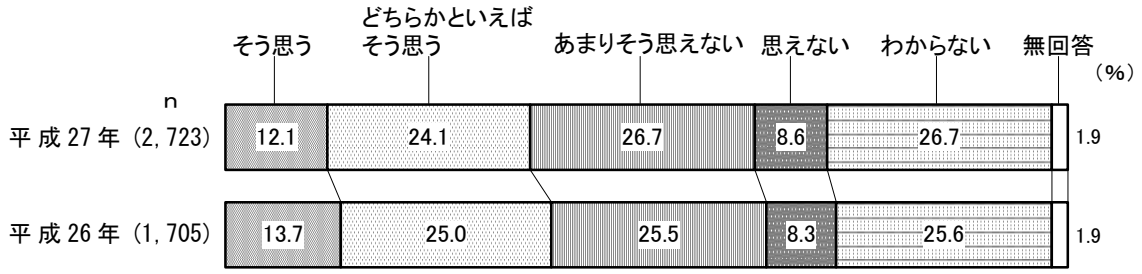
居住地域別にみると、「たまに立ち話をする程度」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（32.2%）で３割強と多くなっている。「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は加住・石川（北部地域）（17.0%）で最も多く２割近くとなっている。「つきあいがほとんどない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（13.7%）で最も多く１割強となっている。（図４－14－３）

（15）地域と子どもたちとのかかわりあい

◇≪そう思う≫が４割近く

問29　あなたのお住まいの地域では、子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思いますか。（○は１つだけ）

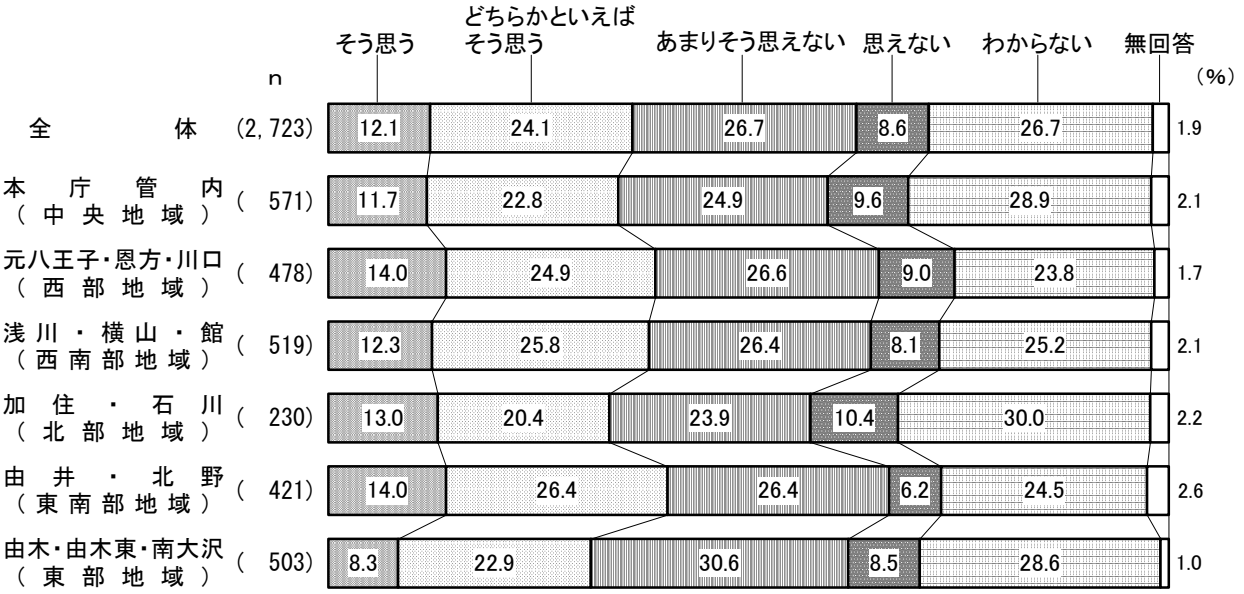
図４－15－１　地域と子どもたちとのかかわりあい－全体、経年比較



子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思うか聞いたところ、「そう思う」（12.1%）と「どちらかといえばそう思う」（24.1%）を合わせた≪そう思う≫（36.2%）が４割近くとなっている。一方、「あまりそう思えない」（26.7%）と「思えない」（8.6%）を合わせた≪そう思えない≫（35.3%）が３割台半ばとなっている。

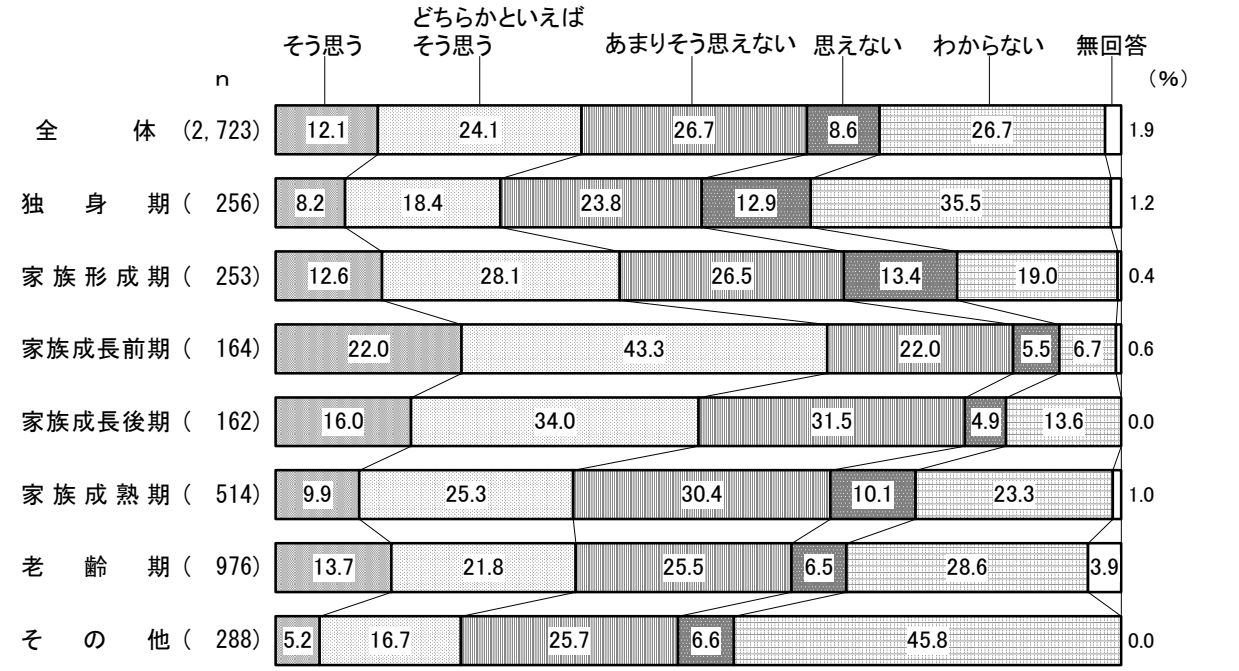
前回調査と比較すると、≪そう思う≫（36.2%）は2.5ポイント減少している。（図４－15－１）

図４－15－２　地域と子どもたちとのかかわりあい－居住地域別



居住地域別にみると、≪そう思う≫は由井・北野（東南部地域）（40.4%）で約４割と多くなっている。一方、≪そう思えない≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（39.1%）で４割弱と多くなっている。（図４－15－２）

図４－15－３　地域と子どもたちとのかかわりあい－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、≪そう思う≫は家族成長前期（65.3%）で６割台半ばと多くなっている。一方、≪そう思えない≫は家族成熟期（40.5%）で約４割と多くなっている。

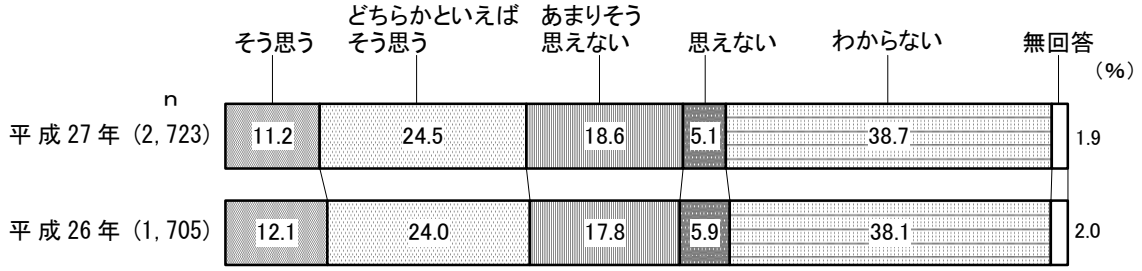
（図４－15－３）

（16）地域と学校の協力による子どもたちの育み

◇≪そう思う≫が３割台半ば

問30　あなたのお住まいの地域では、地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育んでいると思いますか。（○は１つだけ）

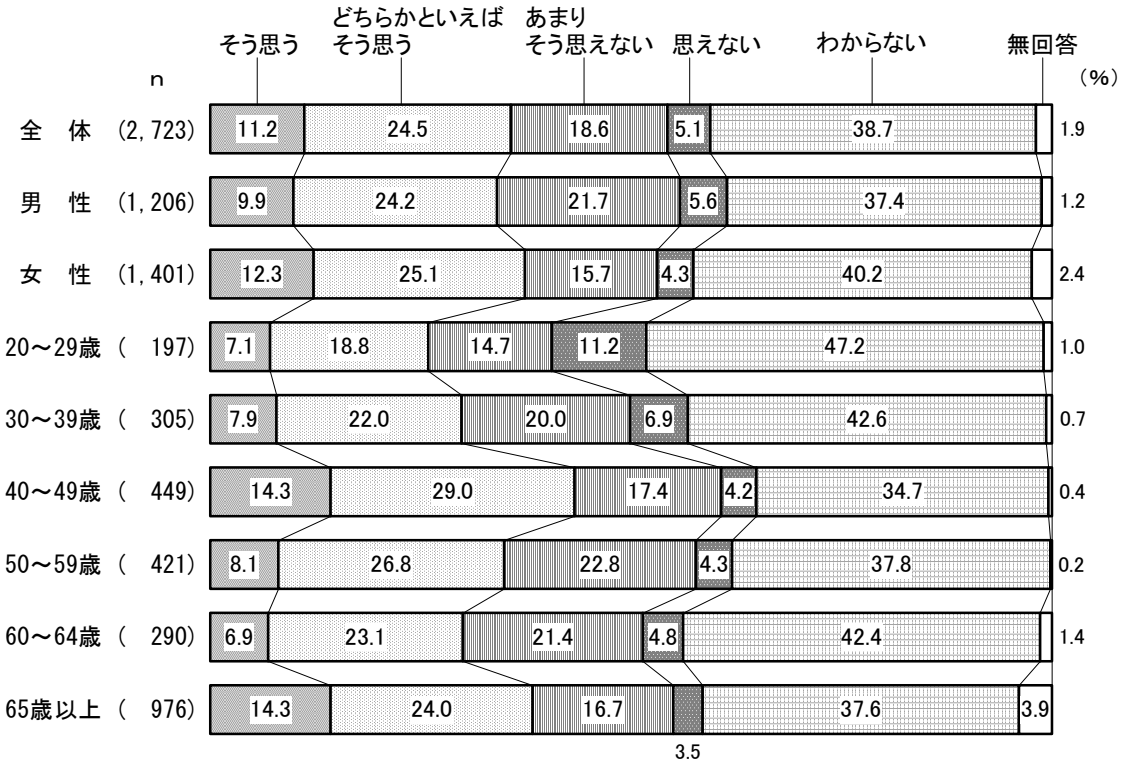
図４－16－１　地域と学校の協力による子どもたちの育み－全体、経年比較



地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育んでいると思うか聞いたところ、「そう思う」（11.2%）と「どちらかといえばそう思う」（24.5%）を合わせた≪そう思う≫（35.7%）が３割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思えない」（18.6%）と「思えない」（5.1%）を合わせた≪そう思えない≫（23.7%）が２割強となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。（図４－16－１）

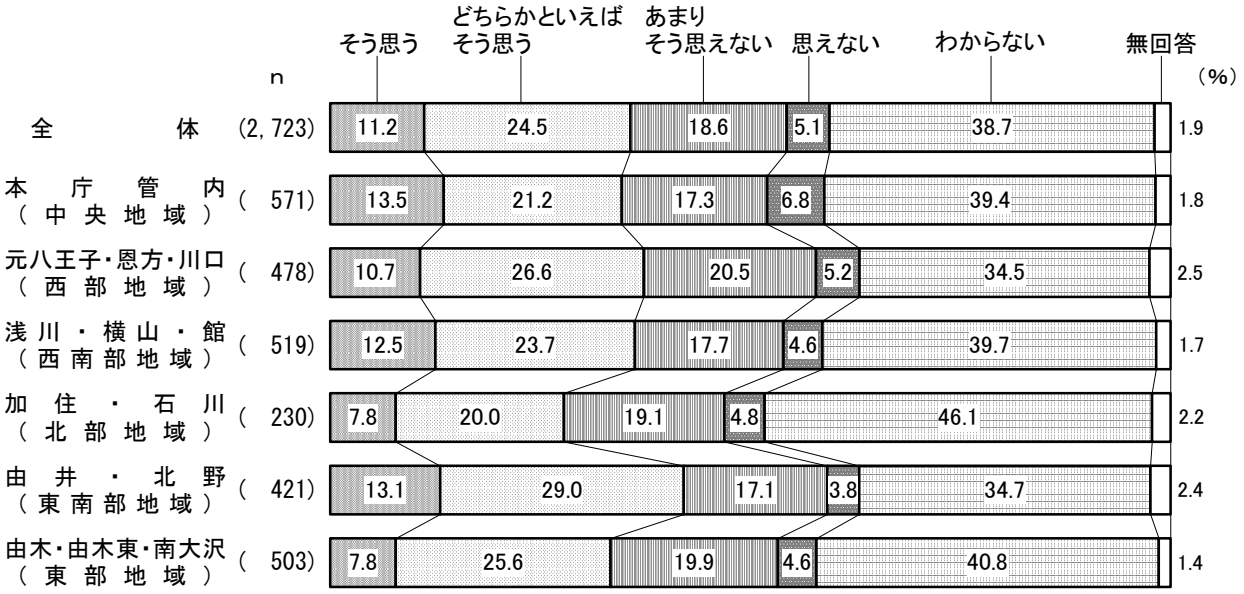
図４－16－２　地域と学校の協力による子どもたちの育み－性別・年齢別



性別にみると、≪そう思う≫は女性（37.4%）が男性（34.1%）より3.3ポイント高くなっている。一方、≪そう思えない≫は男性（27.3%）が女性（20.0%）より7.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、≪そう思う≫は40～49歳（43.3%）で４割強と多くなっている。一方、≪そう思えない≫は50～59歳（27.1%）で最も多く３割近くとなっている。（図４－16－２）

図４－16－３　地域と学校の協力による子どもたちの育み－居住地域別



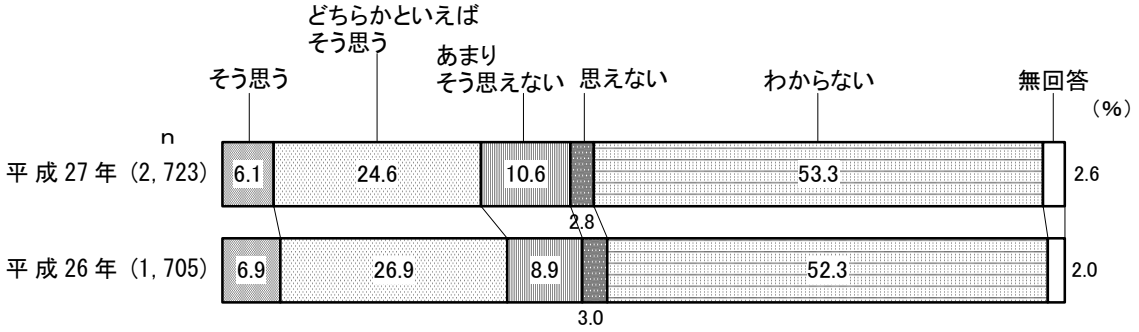
居住地域別にみると、≪そう思う≫は由井・北野（東南部地域）（42.1%）で４割強と多くなっている。一方、≪そう思えない≫は元八王子・恩方・川口（西部地域）（25.7%）で最も多く２割台半ばとなっている。（図４－16－３）

（17）市などの支援による子育ての状況

◇≪そう思う≫が約３割

問31　あなたは、子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていると思いますか。（○は１つだけ）

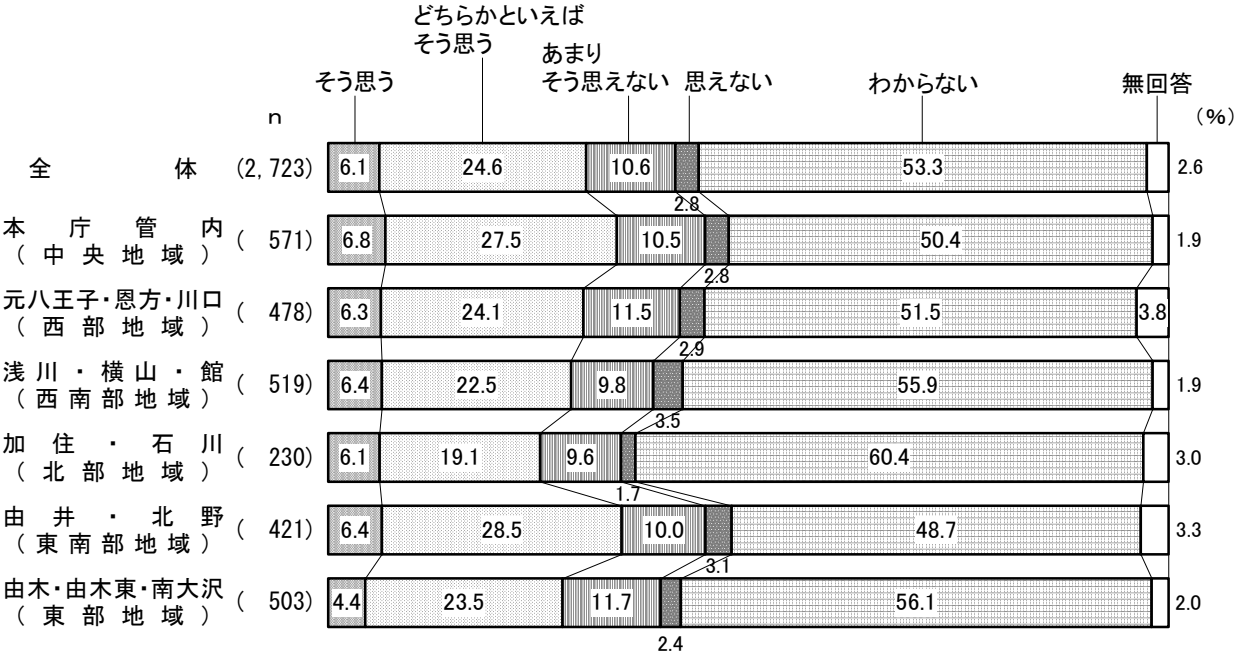
図４－17－１　市などの支援による子育ての状況－全体、経年比較



子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていると思うか聞いたところ、「そう思う」（6.1%）と「どちらかといえばそう思う」（24.6%）を合わせた≪そう思う≫（30.7%）が約３割となっている。一方、「あまりそう思えない」（10.6%）と「思えない」（2.8%）を合わせた≪そう思えない≫（13.4%）が１割強となっている。

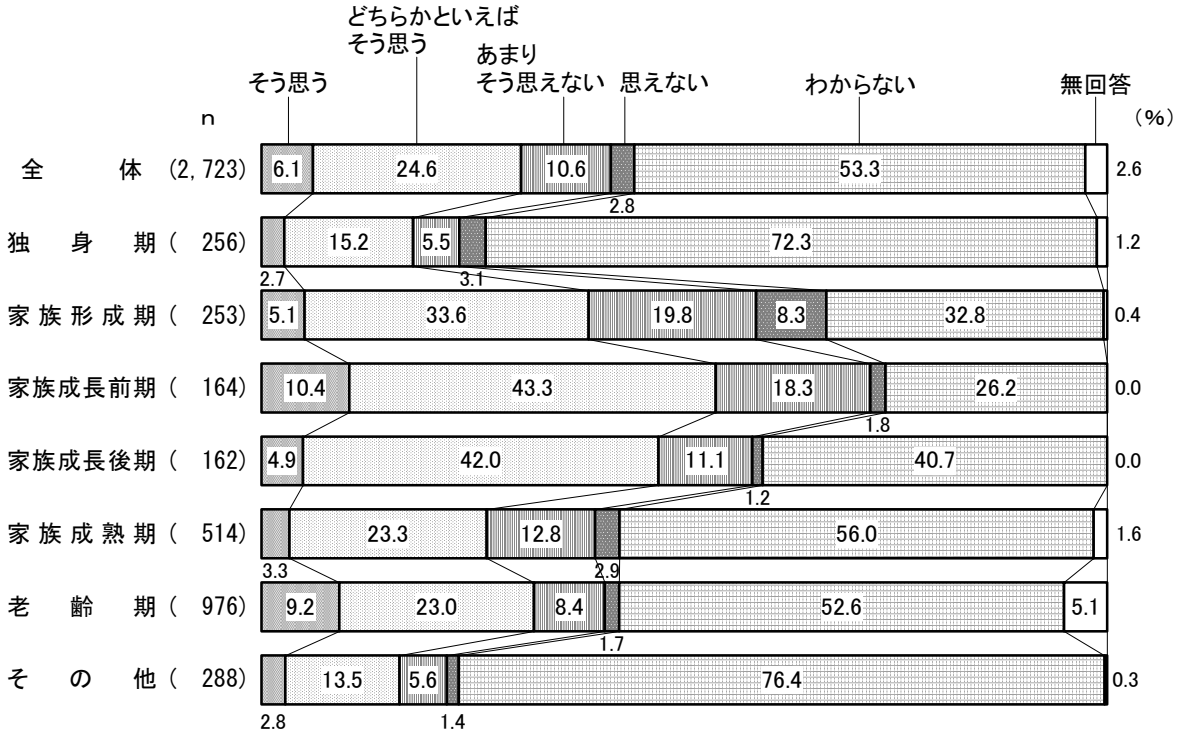
前回調査と比較すると、≪そう思う≫（30.7%）は3.1ポイント減少している。（図４－17－１）

図４－17－２　市などの支援による子育ての状況－居住地域別



居住地域別にみると、≪そう思う≫は由井・北野（東南部地域）（34.9%）で最も多く３割台半ばとなっている。（図４－17－２）

図４－17－３　市などの支援による子育ての状況－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、≪そう思う≫は家族成長前期（53.7%）で５割強と多くなっている。一方、≪そう思えない≫は家族形成期（28.1%）で３割近くと多くなっている。（図４－17－３）

（18）安心した子育てができていないと思う理由（自由意見）

（問31で、「あまりそう思えない」または「思えない」とお答えの方に）
問31－１　そのように感じる理由があれば、以下の欄にご自由にお書きください。

子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができているかについて「あまりそう思えない」または「思えない」と答えた366人に、そう思う理由を自由記述形式で聞いたところ、227人から回答があった。その中から抜粋した意見を掲載した。なお、内容については、記述の趣旨を損なわないように留意しながら一部要約したものがある。

○高尾に住んでいるが、近くに支援センターがない。子育て支援センターなどは行きやすい場所に作ってほしい。館支援センターは不便な場所で、浅川児童館は施設が古い。南大沢、八王子みなみ野ばかり優遇されて地域の格差を感じる。（男性20～29歳）
○保育園の待機児童がたくさんいること。働きたいのに保育園に入れないのはつらい。待機児童がなくなるようにしてほしい。（女性20～29歳）
○子どもが運動不足といわれているのに、公園はどんどん遊具が撤去されており、外遊びがつまらなくなっている。発達に困難のある子の支援が十分になされていないと感じる。（男性30～39歳）
○保育園のこと、市で行われている講習会やイベント、さまざまな制度について情報が少なく、いざその身になって、はたらきかけて初めて最新情報や、現在の子育て事情がわかるという経験を何度もした。市のホームページや広報、あるいは学校を通じて伝えてほしい。（男性30～39歳）
○幼稚園の補助金の制度が変わり、支払い額が増えた。子育て支援のための新制度と説明されたが、経済的負担が大きくなった。（女性30～39歳）
○中学校の完全学校給食制を強く希望する。（女性30～39歳）
○障害を持った児童と親への行政サービスが不十分。（男性40～49歳）
○子どもの医療費の助成に所得制限が設けられていて利用できないと負担が非常に大きい。体が弱く病院にかかりやすい子にとって、医療費の助成がないと家計が非常に苦しい。（男性40～49歳）
○子育てサークルが活動していたのにもかかわらず、児童館の職員が常駐でなくなり、利用時間、使用方法等制限を受けている。（女性40～49歳）
○学校給食のアレルギー対応が今年から変更になり、代替等がなくお弁当になったため大変。昨年までは除去食があったのになぜなくなったのか。（女性40～49歳）
○共働きが多く、親子が一緒に過ごす時間が少ない。（男性50～59歳）
○相談に来る人への市・学校・機関の関与はあるが、困っている人に対する積極的関与がない。（男性50～59歳）
○小さな子どもがいる母子家庭の方は、子どもの病気によって仕事を休まざるを得なくなっている。一時保育などで急な利用ができないなど問題もある。（女性50～59歳）
○ベビーシッター制度等の支援制度が整っていない。（男性60～64歳）
○市の子ども向け行事に参加している姿があまりみられない。（男性65歳以上）
○わずかな年収の差で、税金で保育をしてもらえる人と、もらえない人がいる。（男性65歳以上）
○学童保育が小学３年生で終わるが、もっと長く続けられるとよいと思う。（女性65歳以上）
○家から出て遊んでいる子どもが少ない。（女性65歳以上）

（19）市民協働の進捗状況

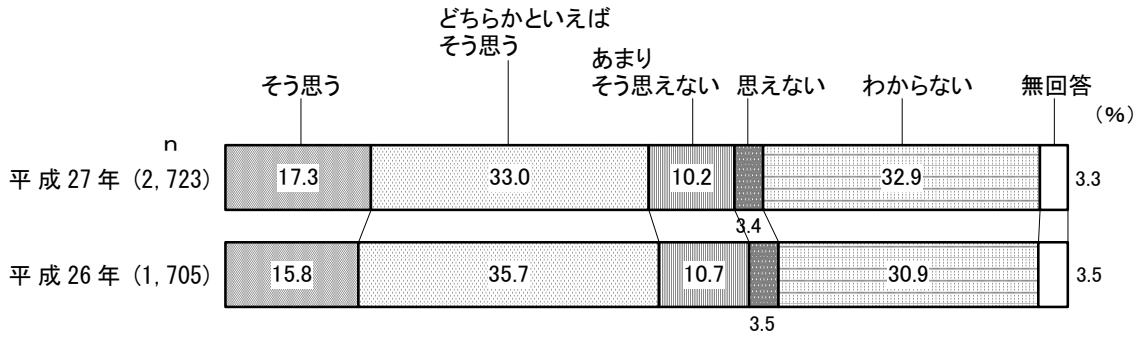
◇≪そう思う≫が約５割

問32　あなたは、市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思いますか。（○は１つだけ）

※市民協働の活動とは・・・
- ○八王子まつり、いちょう祭りなどへの支援や協力、また環境フェスティバルなどのイベントを市民と協力して開催
- ○町会等が行う防犯・防災活動や環境美化活動などに対する支援や協力
- ○公園や道路の維持活動（清掃や除草などのボランティア活動）を地域の住民の方に担っていただくアドプト制度の運営
- ○各種審議会や市の計画策定に際して参加いただく市民委員の公募
- ○計画、条例等の作成過程におけるパブリックコメント（意見公募）の実施

など

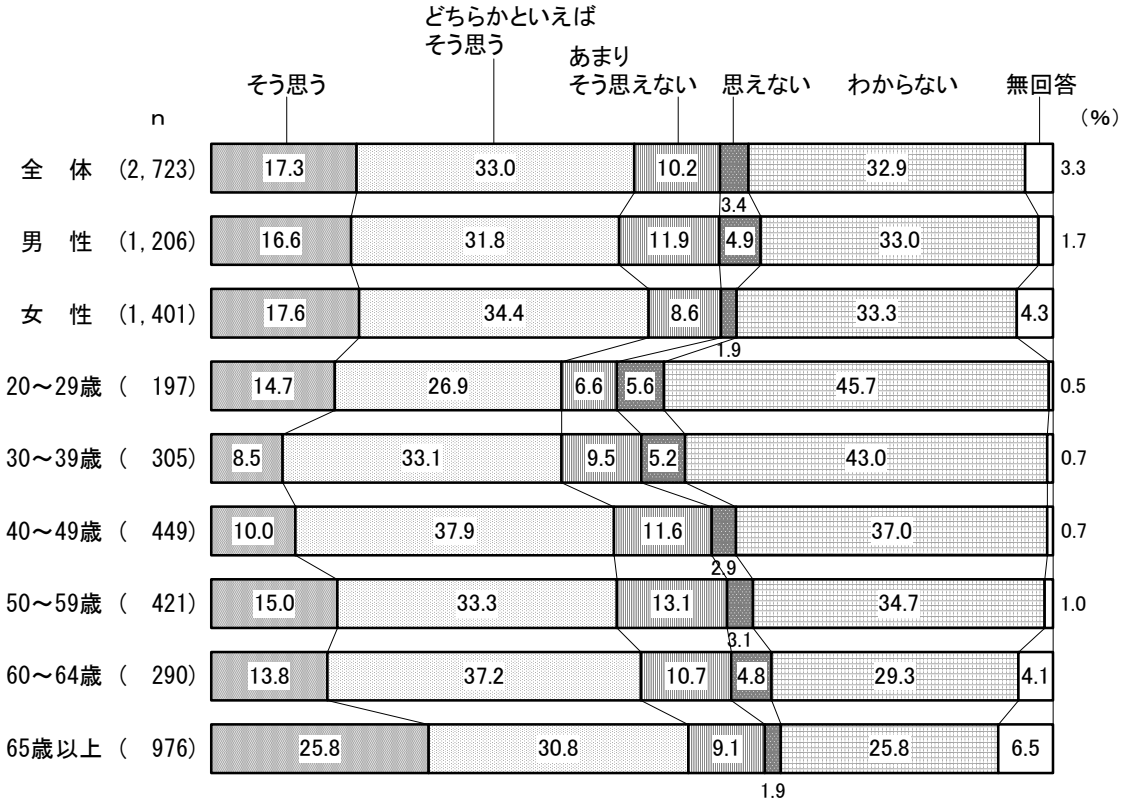
図４－19－１　市民協働の進捗状況－全体、経年比較



市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思うか聞いたところ、「そう思う」（17.3%）と「どちらかといえばそう思う」（33.0%）を合わせた≪そう思う≫（50.3%）が約５割となっている。一方、「あまりそう思えない」（10.2%）と「思えない」（3.4%）を合わせた≪そう思えない≫（13.6%）が１割強となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。（図４－19－１）

図４－19－２　市民協働の進捗状況－性別・年齢別

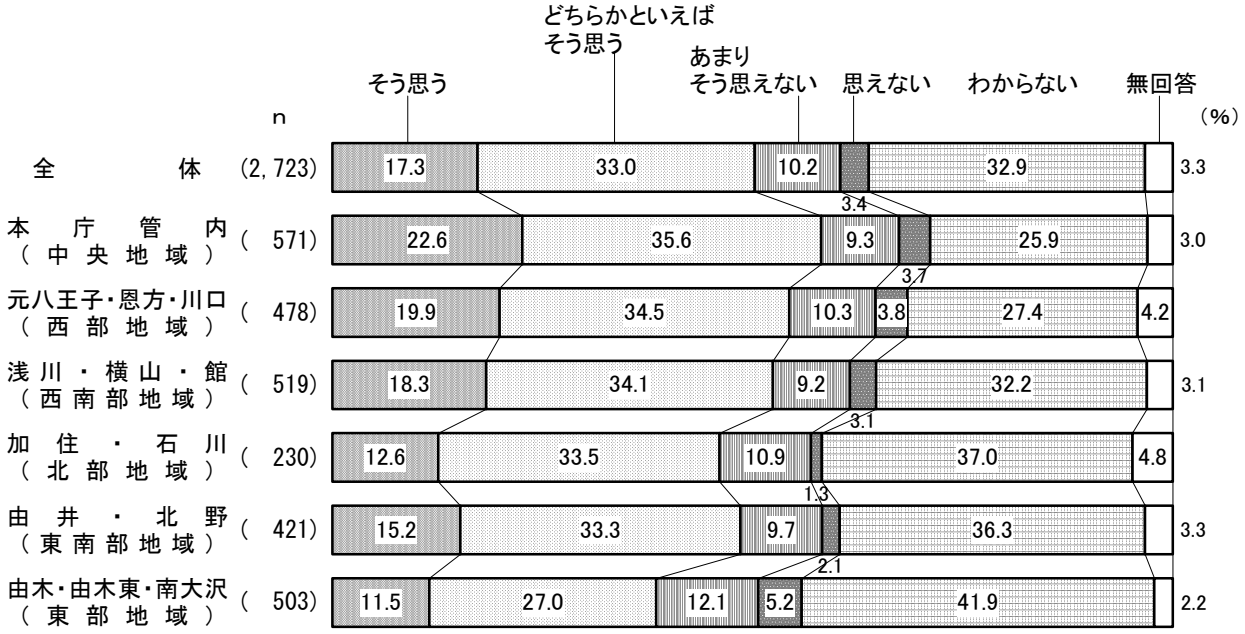


性別にみると、≪そう思う≫は女性（52.0%）が男性（48.4%）より3.6ポイント高くなっている。一方、≪そう思えない≫は男性（16.8%）が女性（10.5%）より6.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、≪そう思う≫は65歳以上（56.6%）で６割近くと多くなっている。

（図４－19－２）

図４－19－３　市民協働の進捗状況－居住地域別



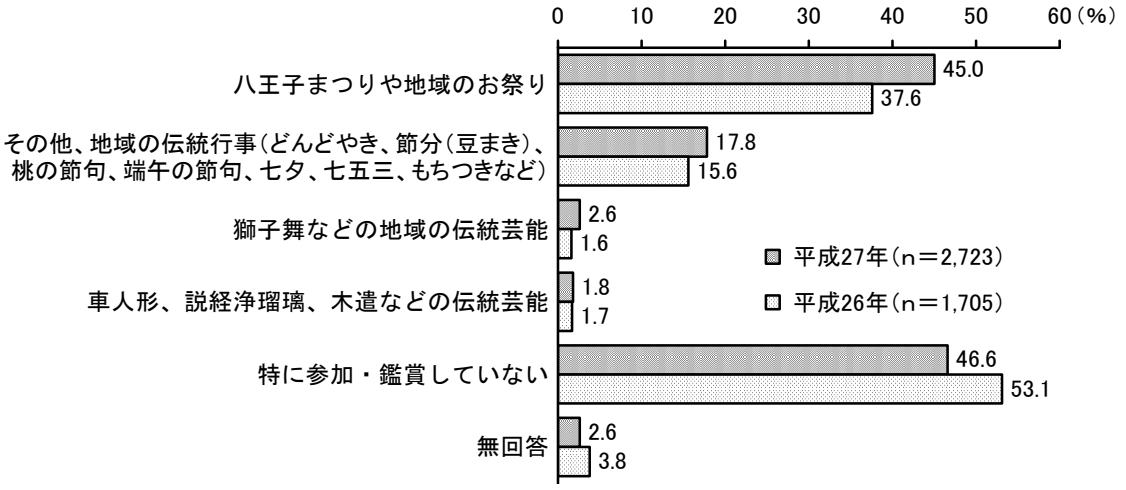
居住地域別にみると、≪そう思う≫は本庁管内（中央地域）（58.2%）で６割近くと多くなっている。一方、≪そう思えない≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（17.3%）で２割近くと多くなっている。（図４－19－３）

（20）地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況

◇「八王子まつりや地域のお祭り」が４割台半ば

問33　あなたは、この１年間に次のような地域の伝統行事や伝統芸能に参加（鑑賞も含みます）しましたか。（○はいくつでも）

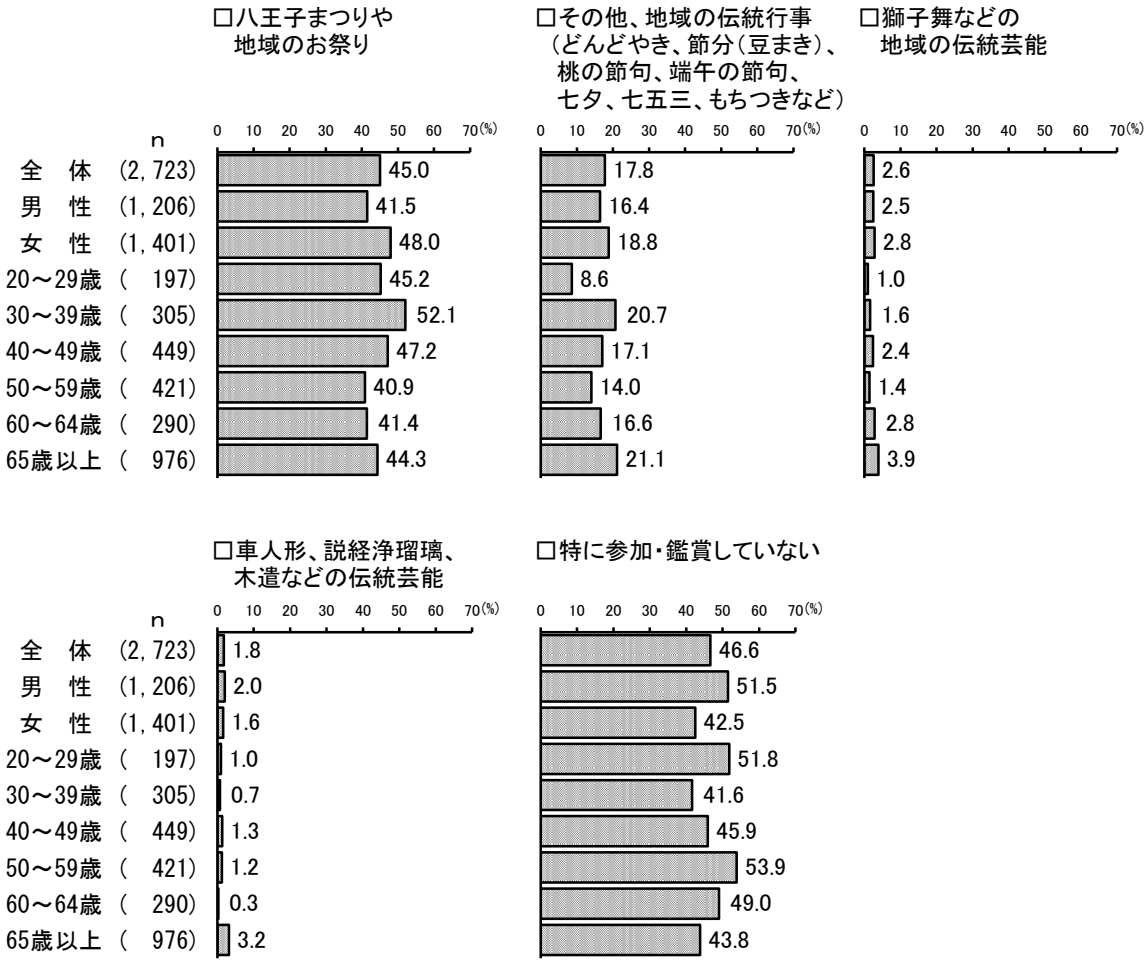
図４－20－１　地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－全体、経年比較



この１年間に地域の伝統行事や伝統芸能に参加したか聞いたところ、「八王子まつりや地域のお祭り」（45.0%）が４割台半ばとなっている。次いで「その他、地域の伝統行事（どんどやき、節分（豆まき）、桃の節句、端午の節句、七夕、七五三、もちつきなど）」（17.8%）が２割近くとなっている。「特に参加・鑑賞していない」（46.6%）は５割近くとなっている。

前回調査と比較すると、「八王子まつりや地域のお祭り」（45.0%）は7.4ポイント増加している。「特に参加・鑑賞していない」（46.6%）は6.5ポイント減少している。（図４－20－１）

図４－20－２　地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－性別・年齢別

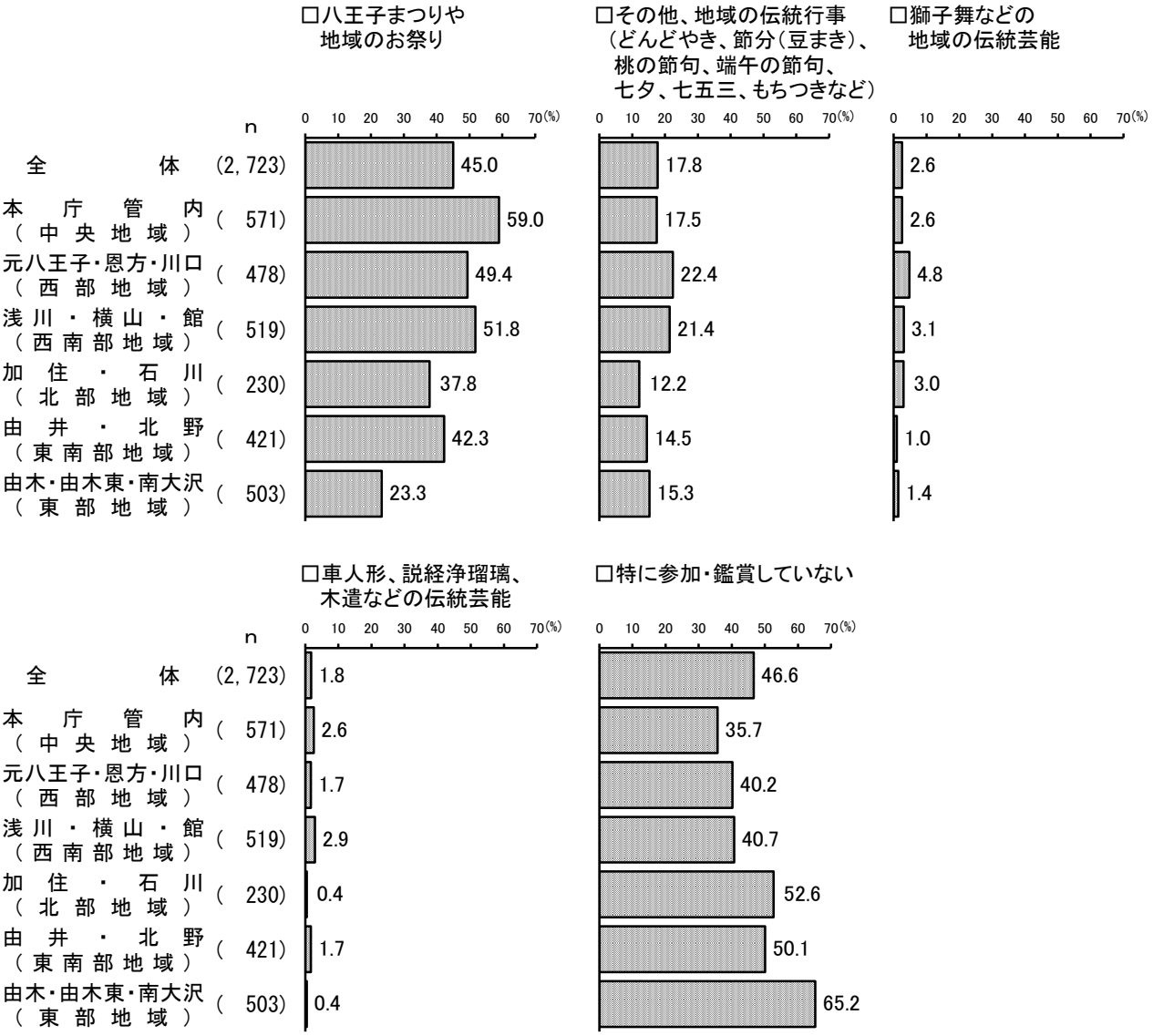


性別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は女性（48.0％）が男性（41.5％）より6.5ポイント高くなっている。「特に参加・鑑賞していない」は男性（51.5％）が女性（42.5％）より9.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は30～39歳（52.1％）で５割強と多くなっている。「特に参加・鑑賞していない」は50～59歳（53.9％）で最も多く５割強となっている。

（図４－20－２）

図４－20－３　地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－居住地域別



居住地域別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は本庁管内（中央地域）（59.0％）で６割弱と多くなっている。「特に参加・鑑賞していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（65.2％）で６割台半ばと多くなっている。（図４－20－３）

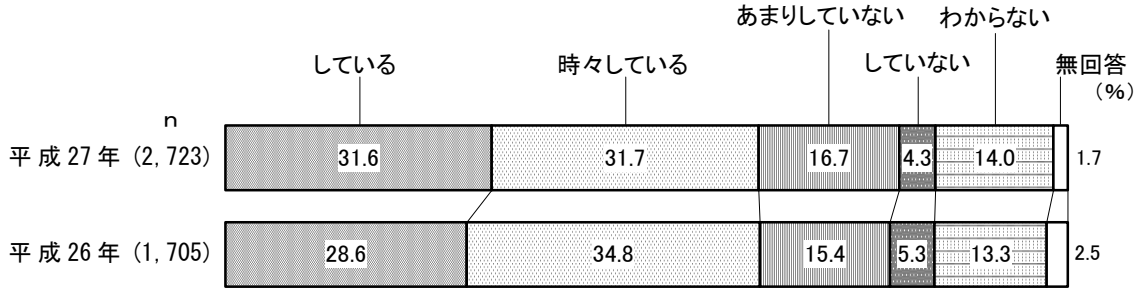
（21）障害のある方への理解や配慮

◇≪している≫が６割強

問34　あなたは日ごろ、障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしていますか。

（○は１つだけ）

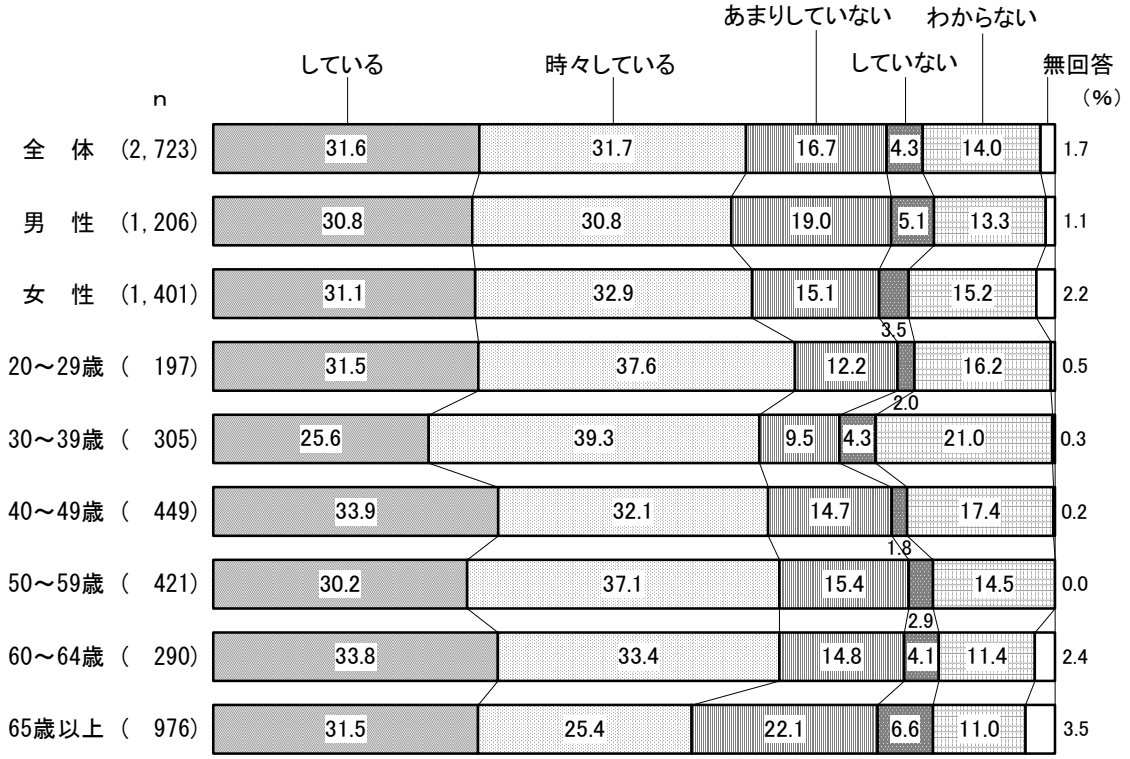
図４－21－１　障害のある方への理解や配慮－全体、経年比較



日ごろ、障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしているか聞いたところ、「している」（31.6%）と「時々している」（31.7%）がともに３割強となっており、この２つを合わせた≪している≫（63.3%）は６割強となっている。一方、「あまりしていない」（16.7%）と「していない」（4.3%）を合わせた≪していない≫（21.0%）は２割強となっている。

前回調査と比較すると、「している」（31.6%）は3.0ポイント増加している。「時々している」（31.7%）は3.1ポイント減少している。（図４－21－１）

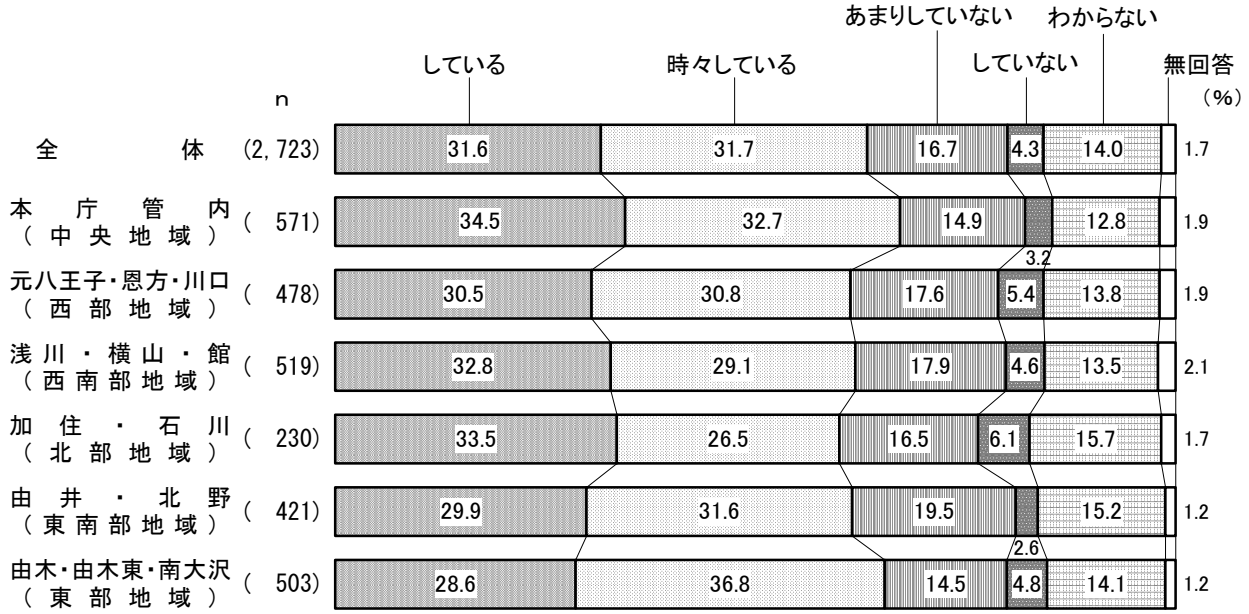
図４－21－２　障害のある方への理解や配慮－性別・年齢別



性別にみると、≪していない≫は男性（24.1%）が女性（18.6%）より5.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、≪している≫は20～29歳（69.1%）で７割弱と多くなっている。一方、≪していない≫は65歳以上（28.7%）で３割近くと多くなっている。（図４－21－２）

図４－21－３　障害のある方への理解や配慮－居住地域別



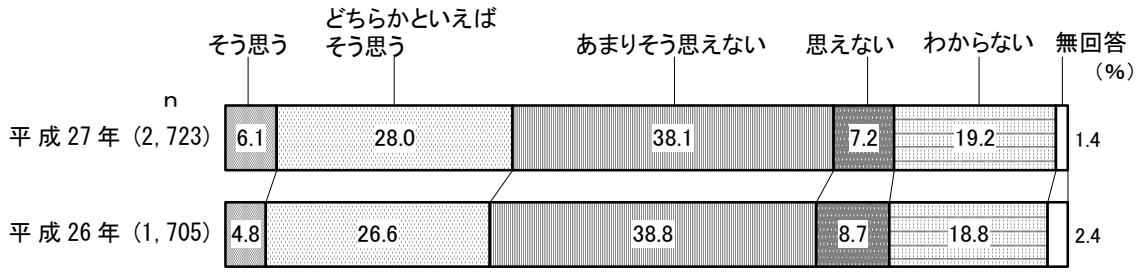
居住地域別にみると、≪している≫は本庁管内（中央地域）（67.2%）で７割近くと多くなっている。（図４－21－３）

（22）誰もが安全で快適に暮らせるまち

◇≪そう思う≫が３割台半ば

問35　あなたは、市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思いますか。（○は１つだけ）

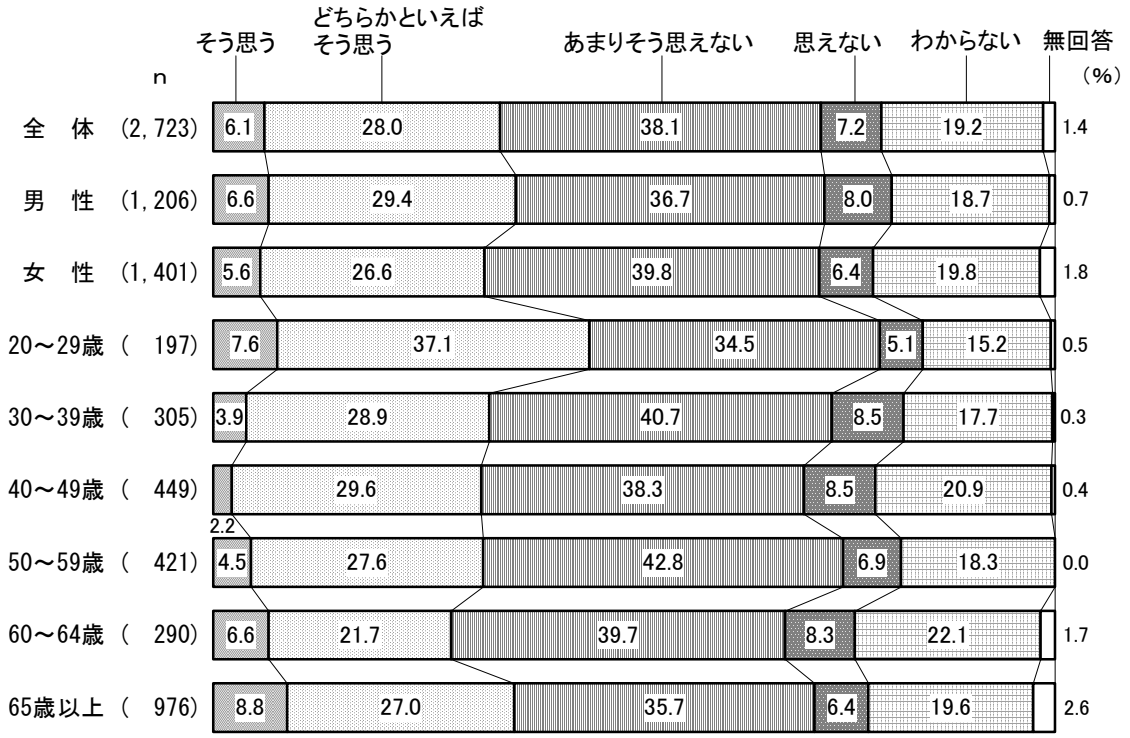
図４－22－１　誰もが安全で快適に暮らせるまち－全体、経年比較



市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思うか聞いたところ、「そう思う」（6.1%）と「どちらかといえばそう思う」（28.0%）を合わせた≪そう思う≫（34.1%）が３割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思えない」（38.1%）と「思えない」（7.2%）を合わせた≪そう思えない≫（45.3%）が４割台半ばとなっている。

前回調査と比較すると、≪そう思う≫（34.1%）は2.7ポイント増加している。（図４－22－１）

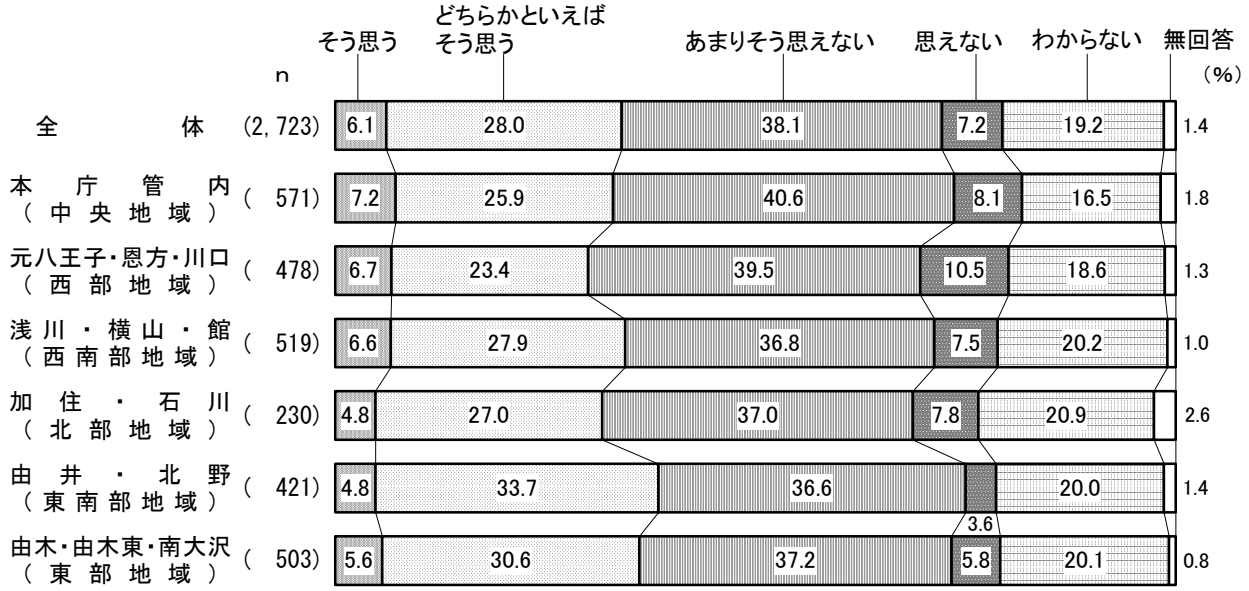
図４－22－２　誰もが安全で快適に暮らせるまち－性別・年齢別



性別にみると、≪そう思う≫は男性（36.0%）が女性（32.2%）より3.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、≪そう思う≫は20～29歳（44.7%）で４割台半ばと多くなっている。一方、≪そう思えない≫は50～59歳（49.7%）で最も多く５割弱となっている。（図４－22－２）

図４－22－３　誰もが安全で快適に暮らせるまち－居住地域別



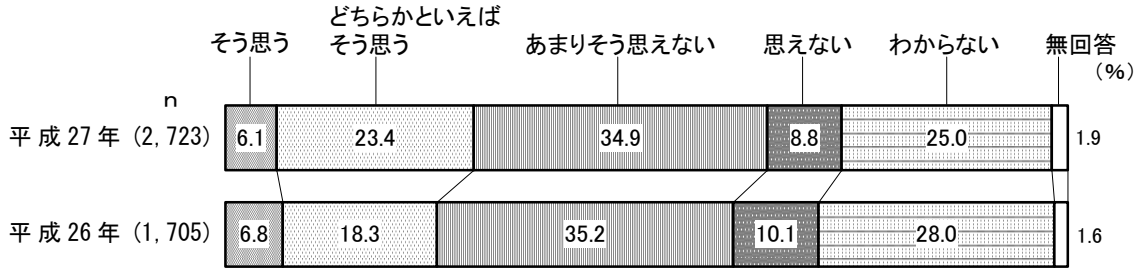
居住地域別にみると、≪そう思う≫は由井・北野（東南部地域）（38.5%）で最も多く４割近くとなっている。一方、≪そう思えない≫は元八王子・恩方・川口（西部地域）（50.0%）で５割と多くなっている。（図４－22－３）

(23) 市内の交通渋滞緩和

◇≪そう思う≫が３割弱

問36　あなたは、市内の交通渋滞が緩和されていると思いますか。（○は１つだけ）

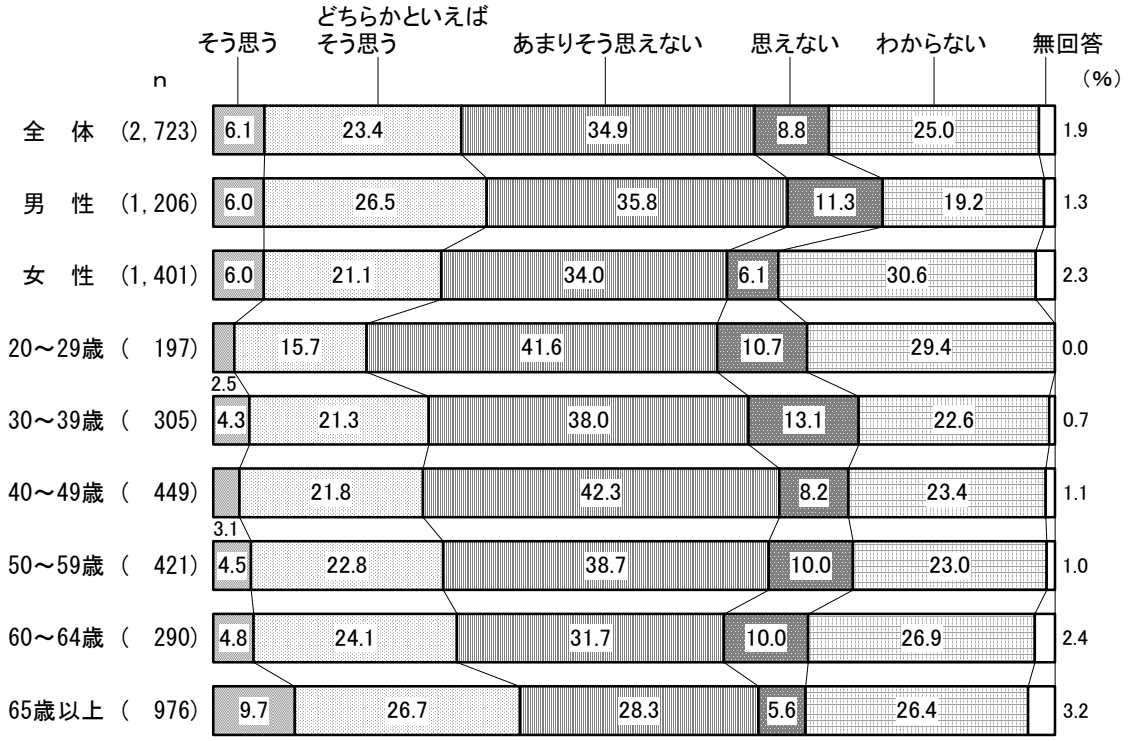
図４－23－１　市内の交通渋滞緩和－全体、経年比較



市内の交通渋滞が緩和されていると思うか聞いたところ、「そう思う」（6.1%）と「どちらかといえばそう思う」（23.4%）を合わせた≪そう思う≫（29.5%）が３割弱となっている。一方、「あまりそう思えない」（34.9%）と「思えない」（8.8%）を合わせた≪そう思えない≫（43.7%）が４割強となっている。

前回調査と比較すると、≪そう思う≫（29.5%）は4.4ポイント増加している。（図４－23－１）

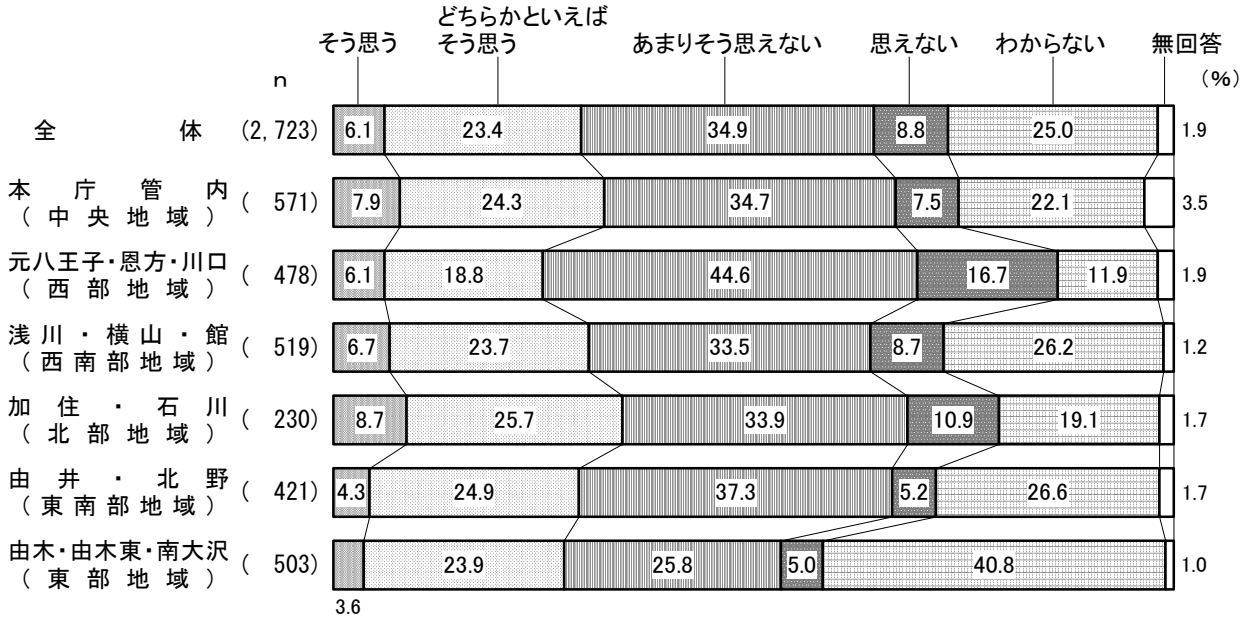
図４－23－２　市内の交通渋滞緩和－性別・年齢別



性別にみると、≪そう思う≫は男性（32.5%）が女性（27.1%）より5.4ポイント高くなっている。一方、≪そう思えない≫は男性（47.1%）が女性（40.1%）より7.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、≪そう思う≫は65歳以上（36.4%）で４割近くと多くなっている。一方、≪そう思えない≫は20～29歳（52.3%）で最も多く５割強となっている。（図４－23－２）

図４－23－３　市内の交通渋滞緩和－居住地域別



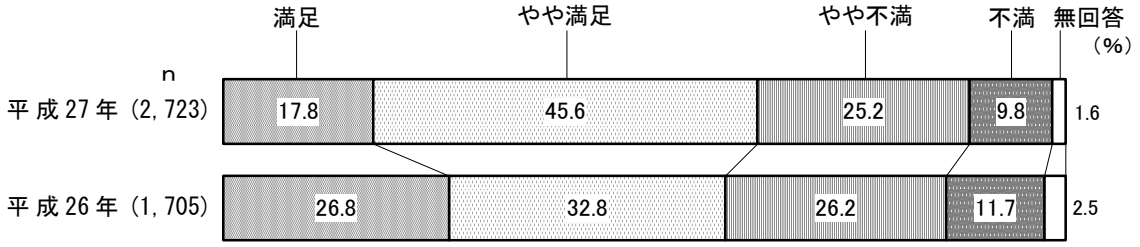
居住地域別にみると、≪そう思う≫は加住・石川（北部地域）（34.4%）で３割台半ばと多くなっている。一方、≪そう思えない≫は元八王子・恩方・川口（西部地域）（61.3%）で６割強と多くなっている。（図４－23－３）

(24) 公共交通の利便性の満足度

◇≪満足≫が６割強

問37　あなたは、あなたのお住まいの地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足していますか。（○は１つだけ）

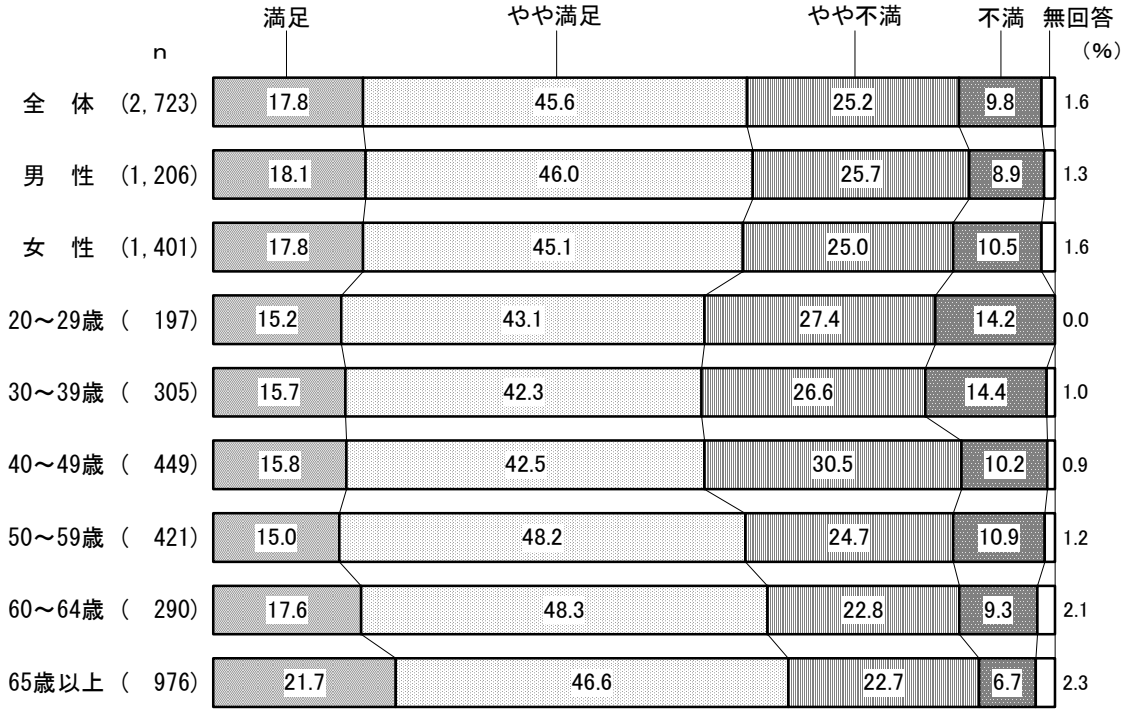
図４－24－１　公共交通の利便性の満足度－全体、経年比較



地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足しているか聞いたところ、「満足」（17.8%）と「やや満足」（45.6%）を合わせた≪満足≫（63.4%）が６割強となっている。一方、「やや不満」（25.2%）と「不満」（9.8%）を合わせた≪不満≫（35.0%）が３割台半ばとなっている。

前回調査と比較すると、≪満足≫（63.4%）は3.8ポイント増加している。（図４－24－１）

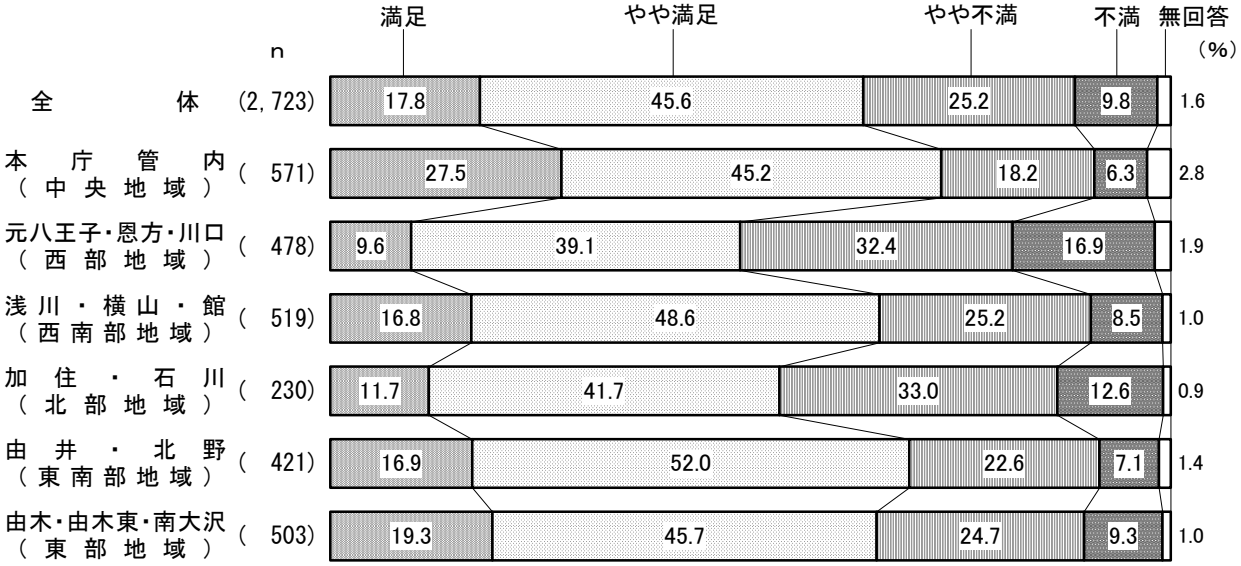
図４－24－２　公共交通の利便性の満足度－性別・年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、≪満足≫は65歳以上（68.3%）で７割近くと多くなっている。一方、≪不満≫は20～29歳（41.6%）で最も多く４割強となっている。（図４－24－２）

図４－24－３　公共交通の利便性の満足度－居住地域別



居住地域別にみると、≪満足≫は本庁管内（中央地域）（72.7%）で７割強と多くなっている。一方、≪不満≫は元八王子・恩方・川口（西部地域）（49.3%）で５割弱と多くなっている。

（図４－24－３）

（25）都市の美観が保持されたまち

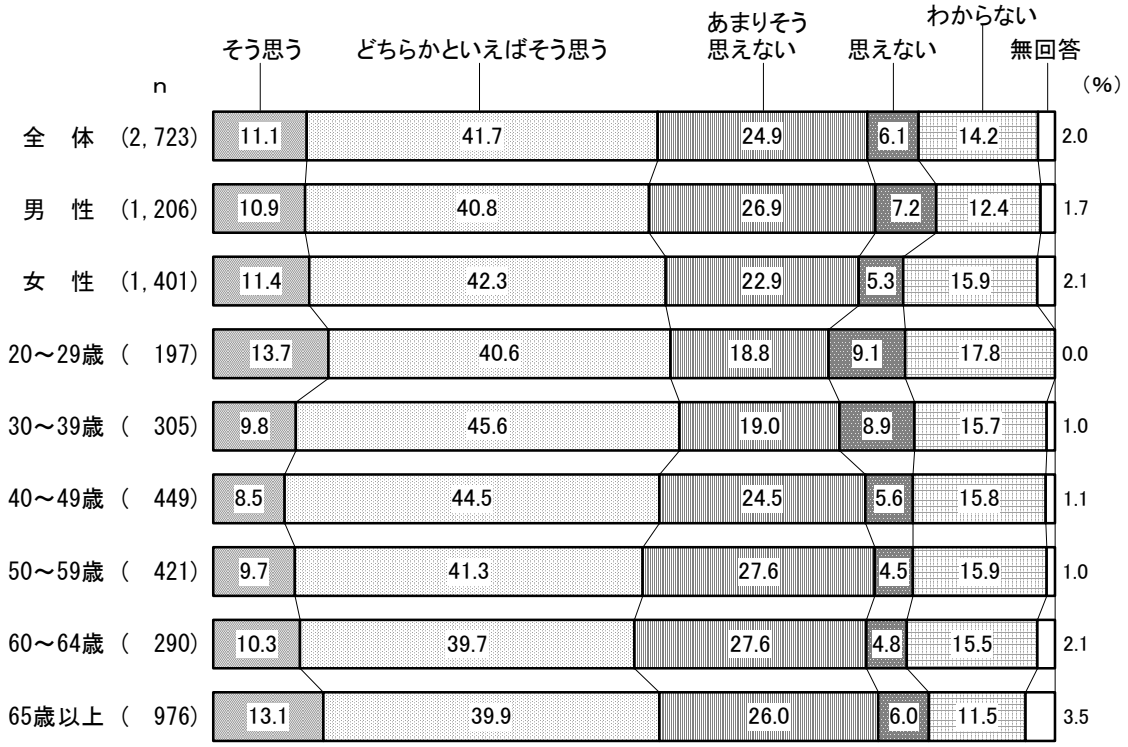
◇≪そう思う≫が５割強

問38　本市は、都市の美観が保持されているまちであると思いますか。（○は１つだけ）

図４－25－１　都市の美観が保持されたまち－全体

都市の美観が保持されているまちであると思うか聞いたところ、「そう思う」（11.1%）と「どちらかといえばそう思う」（41.7%）を合わせた≪そう思う≫（52.8%）が５割強となっている。一方、「あまりそう思えない」（24.9%）と「思えない」（6.1%）を合わせた≪そう思えない≫（31.0%）が３割強となっている。（図４－25－１）

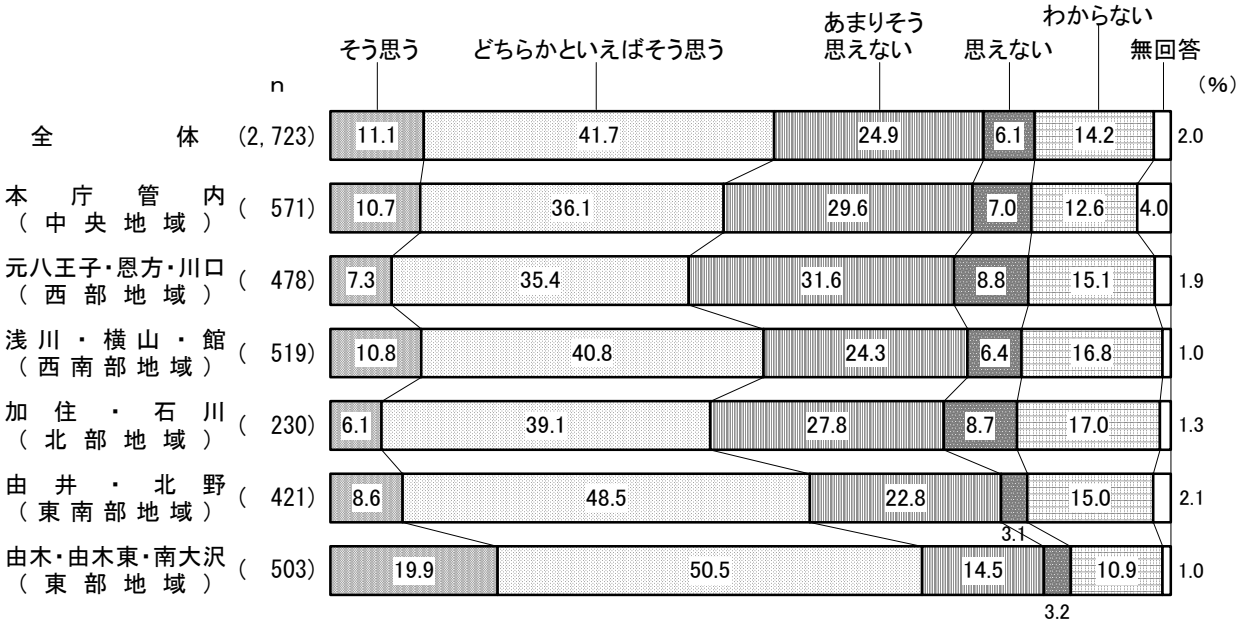
図４－25－２　都市の美観が保持されたまち－性別・年齢別



性別にみると、≪そう思えない≫は男性（34.1%）が女性（28.2%）より5.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図４－25－２）

図４－25－３　都市の美観が保持されたまち－居住地域別



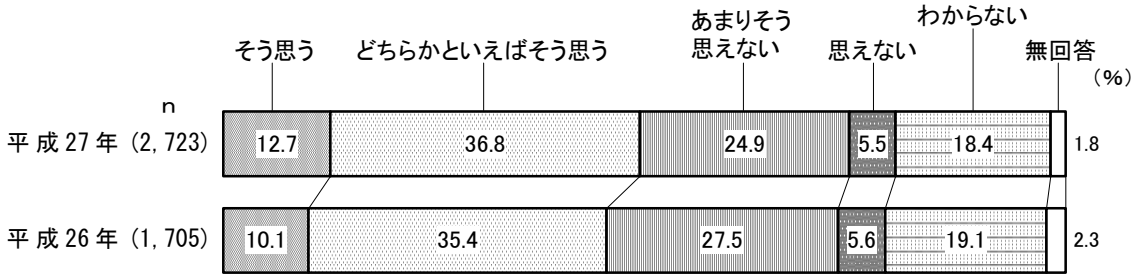
居住地域別にみると、≪そう思う≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（70.4%）で約７割と多くなっている。一方、≪そう思わない≫は元八王子・恩方・川口（西部地域）（40.4%）で約４割と多くなっている。（図４－25－３）

（26）自然、歴史、文化が活かされた景観

◇≪そう思う≫が５割弱

問39　あなたは、市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に生かされていると思いますか。（○は１つだけ）

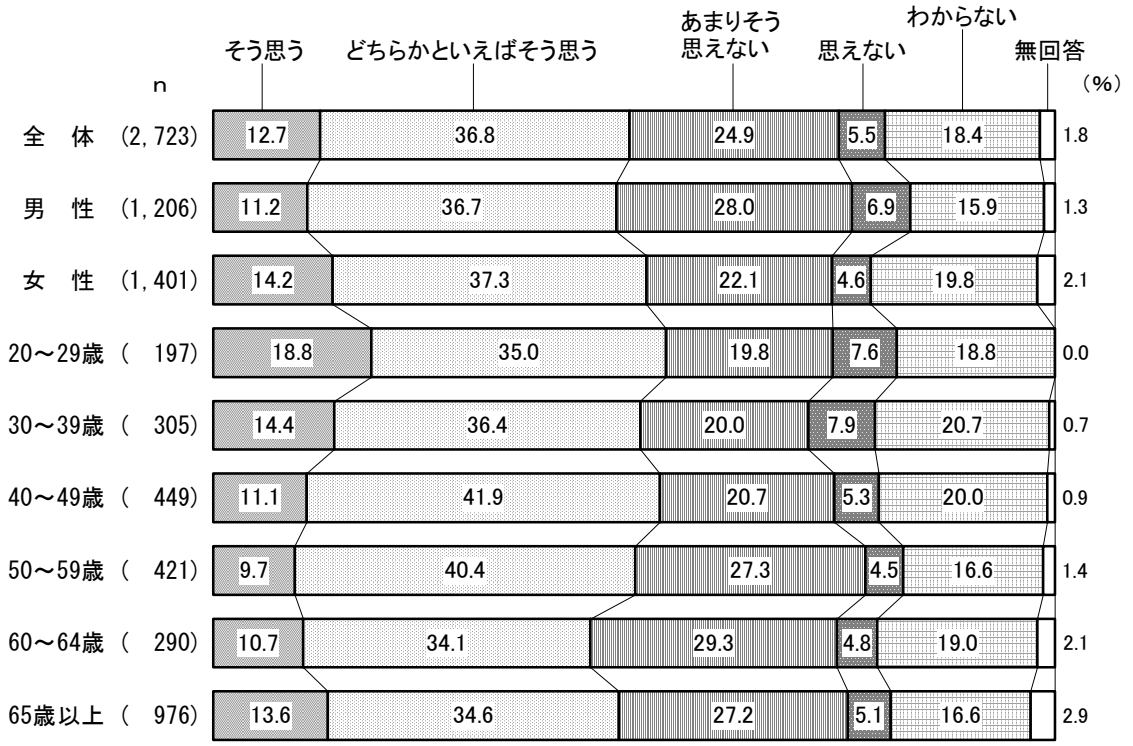
図４－26－１　自然、歴史、文化が活かされた景観－全体、経年比較



市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に生かされていると思うか聞いたところ、「そう思う」（12.7%）と「どちらかといえばそう思う」（36.8%）を合わせた≪そう思う≫（49.5%）が５割弱となっている。一方、「あまりそう思えない」（24.9%）と「思えない」（5.5%）を合わせた≪そう思えない≫（30.4%）が約３割となっている。

前回調査と比較すると、≪そう思う≫（49.5%）は4.0ポイント増加している。（図４－26－１）

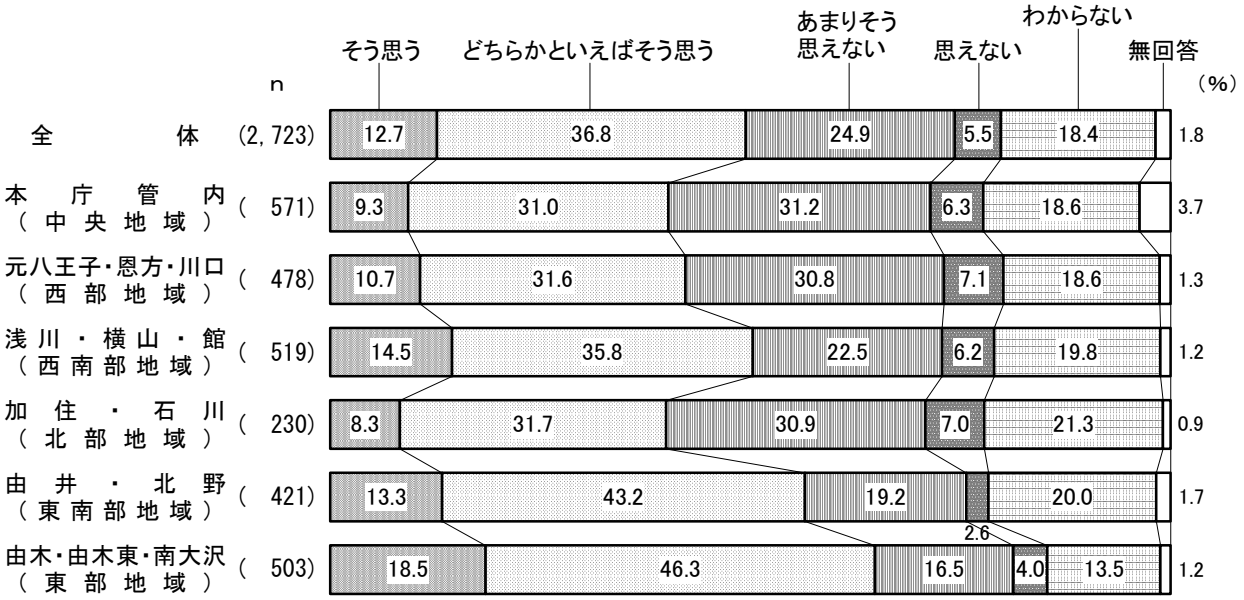
図４－26－２　自然、歴史、文化が活かされた景観－性別・年齢別



性別にみると、≪そう思う≫は女性（51.5%）が男性（47.9%）より3.6ポイント高くなっている。一方、≪そう思えない≫は男性（34.9%）が女性（26.7%）より8.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、≪そう思う≫は20～29歳（53.8%）で最も多く５割強となっている。一方、≪そう思えない≫は60～64歳（34.1%）で３割台半ばと多くなっている。（図４－26－２）

図４－26－３　自然、歴史、文化が活かされた景観－居住地域別



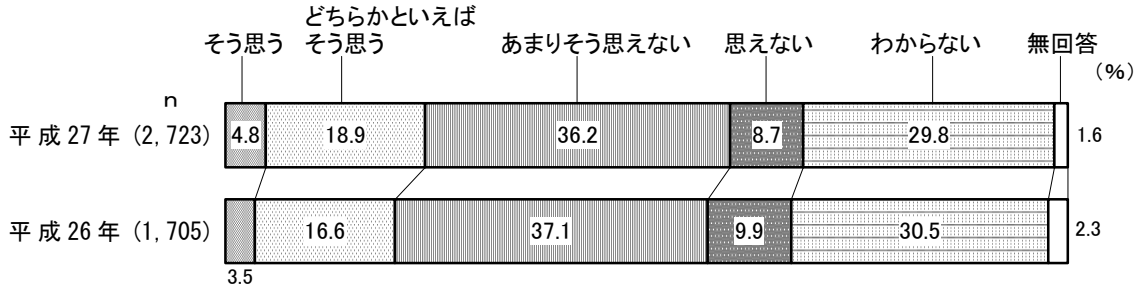
居住地域別にみると、≪そう思う≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（64.8%）で６割台半ばと多くなっている。一方、≪そう思えない≫は元八王子・恩方・川口（西部地域）（37.9%）と加住・石川（北部地域）（37.9%）で４割近くと多くなっている。（図４－26－３）

(27) 市内の産業活動

◇≪そう思う≫が２割強

問40　あなたは、商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思いますか。（○は１つだけ）

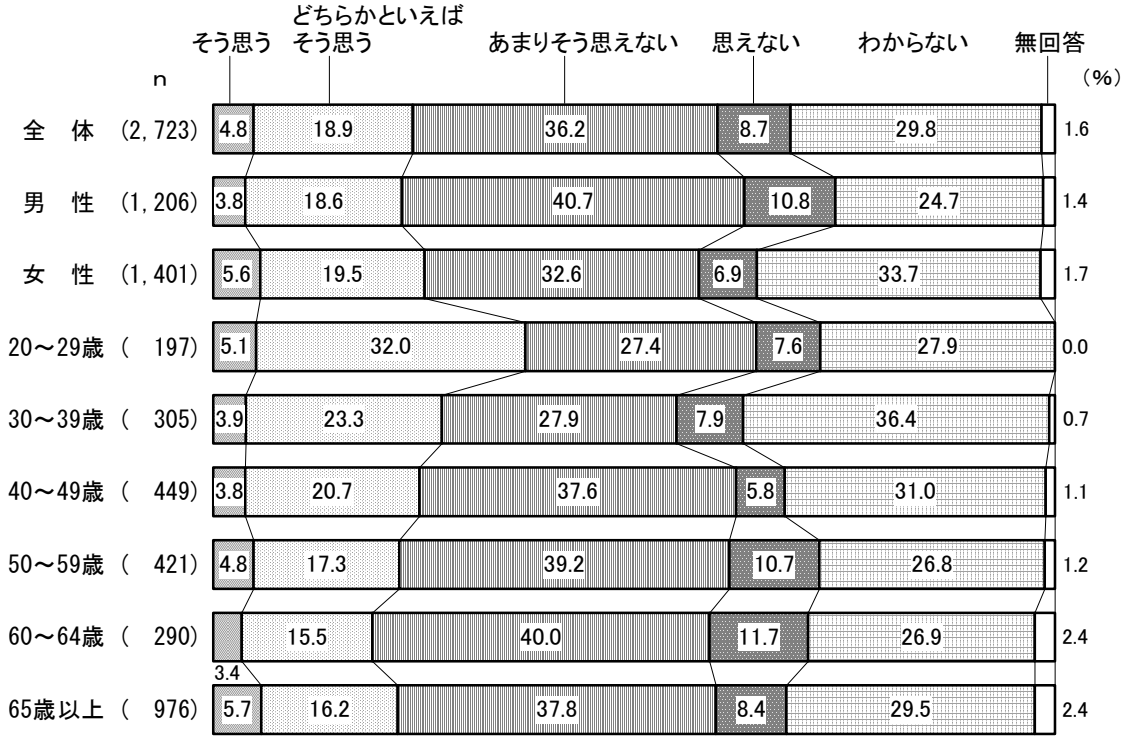
図４－27－１　市内の産業活動－全体、経年比較



商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.8%）と「どちらかといえばそう思う」(18.9%）を合わせた≪そう思う≫（23.7%）が２割強となっている。一方、「あまりそう思えない」（36.2%）と「思えない」（8.7%）を合わせた≪そう思えない≫（44.9%）が４割台半ばとなっている。

前回調査と比較すると、≪そう思う≫（23.7%）は3.6ポイント増加している。（図４－27－１）

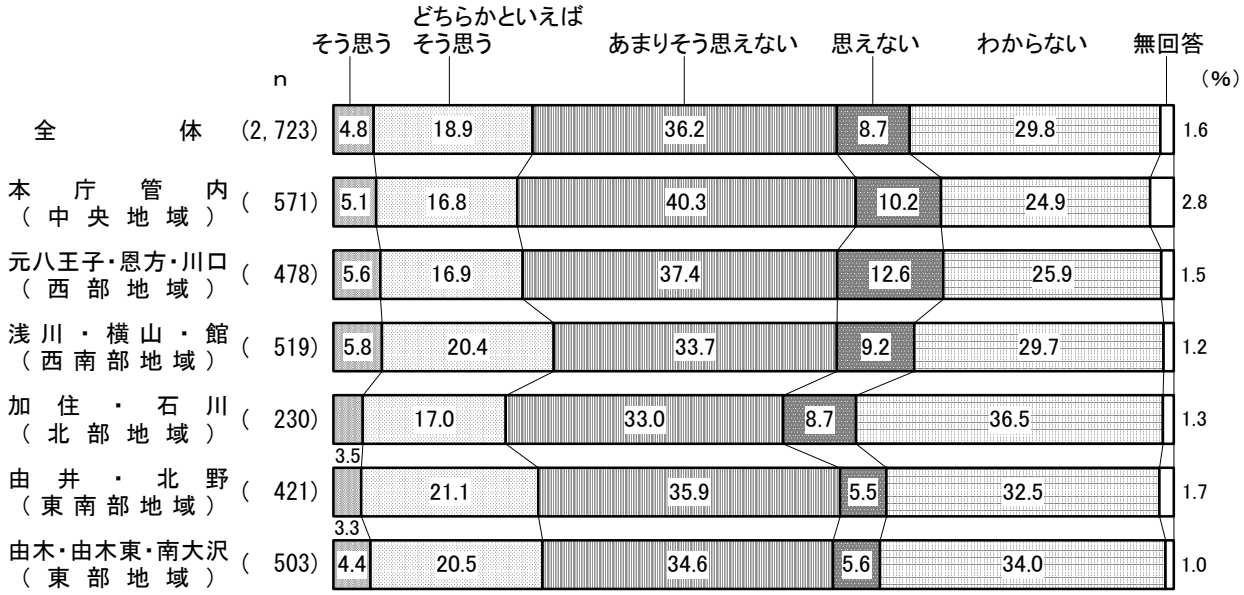
図４－27－２　市内の産業活動－性別・年齢別



性別にみると、≪そう思えない≫は男性（51.5%）が女性（39.5%）より12.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、≪そう思う≫は20～29歳（37.1%）で４割近くと多くなっている。一方、≪そう思えない≫は60～64歳（51.7%）で５割強と多くなっている。（図４－27－２）

図４－27－３　市内の産業活動－居住地域別



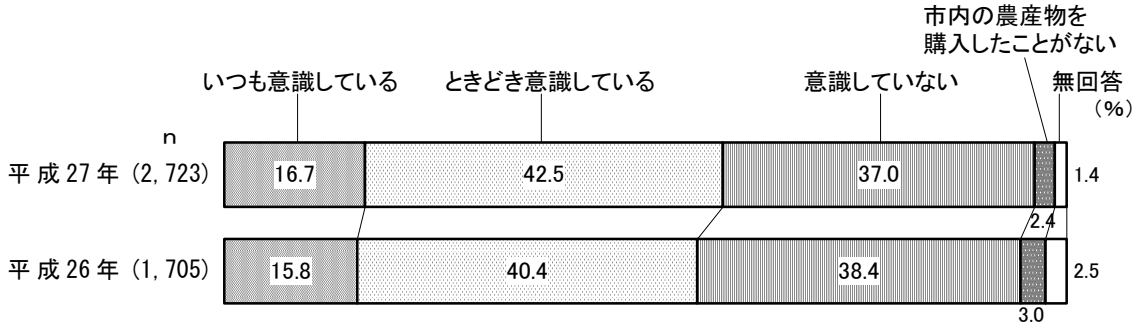
居住地域別にみると、≪そう思えない≫は本庁管内（中央地域）（50.5%）で約５割と多くなっている。（図４－27－３）

（28）市内の農産物の購入

◇≪意識している≫が６割弱

問41　あなたは、市内の農産物（野菜・果物・花など）を意識して購入（消費）していますか。
（○は１つだけ）

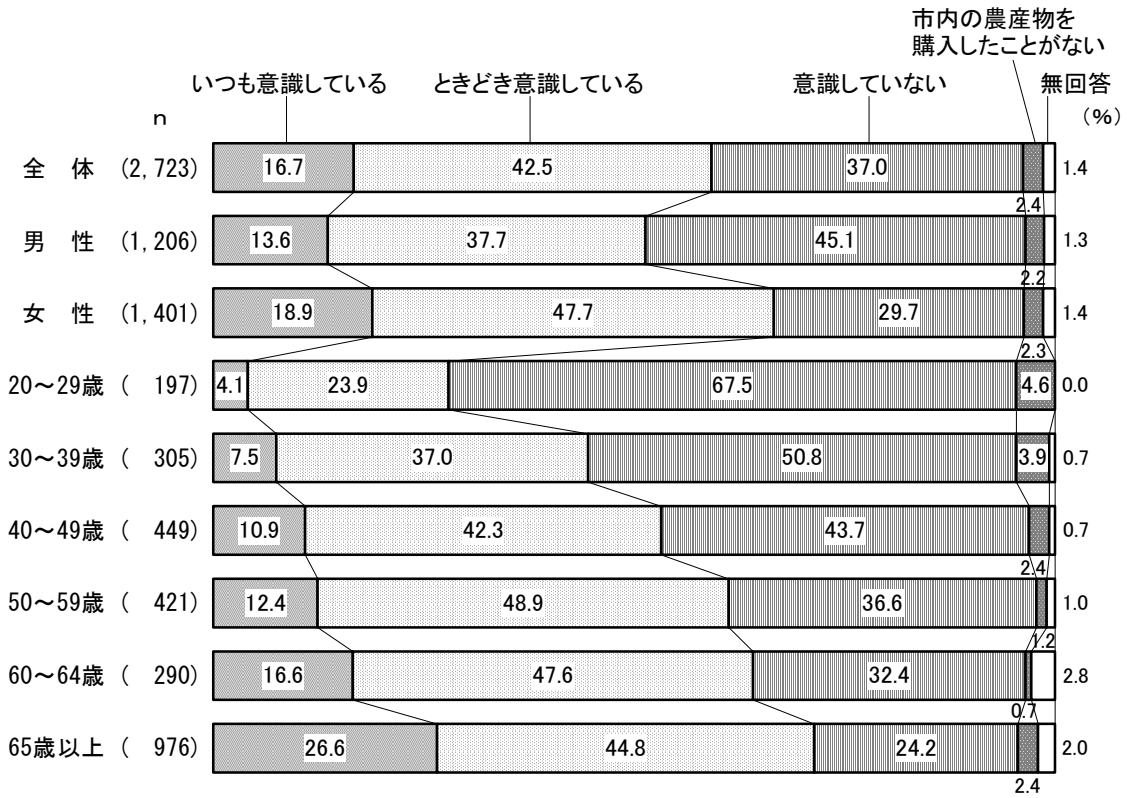
図４－28－１　市内の農産物の購入－全体、経年比較



市内の農産物（野菜・果物・花など）を意識して購入（消費）しているか聞いたところ、「ときどき意識している」（42.5%）が４割強で最も多く、これと「いつも意識している」（16.7%）の２つを合わせた≪意識している≫（59.2%）は６割弱となっている。一方、「意識していない」（37.0%）は４割近くとなっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。（図４－28－１）

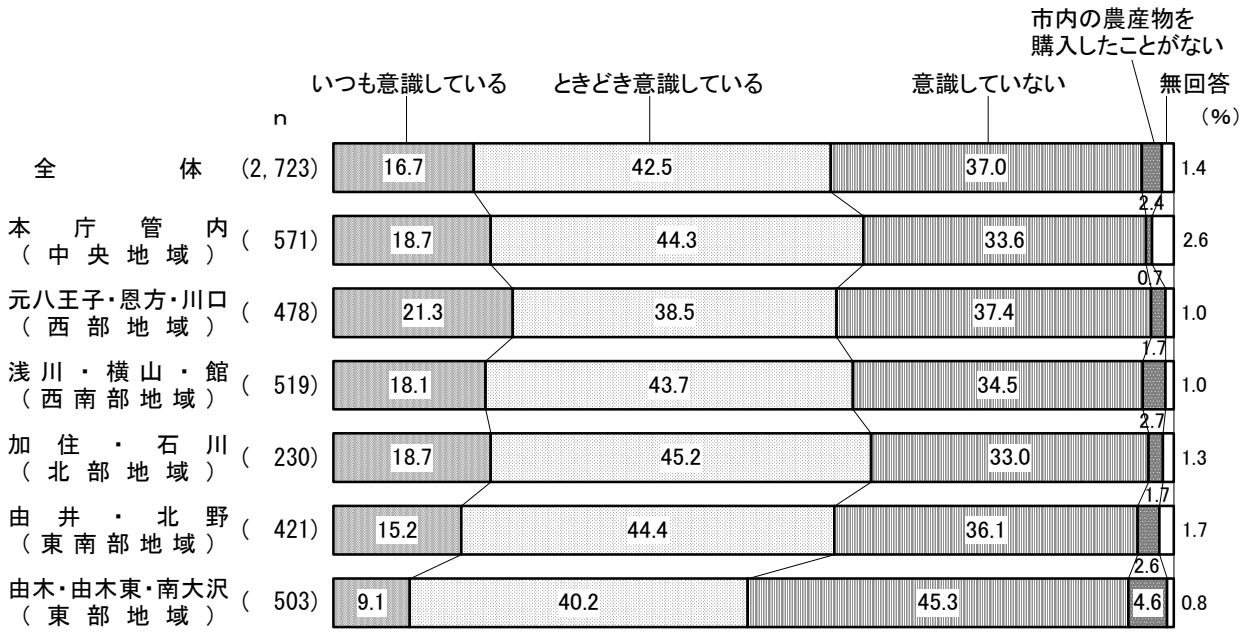
図４－28－２　市内の農産物の購入－性別・年齢別



性別にみると、≪意識している≫は女性（66.6%）が男性（51.3%）より15.3ポイント高くなっている。「意識していない」は男性（45.1%）が女性（29.7%）より15.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、≪意識している≫は高い年代ほど割合が多くなっており、65歳以上（71.4%）で７割強と多くなっている。「意識していない」は低い年代ほど割合が多くなっており、20～29歳（67.5%）で７割近くと多くなっている。（図４－28－２）

図４－28－３　市内の農産物の購入－居住地域別



居住地域別にみると、≪意識している≫は加住・石川（北部地域）（63.9%）で最も多く６割強となっている。「意識していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（45.3%）で４割台半ばと多くなっている。（図４－28－３）

（29）地球環境への配慮

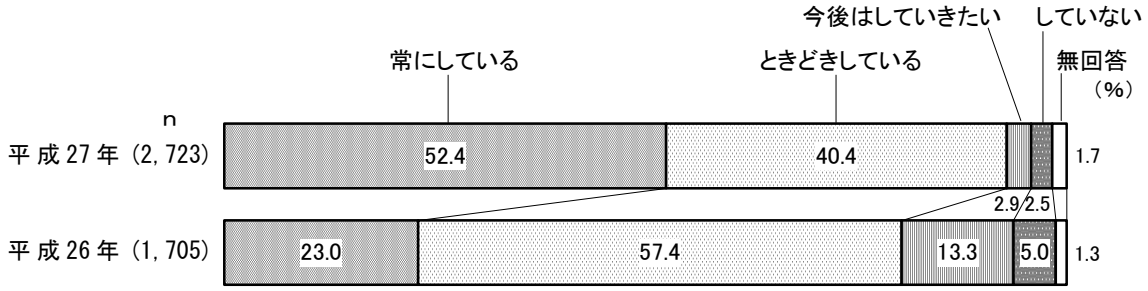
◇「常にしている」が５割強

問42　あなたは、ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしていますか。
（○は１つだけ）

※ふだんの暮らしの中で地球環境のためにできる取り組みとは・・・
- ○過度な冷暖房の使用を控える
- ○マイカーの使用を控える
- ○電気をこまめに消す
- ○省エネ製品を利用する
- ○冷蔵庫の開閉に気を使う
- ○買物用のバッグを持参して買い物に行く
- ○ごみと資源物を分別し、適正に排出する

など

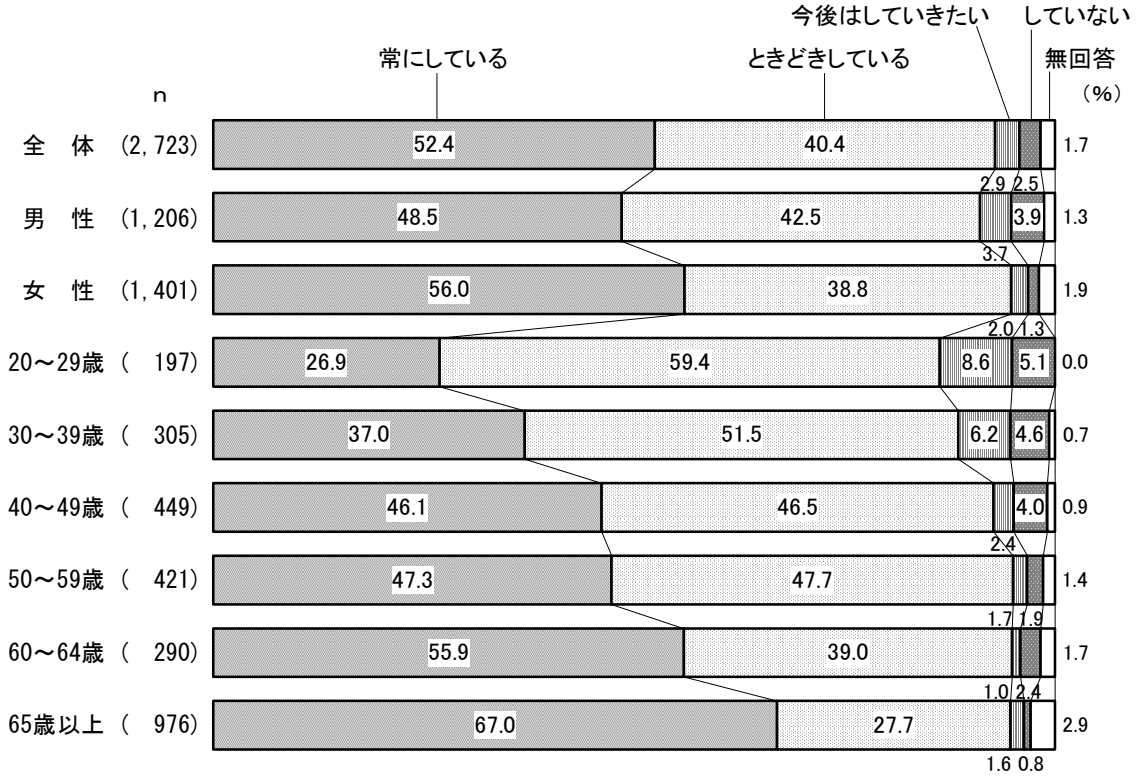
図４－29－１　地球環境への配慮－全体、経年比較



ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしているか聞いたところ、「常にしている」（52.4%）が５割強で、「ときどきしている」（40.4%）が約４割となっている。

前回調査と比較すると、「常にしている」（52.4%）は29.4ポイント増加している。「ときどきしている」（40.4%）は17.0ポイント減少している。「今後はしていきたい」（2.9%）は10.4ポイント減少している。（図４－29－１）

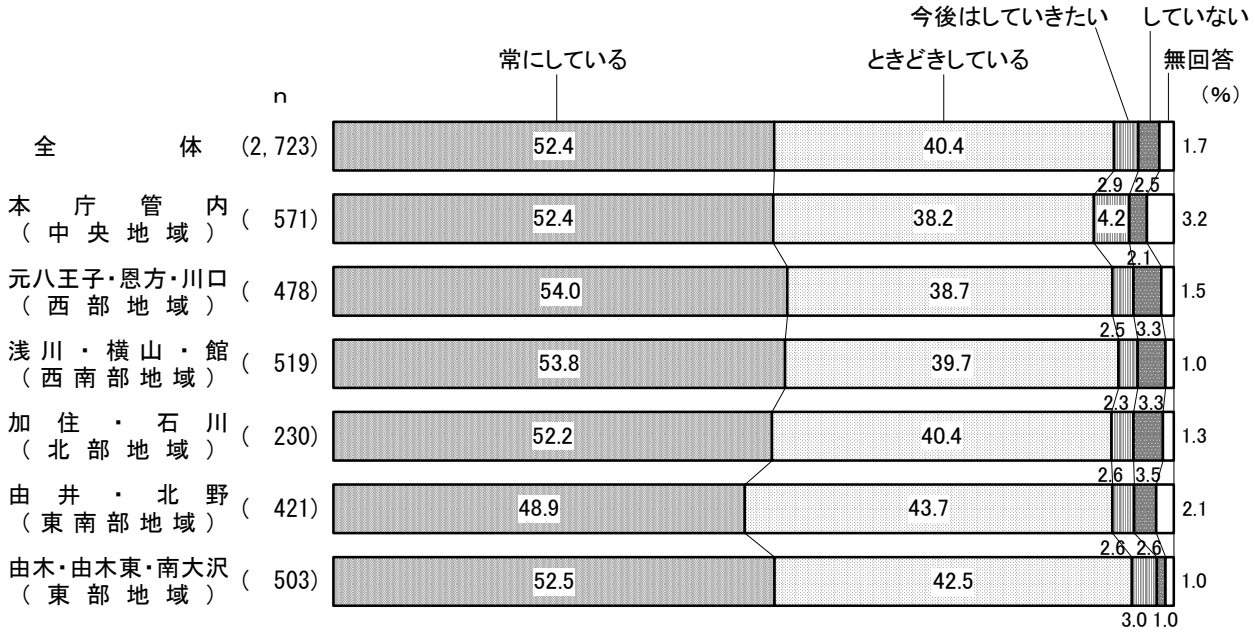
図４－29－２　地球環境への配慮－性別・年齢別



性別にみると、「常にしている」は女性（56.0%）が男性（48.5%）より7.5ポイント高くなっている。「ときどきしている」は男性（42.5%）が女性（38.8%）より3.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「常にしている」は高い年代ほど割合が多くなっており、65歳以上（67.0%）で７割近くと多くなっている。「ときどきしている」は20～29歳（59.4%）で６割弱と多くなっている。（図４－29－２）

図４－29－３　地球環境への配慮－居住地域別



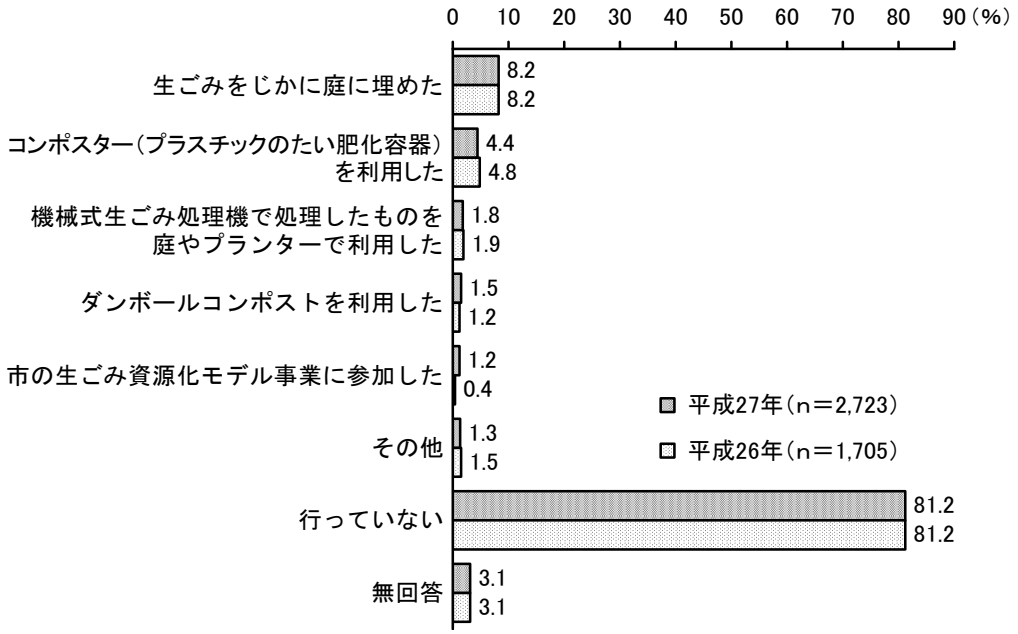
居住地域別にみると、「ときどきしている」は由井・北野（東南部地域）（43.7%）で最も多く４割強となっている。（図４－29－３）

(30) 生ごみのたい肥化の有無

◇「行っていない」が８割強

問43　あなたの世帯は、この１年間に何らかの方法により生ごみのたい肥化を行いましたか。
（○はいくつでも）

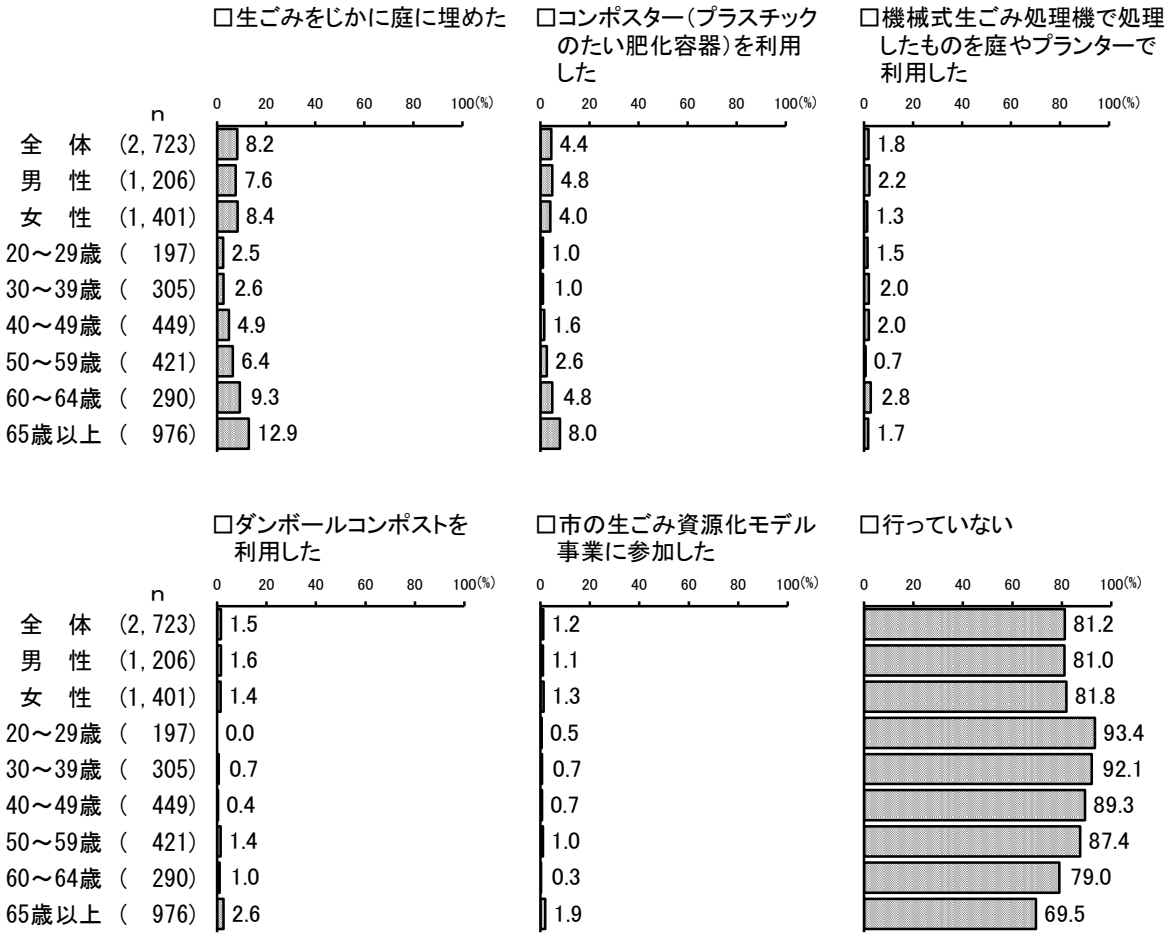
図４－30－１　生ごみのたい肥化の有無－全体、経年比較



この１年間に何らかの方法により生ごみのたい肥化を行ったか聞いたところ、「行っていない」（81.2%）が８割強で多くなっている。「生ごみをじかに庭に埋めた」（8.2%）は１割近くとなっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。（図４－30－１）

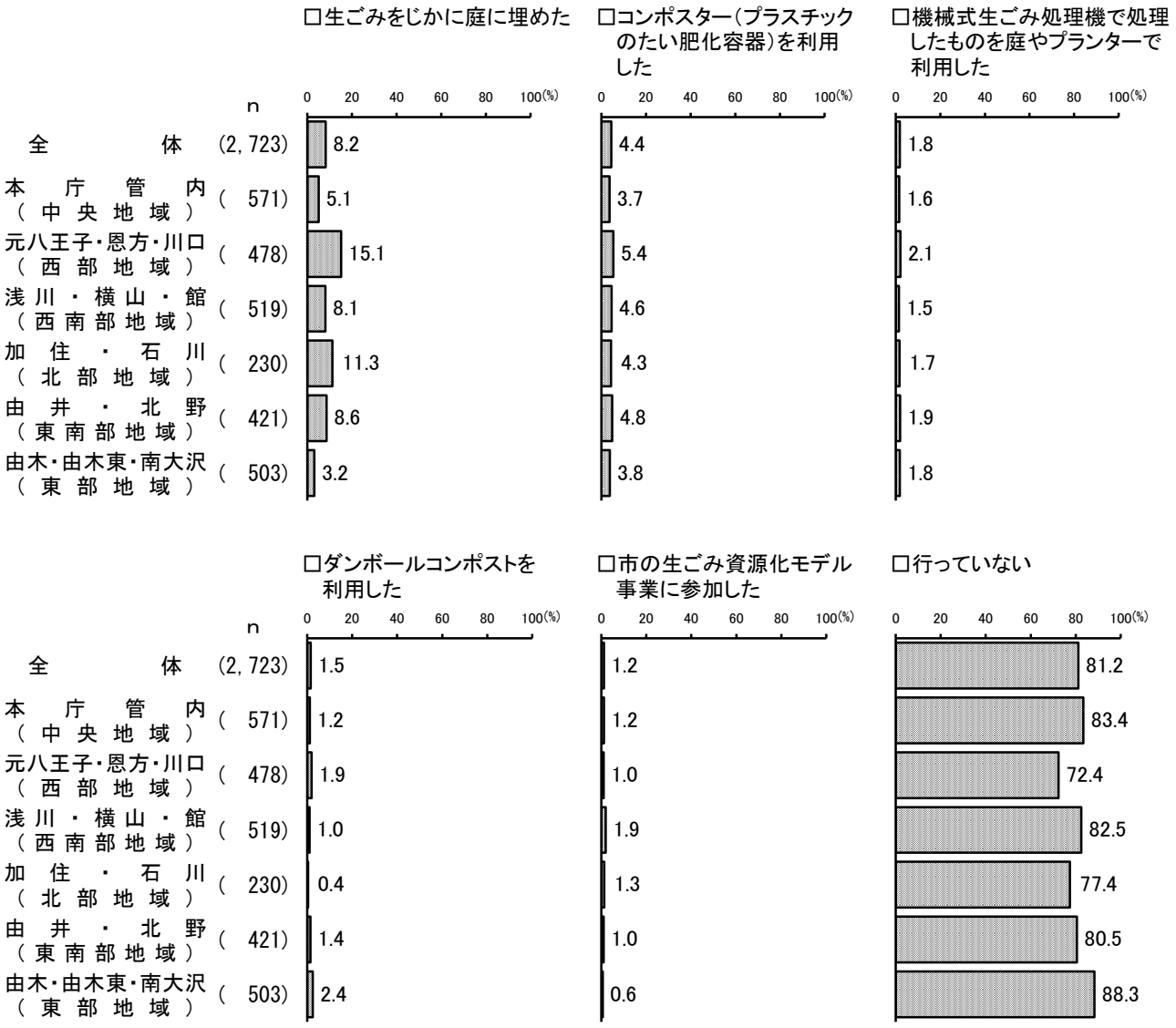
図４－30－２　生ごみのたい肥化の有無－性別・年齢別（上位５位＋「行っていない」）



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「生ごみをじかに庭に埋めた」は65歳以上（12.9%）で１割強と多くなっている。「行っていない」は20～29歳（93.4%）で最も多く９割強となっている。（図４－30－２）

図４－30－３　生ごみのたい肥化の有無－居住地域別（上位５位＋「行っていない」）



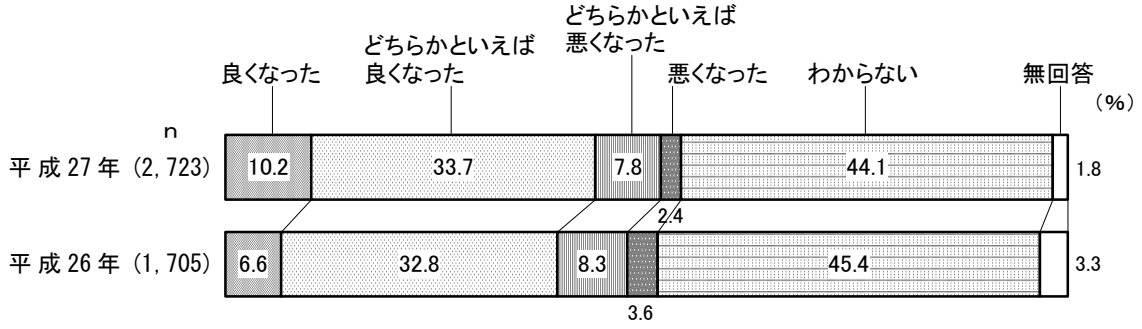
居住地域別にみると、「生ごみをじかに庭に埋めた」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（15.1％）で１割台半ばと多くなっている。「行っていない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（88.3％）で９割近くと多くなっている。（図４－30－３）

（31）市の生活環境

◇≪良くなった≫が４割強

問44　あなたは、市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べどうなったと思いますか。（○は１つだけ）

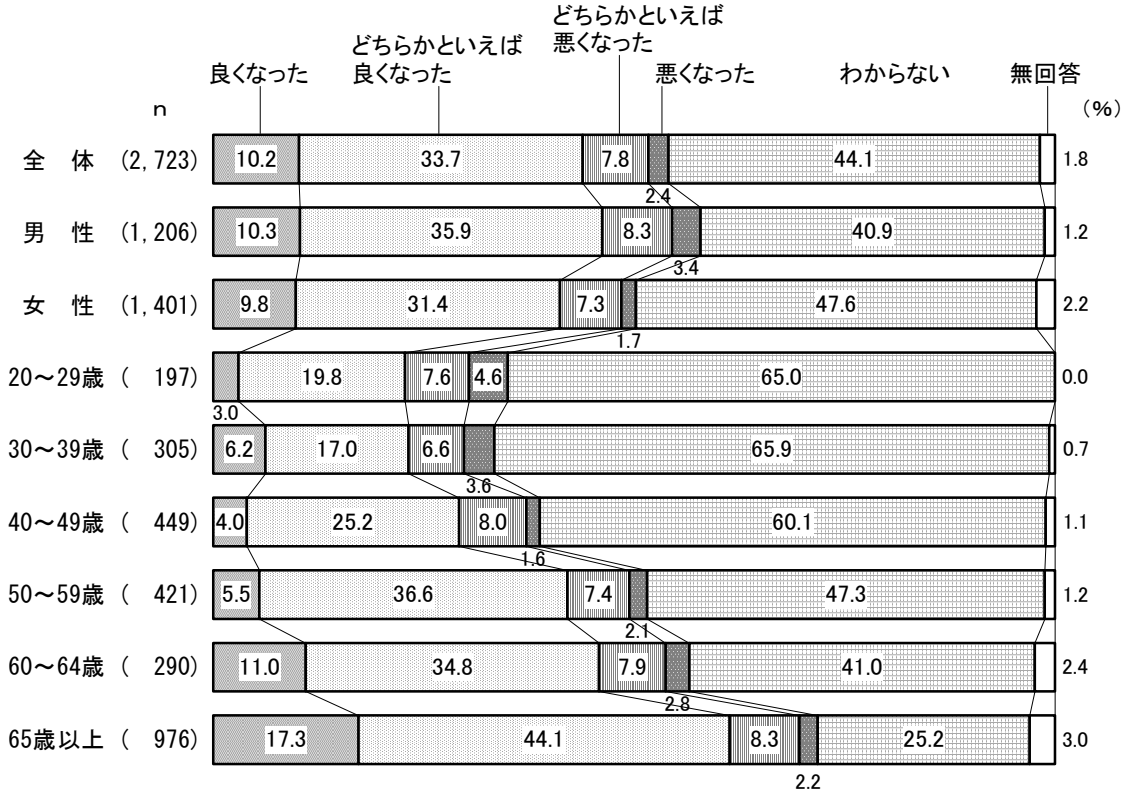
図４－31－１　市の生活環境－全体、経年比較



市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べどうなったと思うか聞いたところ、「良くなった」（10.2%）と「どちらかといえば良くなった」（33.7%）を合わせた≪良くなった≫（43.9%）が４割強となっている。一方、「どちらかといえば悪くなった」（7.8%）と「悪くなった」（2.4%）を合わせた≪悪くなった≫（10.2%）が約１割となっている。

前回調査と比較すると、≪良くなった≫（43.9%）は4.5ポイント増加している。（図４－31－１）

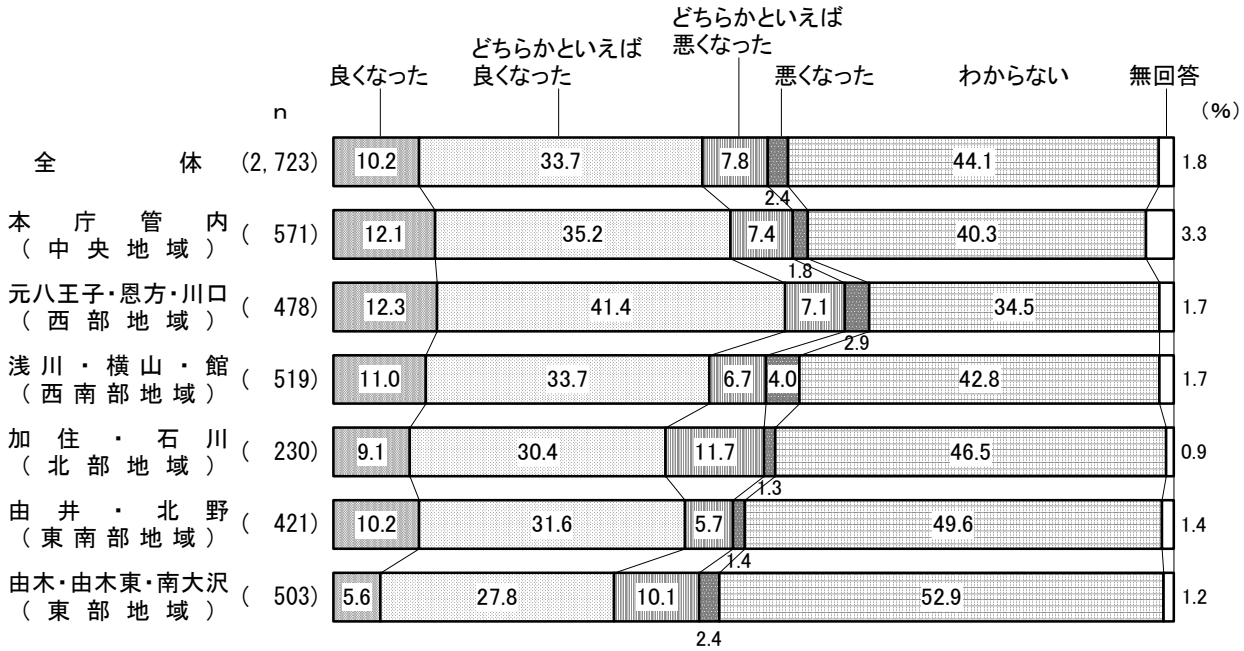
図４－31－２　市の生活環境－性別・年齢別



性別にみると、≪良くなった≫は男性（46.2%）が女性（41.2%）より5.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、≪良くなった≫は高い年代ほど割合が多くなっており、65歳以上（61.4%）で６割強と多くなっている。（図４－31－２）

図４－31－３　市の生活環境－居住地域別



居住地域別にみると、≪良くなった≫は元八王子・恩方・川口（西部地域）（53.7%）で５割強と多くなっている。（図４－31－３）

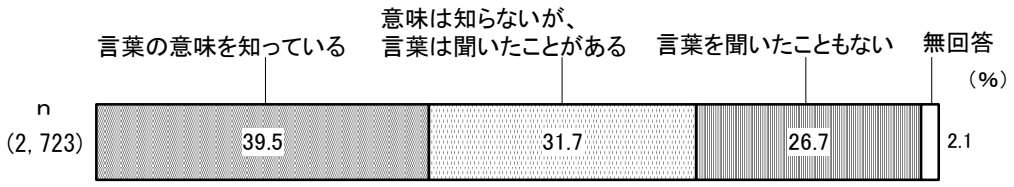
(32)「生物多様性」の周知度

◇「言葉の意味を知っている」が４割弱

問45　あなたは、「生物多様性」という言葉を知っていますか。（○は１つだけ）

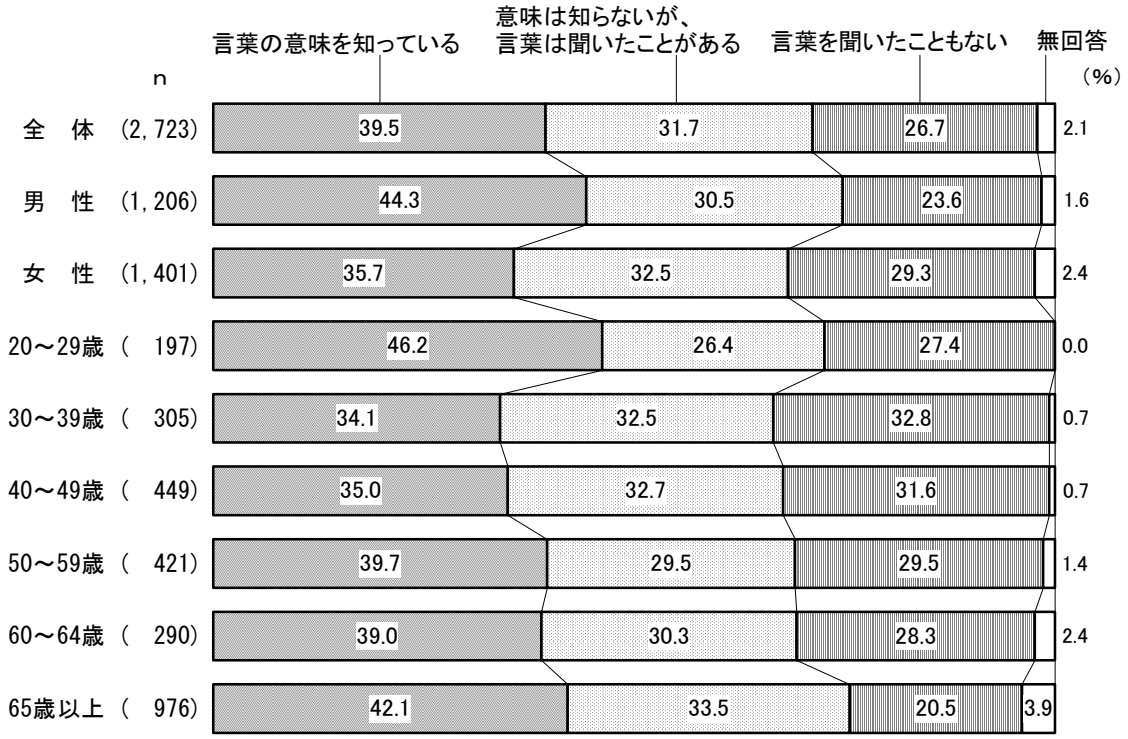
※生物多様性とは・・・
動物や植物、昆虫などのいろいろな生きものがいて、それらがつながり合っていることをいいます。この生きものたちのつながりにより、地球では豊かな生態系が保たれています。生物多様性は、衣・食・住だけではなく、きれいな水や空気、薬の原料、文化の源泉など、様々な恵みをもたらしてくれます。

図４－32－１　「生物多様性」の周知度－全体



「生物多様性」という言葉を知っているか聞いたところ、「言葉の意味を知っている」（39.5%）が４割弱となっている。「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」（31.7%）は３割強で、「言葉を聞いたこともない」（26.7%）が３割近くとなっている。（図４－32－１）

図４－32－２　「生物多様性」の周知度－性別・年齢別

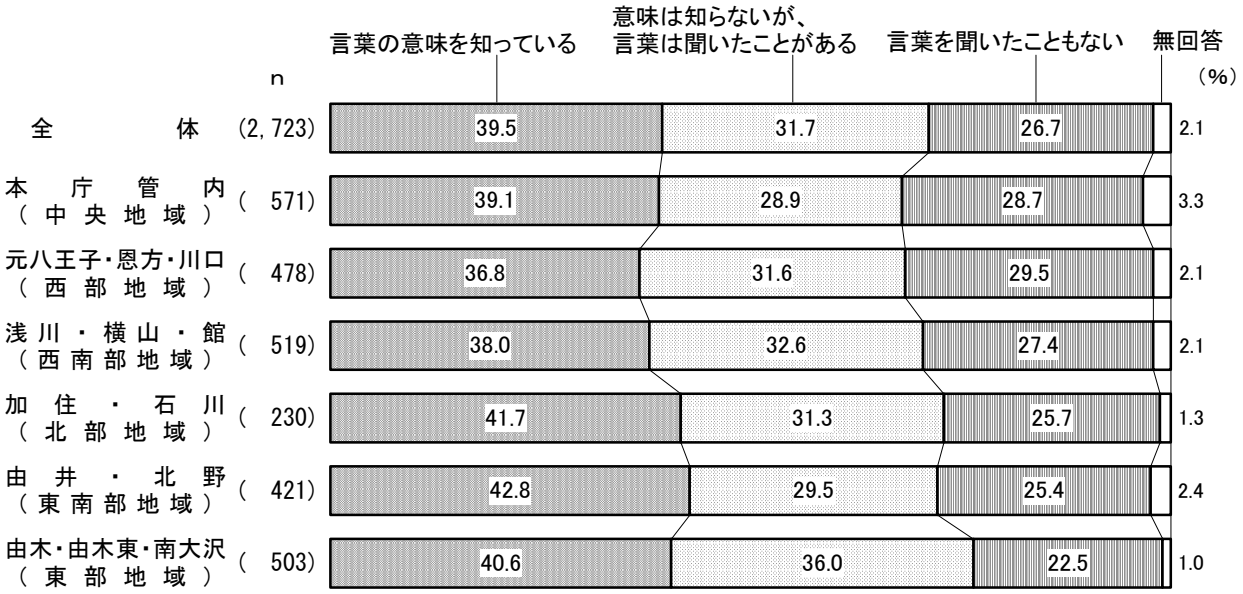


性別にみると、「言葉の意味を知っている」は男性（44.3%）が女性（35.7%）より8.6ポイント高くなっている。「言葉を聞いたこともない」は女性（29.3%）が男性（23.6%）より5.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「言葉の意味を知っている」は20～29歳（46.2%）で５割近くと多くなっている。「言葉を聞いたこともない」は30～39歳（32.8%）で最も多く３割強となっている。

（図４－32－２）

図４－32－３　「生物多様性」の周知度－居住地域別



居住地域別にみると、「言葉の意味を知っている」は由井・北野（東南部地域）（42.8%）で最も多く４割強となっている。「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（36.0%）で４割近くと多くなっている。（図４－32－３）

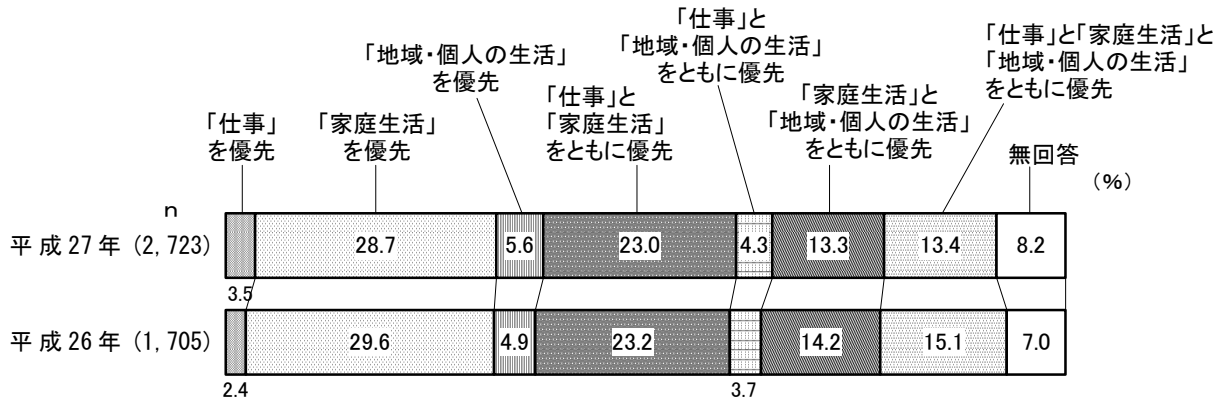
(33) ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度

◇希望する優先度は「『家庭生活』を優先」が３割近く

問46　仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度についてあてはまるものに○をつけてください。（○はそれぞれ１つだけ）

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・
　人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

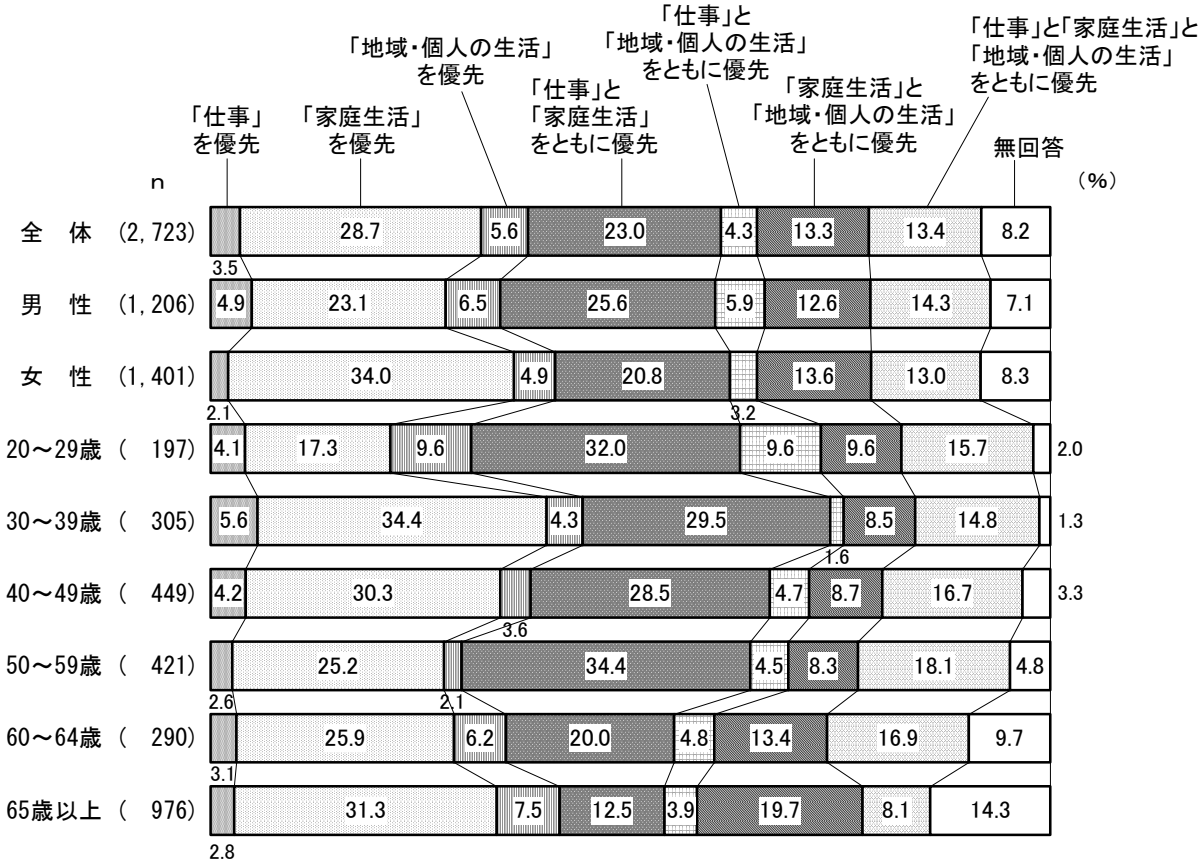
図４－33－１　ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度－全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、希望する優先度を聞いたところ、「『家庭生活』を優先」(28.7%) が最も多く３割近くとなっている。次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(23.0%)、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」(13.4%)、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」(13.3%) などの順となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。（図４－33－１）

図４－33－２　ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度－性別・年齢別

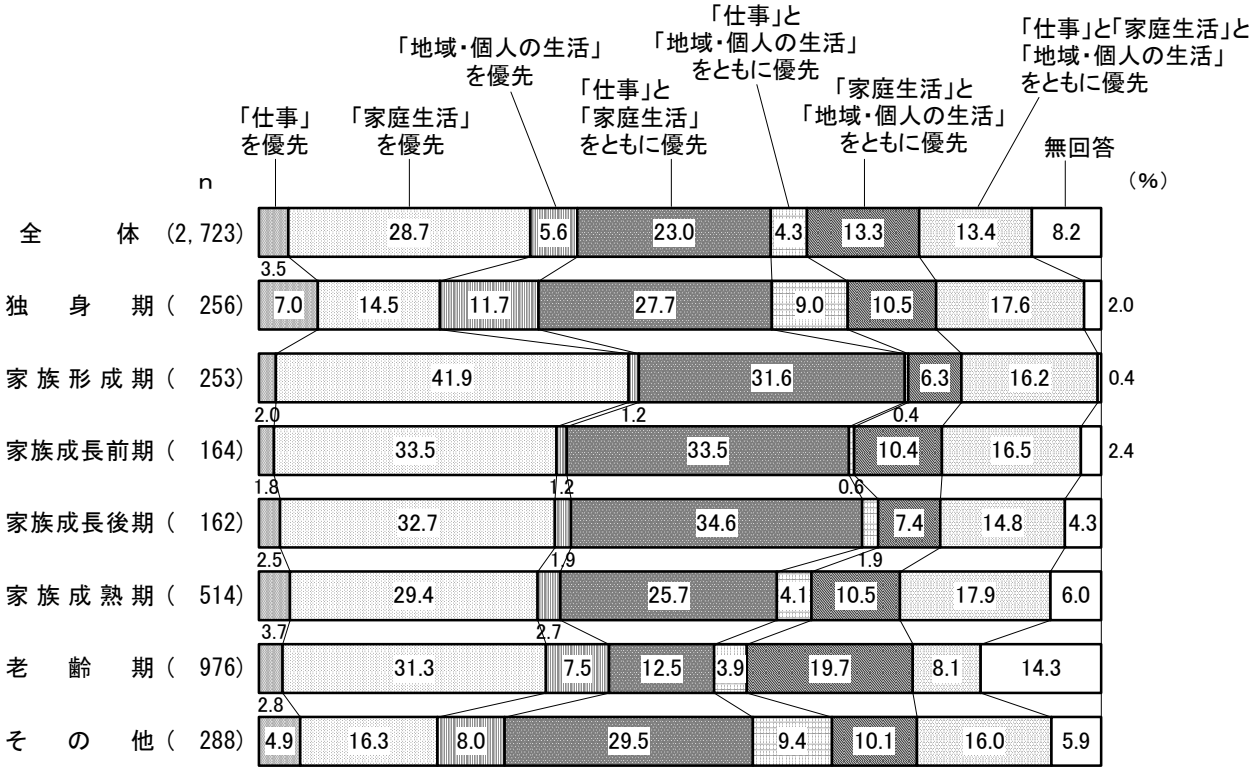


性別にみると、「『家庭生活』を優先」は女性（34.0%）が男性（23.1%）より10.9ポイント高くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は男性（25.6%）が女性（20.8%）より4.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「『家庭生活』を優先」は30～39歳（34.4%）で３割台半ばと多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は50～59歳（34.4%）で３割台半ばと多くなっている。「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」は65歳以上（19.7%）で２割弱と多くなっている。

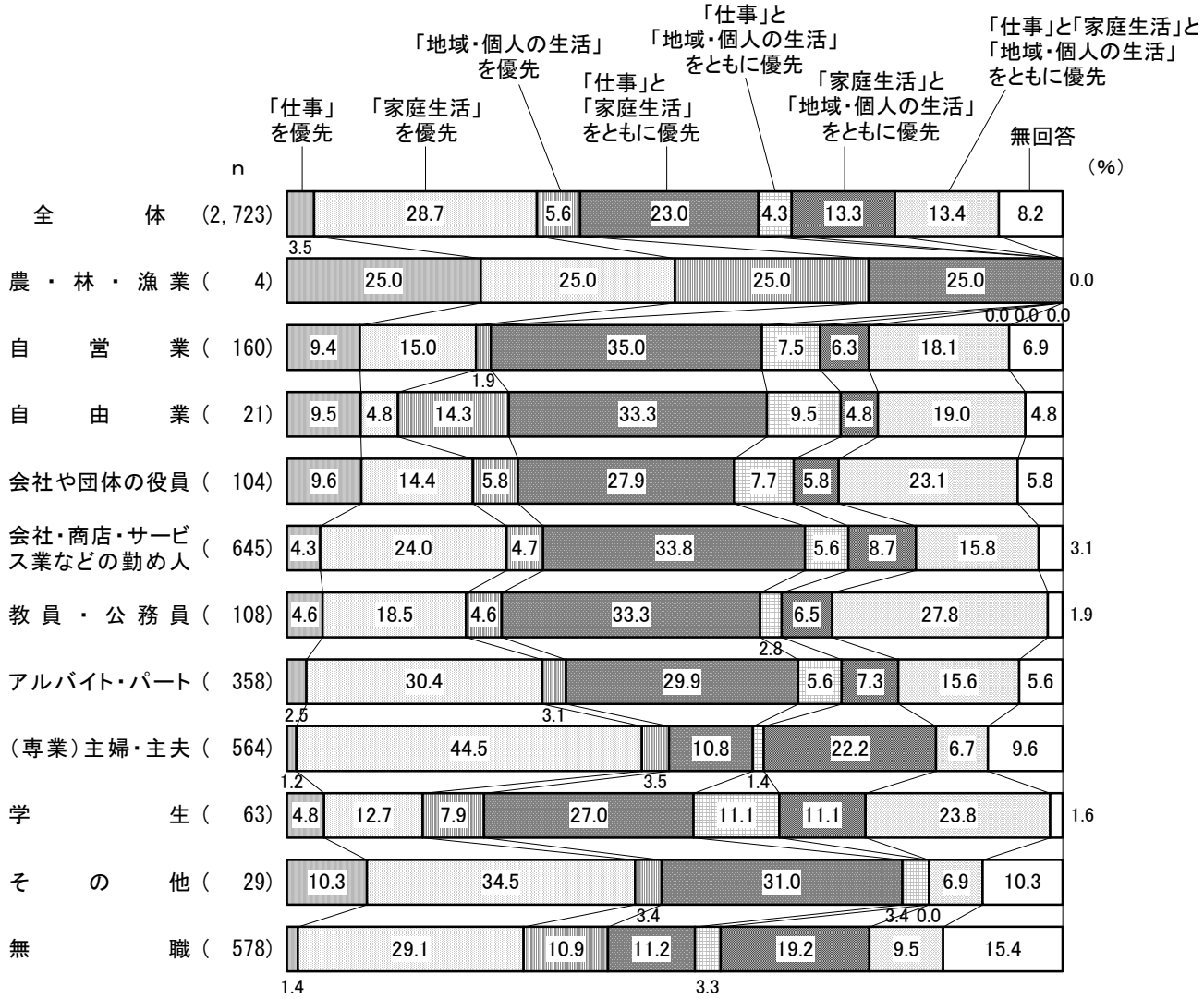
（図４－33－２）

図４－33－３　ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「『家庭生活』を優先」は家族形成期（41.9%）で４割強と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は家族成長後期（34.6%）で３割台半ばと多くなっている。「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」は老齢期（19.7%）で２割弱と多くなっている。（図４－33－３）

図４－33－４　ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度－職業別



職業別にみると、「『家庭生活』を優先」は（専業）主婦・主夫（44.5%）で４割台半ばと多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は自営業（35.0%）で３割台半ばと多くなっている。「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」は（専業）主婦・主夫（22.2%）で２割強と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」は教員・公務員（27.8%）で３割近くと多くなっている。（図４－33－４）

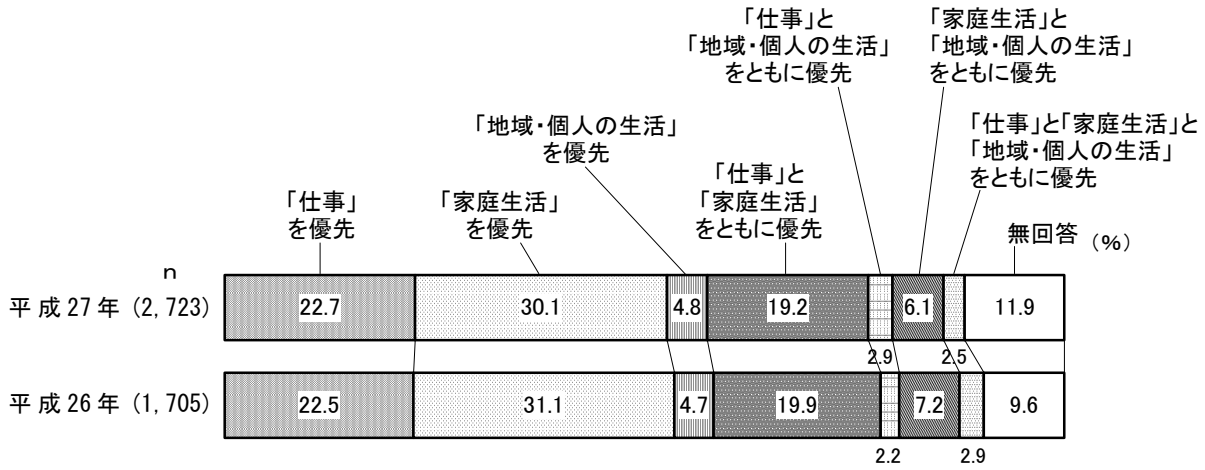
（34）ワークライフバランスの周知度 ②実際の優先度

◇実際の優先度は「『家庭生活』を優先」が約３割

問46　仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度についてあてはまるものに○をつけてください。（○はそれぞれ１つだけ）

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・
　人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

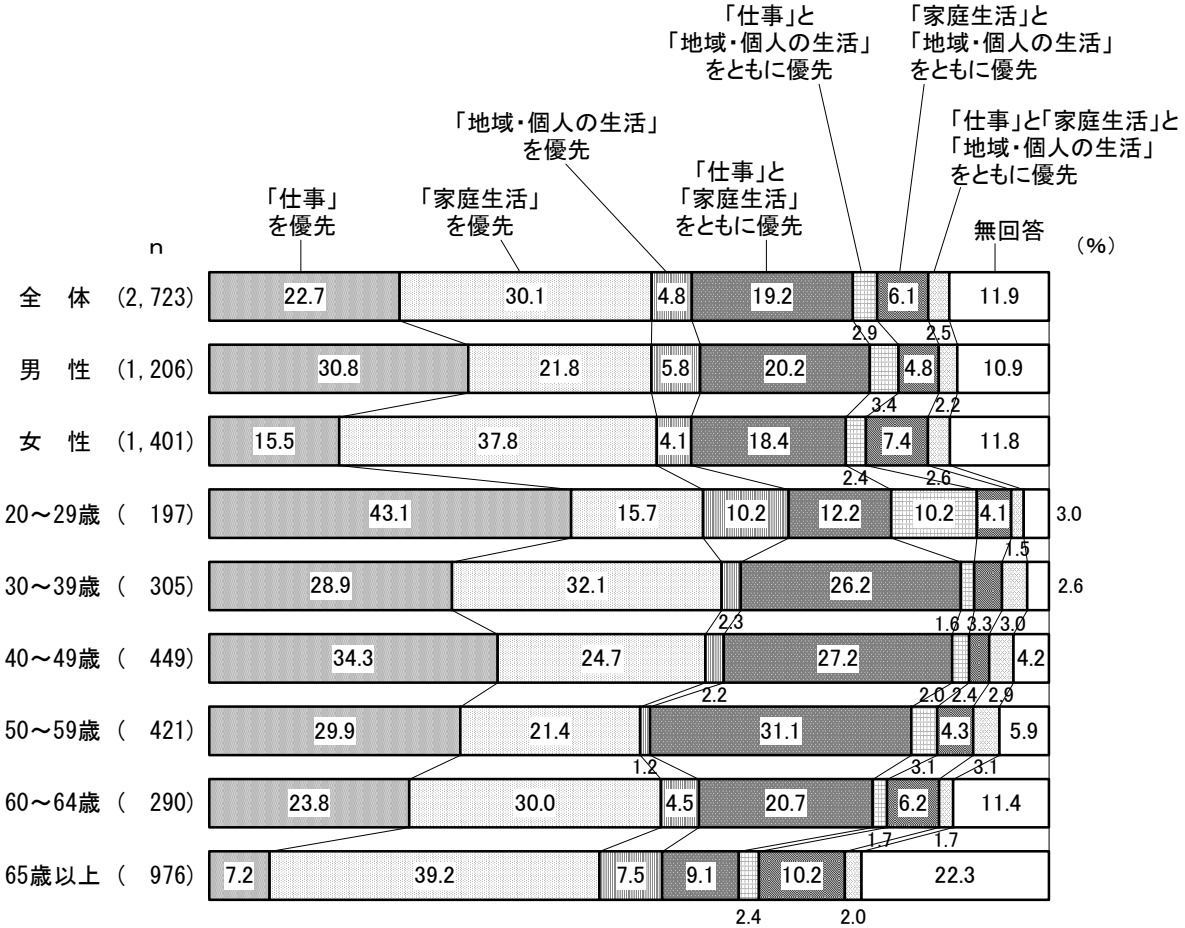
図４－34－１　ワークライフバランスの周知度 ②実際の優先度－全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、実際の優先度を聞いたところ、「『家庭生活』を優先」（30.1%）が最も多く約３割となっている。次いで「『仕事』を優先」（22.7%）、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（19.2%）などの順となっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。（図４－34－１）

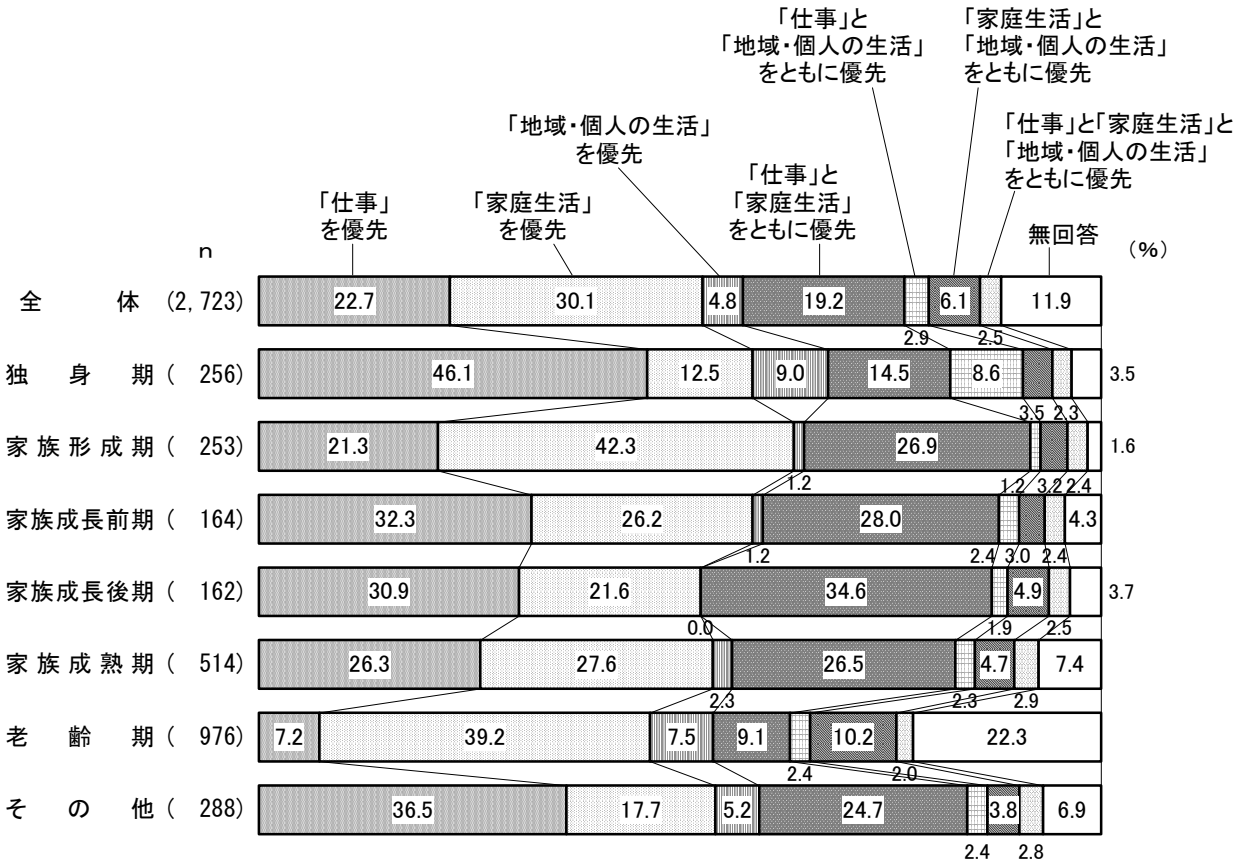
図４－34－２　ワークライフバランスの周知度 ②実際の優先度－性別・年齢別



性別にみると、「『家庭生活』を優先」は女性（37.8%）が男性（21.8%）より16.0ポイント高くなっている。「『仕事』を優先」は男性（30.8%）が女性（15.5%）より15.3ポイント高くなっている。

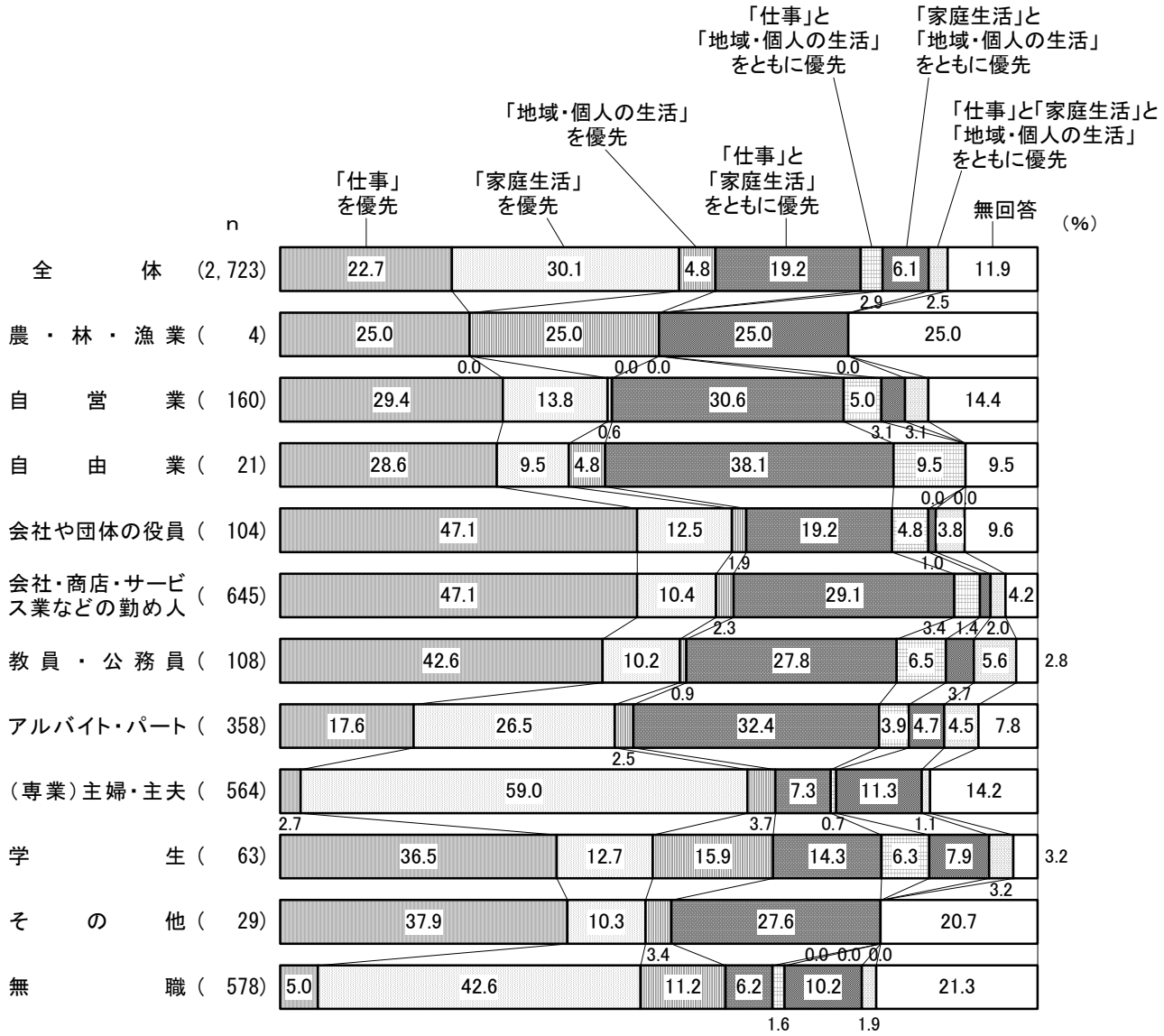
年齢別にみると、「『家庭生活』を優先」は65歳以上（39.2%）で４割弱と多くなっている。「『仕事』を優先」は20～29歳（43.1%）で４割強と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は50～59歳（31.1%）で３割強と多くなっている。（図４－34－２）

図４－34－３　ワークライフバランスの周知度 ②実際の優先度－ライフステージ別



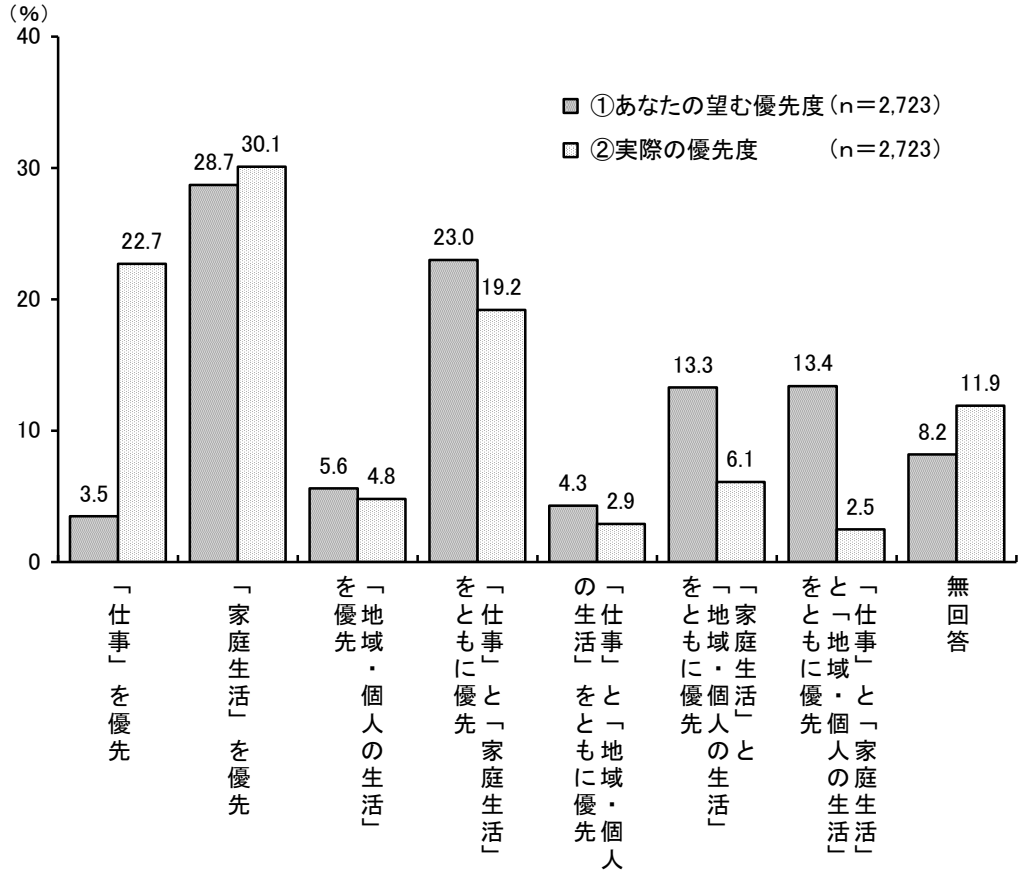
ライフステージ別にみると、「『家庭生活』を優先」は家族形成期（42.3%）で４割強と多くなっている。「『仕事』を優先」は独身期（46.1%）で５割近くと多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は家族成長後期（34.6%）で３割台半ばと多くなっている。（図４－34－３）

図４－34－４　ワークライフバランスの周知度 ②実際の優先度－職業別



職業別にみると、「『家庭生活』を優先」は（専業）主婦・主夫（59.0%）で６割弱と多くなっている。「『仕事』を優先」は会社や団体の役員（47.1%）と会社・商店・サービス業などの勤め人（47.1%）で５割近くと多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は自由業（38.1%）で４割近くと多くなっている。（図４－34－４）

図４－34－５　ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度と②実際の優先度



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度について比較したところ、「『仕事』を優先」は、②実際の優先度（22.7%）が①希望する優先度（3.5%）を19.2ポイント上回っている。「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」は、①希望する優先度（13.4%）が②実際の優先度（2.5%）を10.9ポイント上回っている。「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」は、①希望する優先度（13.3%）が②実際の優先度（6.1%）を7.2ポイント上回っている。（図４－34－５）

図４－34－６　ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度－②実際の優先度別

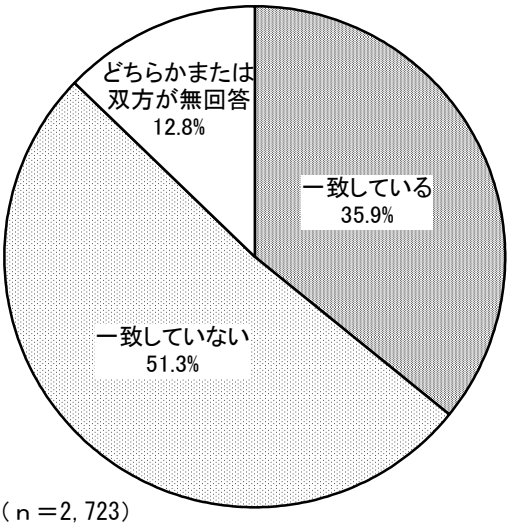
（%）

		基数（n）	①あなたの望む優先度							
			「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	無回答
全体		2,723	3.5	28.7	5.6	23.0	4.3	13.3	13.4	8.2
②実際の優先度	「仕事」を優先	617	9.1	20.3	5.3	38.1	6.6	7.3	12.6	0.6
	「家庭生活」を優先	820	1.7	56.8	5.4	11.0	1.7	15.7	6.3	1.3
	「地域・個人の生活」を優先	130	4.6	10.8	36.2	5.4	8.5	18.5	13.8	2.3
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	522	1.1	17.8	1.0	46.9	3.1	6.1	23.0	1.0
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	78	3.8	7.7	6.4	12.8	30.8	11.5	26.9	－
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	166	0.6	14.5	4.2	3.6	2.4	57.8	15.7	1.2
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	67	1.5	11.9	1.5	7.5	1.5	9.0	65.7	1.5
	無回答	323	2.8	14.2	3.1	8.7	1.9	6.2	1.9	61.3

（注）　は項目内での最高値

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度の相関をみると、実際には「『仕事』を優先」している人のうち、「『仕事』を優先」することを希望する人（9.1%）は１割弱となっており、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」することを希望する人（38.1%）が４割近くで最も多くなっている。また、実際には「『仕事』を優先」以外と回答した人の中では、①希望する優先度と②実際の優先度は、一致している人の割合がそれぞれ最も多くなっている。（図４－34－６）

図４－34－７　ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度と②実際の優先度の一致



（ｎ＝2,723）

図４－34－６に示した、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度の相関をもとに、２つの回答が一致した人、すなわち①希望する優先度のとおりに②実際の優先度が実現できている人の割合（35.9%）は３割台半ばとなっている。

一方、２つの回答が一致しない人、すなわち①希望する優先度のとおりに②実際の優先度が実現できていない人の割合（51.3%）は５割強となっている。（図４－34－７）

（35）市の相談体制の満足度

◇≪そう思う≫が３割強

問47　あなたは、市が実施する相談体制は充実していると思いますか。（○は１つだけ）

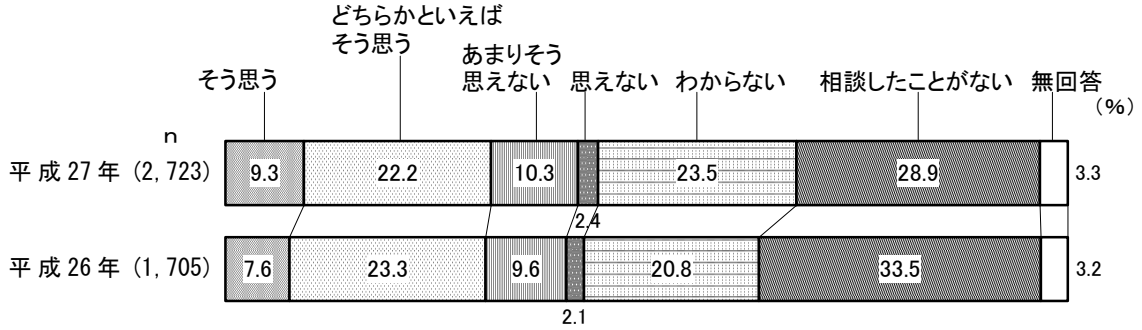
※市では、専門機関・専門家と連携し、下記のような相談を行っています。

○人権、女性福祉、女性のための相談
○法律、司法書士法律、不動産、登記、相続・遺言等暮らしの手続
○年金・雇用保険・労働条件
○交通事故　○税金、行政　○消費生活
○外国人のための生活相談
○団塊・シニア世代の地域参加支援
○住まいのなんでも相談、建築に関する無料相談
○高齢者総合
○ひとり親家庭、子ども家庭総合、専門家による子育て相談、総合教育相談室、こども電話相談
○あなたの心の相談室、こころの健康相談、就職などの心の悩み相談
○ＨＩＶに関する相談、保健福祉・栄養相談、理学療法士による健康相談

など

※これらの相談の「日時・会場・問い合わせ先」については、広報はちおうじの「相談カレンダー」（毎月１日号に掲載）や、市ホームページをご覧ください。

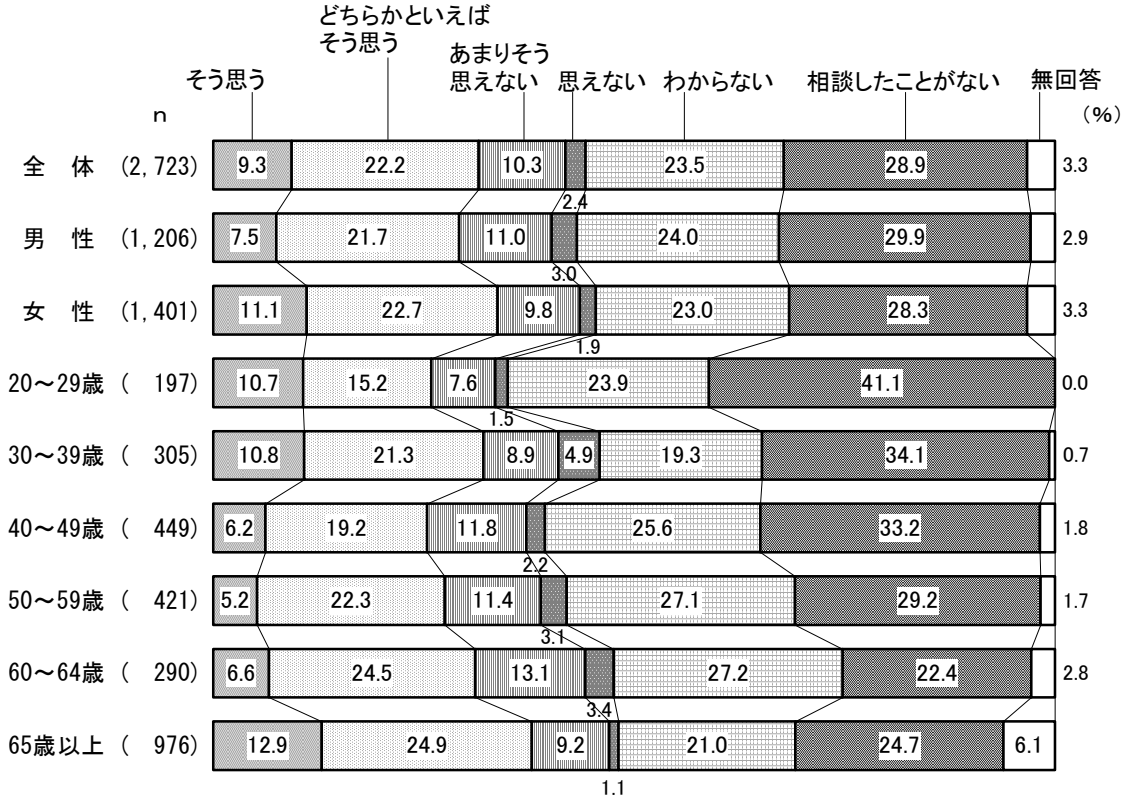
図４－35－１　市の相談体制の満足度－全体、経年比較



市が実施する相談体制は充実していると思うか聞いたところ、「そう思う」（9.3%）と「どちらかといえばそう思う」（22.2%）を合わせた≪そう思う≫（31.5%）は３割強となっている。一方、「あまりそう思えない」（10.3%）と「思えない」（2.4%）を合わせた≪そう思えない≫（12.7%）は１割強となっている。また、「相談したことがない」（28.9%）は３割近くとなっている。

前回調査と比較すると、≪そう思う≫と≪そう思えない≫の割合は、大きな傾向の変化はみられない。（図４－35－１）

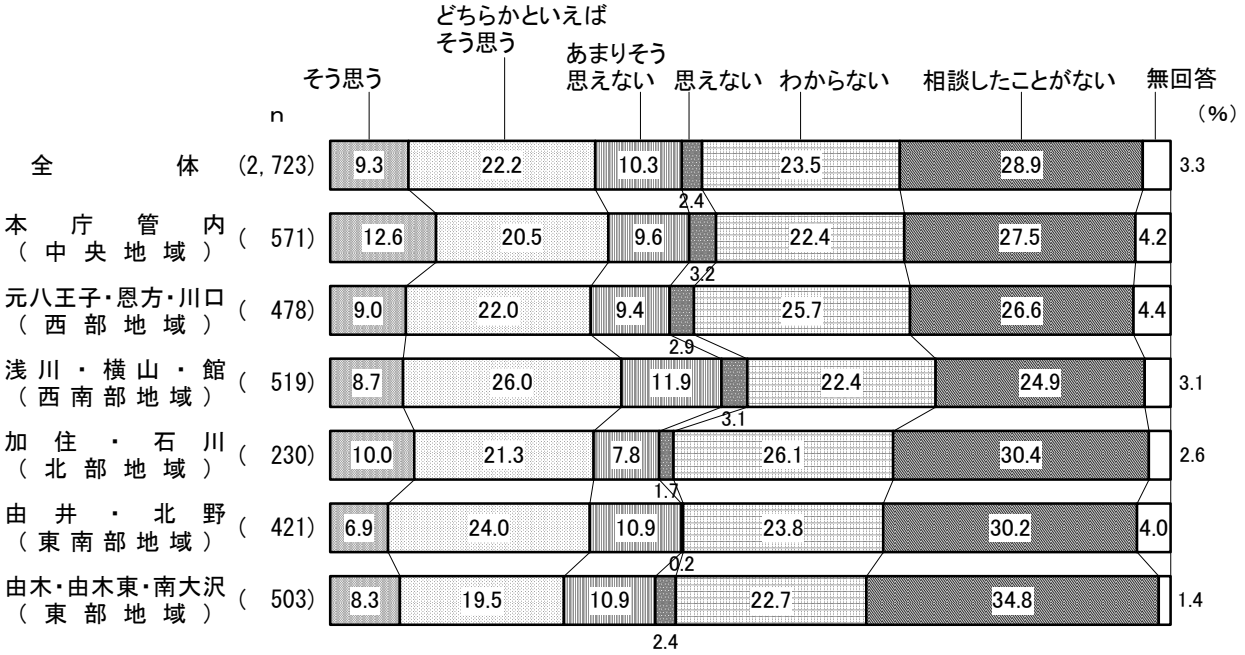
図４－35－２　市の相談体制の満足度－性別・年齢別



性別にみると、≪そう思う≫は女性（33.8%）が男性（29.2%）より4.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、≪そう思う≫は65歳以上（37.8%）で４割近くと多くなっている。一方、≪そう思えない≫は60～64歳（16.5%）で２割近くと多くなっている。（図４－35－２）

図４－35－３　市の相談体制の満足度－居住地域別



居住地域別にみると、≪そう思う≫は浅川・横山・館（西南部地域）（34.7%）で３割台半ばと多くなっている。（図４－35－３）